

ISSN 1344-7920

名古屋大学医学部保健学科

教 育 ・ 研 究 年 報

第 8 卷



*Annual Report
of
Nagoya University School of Health Sciences*

2005

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報第8巻の刊行によせて

名古屋大学医学部保健学科長

古池保雄

平成17年度は名古屋大学医学部保健学科にとって、念願であった新校舎の建設が認可された記念すべき年となりました。「本館改築」の前段階としての新棟建設許可は得られましたが、残念ながら、その後引続き予定されていた本来の目的である「本館改築」は後年度に延期されました。保健学科としては昭和19年築の名古屋大学の中で唯一の戦前の建物を、新たな装いのもとで大幸キャンパスの中心校舎とするべく、教職員の声が届くよう努力を続けていきたいと思えます。

本学保健学科の大学院博士課程後期課程は来年度（平成18年度）1年で、設置審の規定する学年進行は完了し、本学保健学科大学院の枠組みは完成します。

平成17年度は大学院の整備が大学改革の要となることが提案され（「中教審」答申；平成17年9月）、全国の各大学でこの「答申」に対する対応が議論されています。本学保健学科でも平成17年度FDとして、この点を取りあげ、本学保健学科大学院の現状評価と課題について議論を重ねています。

大学院の問題が重視され、本学保健学科ではその大枠が完成した段階では、大学院の教育・研究機能の整備拡充が最大の課題となっています。この点に関しては、第一に設置審の枠を離れて、教授選考内規に基づく選考が開始されたことが重要と思えます。教授選考は本学保健学科の将来像をどのようにでも変化させる事のできる最も重要な課題であり、この選考を確実に進めていく事は大学改革の要となるものと思えます。そのためにも、本学保健学科大学院がどのような大学院を目指すのかの理念をより明確にする事が求められていると思えます。

第二に、この間、外部委員の御協力も得て、倫理委員会保健学科部会の活発な活動がありました。ヒトを対象とすることの多い本学保健学科にとって、研究における倫理を相互に学ぶ貴重な場となったと思えます。

第三に大幸地区の開発計画が総長から提案され、名古屋大学の中期計画に書込まれました。この計画＝「ライフピア計画」では、本学保健学科流の新たな資格を目指す、「高度な専門職業人」養成プログラムを作成する事や、医工連携、文理融合の理念の基に、共同研究プロジェクトを立ち上げ、さらには産官学連携による共同作業（寄付講座、受託研究、共同研究など）を行ない、最終的に概算要求として「ライフピア研究機構」を目指そうとするものです。本学保健学科にとっては当面する最大の課題と思え、全学の叡智を集めて成功させたいと思えます。

私たちの努力が社会の負託に応え得るものであれば、社会からの支援が得られ発展の可能性を得る事ができましょう。絶えざる努力の一つの形がこの年報に結実しています。

目 次

1. 各専攻の教育・研究活動	1
2. 公開講座	21
3. 業績	29
看護学専攻	31
放射線技術科学専攻	59
検査技術科学専攻	79
理学療法学専攻	107
作業療法学専攻	119

1. 各専攻の教育・研究活動
(平成16年度)

看護学専攻

平成16年度より、国立大学における中部地区唯一看護学博士前期・後期課程の一貫した教育システムのある大学とした。専攻においては、博士課程設置の評価として、「今後における中・長期計画アクションプラン」を作成し専攻内での共有化をはかった。

その「中・長期計画アクションプラン」として、①看護学専攻における重点課題（COE等）の明確化、②看護学研究課題の共有化・明確化・独自性の確保、研究プロジェクトマップの作成、③他専攻、他分野との合同研究を視野に入れた新たな研究プロジェクトの立ち上げ等、各教員の目標として取り組んできた。

1. 運営

1) 教員の構成

本専攻は基礎看護学講座11名（10月より10名）、臨床看護学講座8名、発達看護学講座10名、地域・在宅看護学講座8名の37名（36名）により構成されている。看護学専攻会議（通常、教授と助教授による）は月1～2回開催している。各講座の代表者（講座長）会議、各講座は助手を含む全員で毎月講座会議がもたれている。

効果的な実習を行うために、附属病院看護部との専門委員会を年2回、また、地域看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域においても各実習施設との委員会を適宜開催、運営を行っている。

2) 教員の転任、辞職等（平成16年1月から平成17年3月までの移動）

《辞職》

基礎看護学講座：渡邊順子助教授	臨床看護学講座：松村悠子教授
：勝山貴美子助手	：片岡秋子助教授
：野坂久美子助手	：西川晶子助手
	：長谷川純子助手
発達看護学講座：赤川里美助手	地域・在宅看護学講座：門田直美助手

《採用》

基礎看護学講座：太田勝正教授	臨床看護学講座：池松裕子教授
：新実夕香理助手	：堀 容子助教授
：樋口香織助手	：澤井美穂助手
：牧野雅子助手	
発達看護学講座：奈良間美保教授	地域・在宅看護学講座：桜井志保助手
：鈴木和代教授	
：高橋由紀助手	

2. 教育活動

1) 学生について

平成16年3月、保健学科第3期生の卒業式が行われ看護学専攻卒業生87名が社会人として巣立っていき、同年4月5日、新入生79名と編入生10名が入学。更に、医学系研究科前期課程20名（基礎看護学分野3名、臨床看護学分野7名、発達看護学分野10名）が入学し、平成16年3月には16名の修了生を送り出した。同時に平成16年度後期課程9名（健康障害看護学分野2名、健康発達看護学分野4名）が入学した。

2) ガイダンスについて

《学部生》

3月31日 新2・3・4・編入4年生共通当初ガイダンス
カリキュラム、学生生活、健康管理
新3年生：特論、実習計画について
新4年生：研究法（卒論）、進路・就職関係、国家試験対策等について

4月2日 編入3年生

カリキュラム、実習計画、健康管理、合宿研修

《博士前期課程・後期課程新入生》

4月5日 カリキュラム、研究計画書・倫理審査、学生生活等について

3) 新入生研修合宿

4月24日(土)、25日(日):愛知県青年の家(岡崎市)にて開催

新1年生(79名)、編入3年生(8名)、上級生(30名)、教員(11名)が出席。

合宿をきっかけに教員や上級生との交流を持ち、不安・疑問に感じていることを解決することを目的としている。

4) 感染対策について

平井教授を中心に、学生ガイダンスにおいて感染予防における適切な検査やワクチン接種の必要性などの徹底指導を行った。また、各講座の協力により、ツベルクリン反応(2段階法)を実施し感染予防につとめている。

実習における感染予防対策についてもユニフィケーション委員会に参加し、看護部に対して、現状を説明し理解を得ている。

5) 国家試験状況について(平成17年3月卒業)

国家試験合格については保健師89.4%、助産師100%、看護師94.9%

6) 博士前期課程について(平成16年4月から平成17年3月まで)

前期修了2名を含め18名の修士論文発表会を行った。以下発表論文の題目名及び主たる指導教員名の紹介をする。

平成16年9月28日 2名の発表会をもった。

《臨床看護分野学発表》1題

「ICUに勤務する看護師の自己効力感に関する研究」

加藤由美(渡邊憲子教授)

《発達看護学分野発表》1題

「育児不安軽減のための看護支援に関する研究」

尾関唯未(浅野みどり教授)

平成17年3月15日 16名の発表会をもった。

《基礎看護分野発表》5題

「乳がん再発患者のQuality of Lifeに関する研究」

大谷かがり(河津芳子教授)

「口腔内刺激が高次脳機能障害に与える影響」

窪園美津子(山内豊明教授)

「ヒヤリ・ハット報告におけるチューブ類の自己除去に関する発生要因および発生状況の傾向」

千本美紀(山内豊明教授)

「医療従事者における二段階法ツベルクリン反応検査の有用性」

藤田なつこ(平井眞理教授)

「看護学生における麻疹ワクチン追加接種の意義に関する研究」

横田知子(平井眞理教授)

《臨床看護分野学発表》5題

「重症成人アトピー性皮膚炎患者の認知行動療法的アプローチの効果」

後藤由美(水溪雅子教授)

「ICU入室患者の家族に関する研究」

江尻晴美(渡邊憲子教授)

「総合失調症患者に対する音楽療法評価表作成の試み」

城森 泉(水溪雅子教授)

「ストーマ保有者とその家族のライフコースに関する研究」

竹井留美（前川厚子教授）

「脳神経外科患者に対する看護技術の分析」

堀井直子（渡邊憲子教授）

《発達看護学分野発表》8題

「出産後における親性支援に関する研究」

大橋幸美（森田せつ子教授）

「幼児をもつ父親の育児・家事行動に影響する因子」

森田芳江（吉田久美子助教授・梶田悦子教授）

「不妊治療を受けている女性の対処行動に関する研究」

渡邊実香（森田せつ子教授）

「自閉症児を育てる家族の家族機能と看護職の役割に関する研究」

小林加奈（浅野みどり教授）

「アトピー性皮膚炎の子どもをもつ母親の育児ストレスと家族機能」

都築知香枝（石黒彩子教授）

「高齢者筋力強化教室の評価に関する研究」

原田直子（榊原久孝教授）

7) カリキュラム検討について

平成14年度に改正した新カリキュラムのさらなる検討のために、平成16年度にカリキュラム検討小委員会を立ち上げて、現行カリキュラムの評価を行った。「看護教育の在り方に関する検討会」から報告されている「看護実践能力」19項目が、本学カリキュラムにおいてどのように構成されているのか、教育目標をもとに作成した領域共通の実習評価表19項目は対応しているのか等について検討した。その結果、講義・実習の内容はほぼ妥当であることが確認されたが、科目の順序性や老年看護学の科目設定や担当者等の問題も再確認され、今後の検討課題となった
委員長：奈良間教授、委員：遠藤助教授、神里助教授、濱松助教授、堀助教授、吉田助教授、渋谷助手

3. 研究活動

現在取り組んでいる研究テーマを講座別に紹介する。

《基礎看護学》

後藤節子 教授：周産期の精神的健康支援に関する文理複合研究（プロジェクト）
不定愁訴をきたす病態への生理学的アプローチ

河津芳子 教授：教育効果の定着性に関する研究

山内豊明 教授：看護におけるフィジカルアセスメント教育に関するアウトカム評価研究
医療チューブ類事故防止対策に関する学際的探索研究
医療事故防止のためのヒヤリ・ハット事例の定量的分析に関する研究
難病訪問看護実践に必要なとされるアセスメント技能に関する研究

太田勝正 教授：患者情報の共有における情報プライバシーの問題

神里みどり 助教授：炎症性腸疾患患者の保健・医療・福祉ニーズの現況

遠藤淑美 助教授：統合失調症患者の自我発達を支援する看護援助のアセスメントおよびチェックリストの開発
悪性腫瘍を併発した精神疾患患者の終末期看護に関わる研究

樋口香織 助手：心臓手術後患者の退院後の生活に対する不安の変化

《臨床看護学》

水溪雅子 教授：看護師の看護活動における感情に関する研究
統合失調症の2人の息子を持つ家族システム面接の試みと課題

渡邊憲子 教授：ストーマ保有者の人生の満足度や大地震への対策に関する研究
認知症高齢者のADL崩壊過程とその対策に関する研究

池松裕子 教授：心タンポナーゼ患者の Dysphoria について

安藤 詳子 教授：緩和ケア病棟・緩和チーム・在宅ホスピスに関連する研究、がんの集学的治療及び高度先端医療における看護に関連する研究

堀 容子 助教授：高血圧と生活習慣に関する研究
高血圧の疾患管理に関する研究

《発達看護学》

森田せつ子 教授：少子化時代における育児期間にある二世代間関係に関する研究

奈良間美保 教授：在宅療養児の包括的看護の確立にむけたコーディネーター育成プログラムの開発

浅野みどり 教授：アレルギー児の QOL を考えるプロジェクト；喘息をもつ学童期の子どもの QOL 調査票 (JSCA-QOL Ver3) を完成
発達障害児を育てる家族の育児支援・サポート

鈴木和代 教授：出生直後のカンガールケアにおける母子の安全なポジションの検討

濱松加寸子 助教授：市民主導型の地域づくりにむけての総合的な調査・研究—地域医療・看護、地域福祉を含ままちづくりの構築—
医療と福祉の連携に関する研究

《地域・在宅看護学》

榊原久孝 教授：生活習慣病予防支援プログラムの開発
肥満と産業ストレスとに関する研究
生活習慣病予防の保健活動に関する研究

梶田悦子 教授：地域高齢者の大腿骨頸部骨折予防のための地域看護モデルの構築
温泉利用健康増進施設が住民の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究

前川厚子 教授：ストーマ保有者のスキンケアと生きる意欲の研究
炎症性腸疾患患者の生活・福祉ニーズと QOL 関連要因
睡眠障害の研究

ストーマ保有者の自己適応尺度英語バージョン開発と日英比較研究

平井真理 教授：在宅医療におけるインターネット活用に関する研究
—インターネット対応心電計による伝送心電図等の応用—

吉田久美子 助教授：地域保健における子ども虐待予防ネットワーク構築の検討
—保健・医療・福祉・教育領域の関係者と住民組織や親と協働でネットワークの構築と評価

桜井志保美 助手：NPO による睡眠に関する地域保健活動

4. 対外的・社会と関わりのある活動

1) 附属病院看護部との関係

①実習委員会を中心に教員による臨床指導者研修講師を担当し、有機的な連携をはかっている。

②ユニフィケーション委員会（仮称）

看護の質の向上推進のため、看護部との円滑な協力関係をはかることを目的に、主任および山内教授、渡邊教授、浅野教授、榊原教授の各講座長、看護部からは中川看護部長、三浦教育担当副看護部長、大宮実習調整師長、永家師長等が中心となり、月1回の委員会をもっている。

主な内容は教育モデル病棟の検討、大学における技術教育の取り組み、学生実習に対する感染対策、CNS がん看護カリキュラム等々である。

③実習委員会

実習全般に関する事項を取り扱い、学内外の調整を行っている。とくに、平成16年度は新カリキュラム後初めて3年生の領域別実習が開始されたことに伴い、実習手引きの改正、補強に取り組んだ。また、感染対策委員と協力して、学生の抗体価把握、予防接種勧奨など感染対策を強化するとともに、「事故発生時の対応経路」「事故、ヒヤ

り・ハット報告書」を作成し、事故対策の整備をすすめた。さらに、台風・暴風雨警報発令時の対応図を作成し明確化した。

実習中の連絡調整の円滑化に向けて、附属病院内の教員用 PHS 機 5 台の導入に向けて取り組み、その取り扱い管理書を作成した。

実習委員長：浅野教授、副委員長：堀助教授、藤井助手、井口助手、渡邊助手、新実助手

2) 日本看護系大学協議会開催の研修会への出席

平成16年1月9日東京医科歯科大学において開催されたFD研修に河津教授、遠藤助教授・吉田助教授の3名が参加。

8月24日看護実践能力検討委員会が岐阜県立看護大学において開催され、太田教授、奈良間教授が参加した

3) 愛知県看護系大学連絡協議会への出席

平成16年11月より、県内看護系6大学（愛知県立看護大学、愛知医科大学看護学部、日本赤十字豊田看護大学、名古屋市立大学看護学部、名古屋大学医学部、藤田保健衛生大学衛生学部）における学術と教育に関する事項の協議をし、看護学教育の推進向上に貢献し、併せて相互の親睦を図ることを目的として発足した。

委員として太田教授、奈良間教授が参加。

〈今後に向けての課題〉

- 1) 名古屋大学の一員としての責任と自覚を新たにする。
- 2) 看護学博士開設という、新たな時代にふさわしい人材の育成と名古屋大学ブランドにおける新規性、独自性に富む研究成果を生み出していきたい。
- 3) そのためには、看護学専攻全体が志を一つとして教育研究体制の大幅な改善を図っていきたい。

(主任：森田せつ子)

放射線技術科学専攻

はじめに

放射線技術科学専攻、並びに、大学院医学系研究科・医療技術学専攻・医用量子科学分野における教育と研究の目標は、医療現場で使われている放射線を利用した種々の医療機器の原理や特性をよく理解し、その能力を最大限引き出すとともに、診断画像からの確かな情報を取り出したり、治療のため人体に的確に放射線を照射したり、また、医療放射線が人体に及ぼすかも知れない影響についての幅広い知識と応用力、さらに専門知識ばかりでなく豊かな人間性を合わせ持つ人材の育成、また、これらの人々を指導していく人材の育成である。一方、研究活動を通しては、将来、医療技術者、研究者、教育者として、日進月歩する医療分野の進歩を理解し、それに適応できるばかりでなく、自ら医療の進歩を創生することが出来る科学者の育成を、教育・研究目標としている。

1. 運営

放射線技術科学専攻（教員は大学院医学系研究科・医療技術学専攻・医用量子科学分野を併担）は、基礎放射線技術学講座と医用放射線技術学講座の2つの講座より構成されている。教育・研究の目標を達成するためには専攻の運営が必要であるが、教育に関するさまざまな問題、教育研究費の予算配分等の運営は、専攻を単位とした毎月1回の専攻会議、並びに、専攻教授会の合議に基づいて行われている。

2. 教育活動

学部教育：

平成16年度の新入学生は、新1年生が41名で、3年次編入者は5名であった。おおむね進級し、卒業する学生が大部分であるが、平成16年度入学生の内1名（2.4%）、平成15年度入学生の内3名（7.5%）、平成14年度入学生の内2名（5.0%）は進路変更のために中途退学した。また平成13年度入学生の内1人（2.5%）が4年生として卒業せずに休学・留年した。

診療放射線技師国家試験は卒業生41人が受験し、そのうちの39人（95.1%）が合格した。編入生を含む卒業生46名の進路は、診療機関に38人、大学院に6人、残り2人（国家試験不合格者）は未就職であった。

学部教育は、専任教員による授業の他に、非常勤講師を招いた特別講義、臨床現場の見学（名古屋大学医学部附属病院をはじめ、学生の出身地や、学生の希望就職病院など）、工場の見学（京都島津製作所三条工場および記念資料館）、放射線管理に関連して原子力発電所の見学（中部電力浜岡原子力発電所）など、将来、医療あるいは生産現場で役に立つと思われる教育活動が行われている。

大学院教育：

平成14年に大学院医学系研究科・医療技術学専攻が創設されたが、平成16年度は、修士課程の最終年度にあたる学生10名が修士論文を提出し、修士の学位を取得した。以下、学生名と修士論文題目を記す。

岩田 徹	小型素子蛍光ガラス線量計システムの安定性試験及び連続測定に対するプレヒート処理の応用
加藤 秀記	心電図同期画像再構成における最適画像再構成時相の検討
駒田 友美	3 Tesla MRI による TOF MRA の検討—MTC pulse の必要性について—
下郷 智弘	透過率データから算出した高エネルギー X 線スペクトルの検討
高橋 康方	X 線 CT 画像における Time Sensitivity Profile の変化と画像への効果の検討
高村 美穂	デジタルマンモグラフィの画質の物理的評価法に関する研究
堤 順子	乳腺腫瘍像形成性病変の超音波診断における読影者間の一致度と判断の再現性の解析
野々村和洋	乳腺腫瘍の圧迫法による動的超音波検査—圧迫法による縦横比の変化と輝度変化による良悪性診断—
宮尾 雄	三次元画像を用いた汎用性の高い体積測定ソフトの開発
森田 康祐	短半減期核種の崩壊図決定

3. 研究活動

当専攻の教官は幅広い専門分野を研究領域としているため、個々の教官が独自の研究活動を行っている。一部にグループによる研究活動、専攻以外との共同の研究活動も行っている。以下には各教官の研究領域を示し、外部と協力して実施している研究活動の一部を示す。

青山隆彦 教授：医療放射線による被ばく線量計測。システム開発並びに被ばく線量の測定・評価。

池田 充 助教授：モニタ診断精度に対するモニタの解像度の影響に関する研究。胸部単純 X 線画像における結節の検出能に対する「解剖学的雑音」の影響に関する研究。コンピュータ診断支援システムに対する画像撮影系の特性と雑音が与える影響に関する研究。ROC 解析の手法に関する研究。

伊藤茂樹 教授：マルチスライス CT を用いた画像診断技法の開発とその臨床応用。腹部（特に肝胆膵領域）の画像診断。胸部（特に肺癌）の画像診断。心血管系の画像診断。vascular interventional radiology.

今井國治 助手（学内講師）：数理統計学及び情報理論を用いた CAD のための画質評価法の構築。高電圧下における誘電・絶縁材料の放電劣化・破壊現象に関する研究。

緒方良至 助手：水素同位体分離に関する研究。環境放射能の測定－特に環境レベルのトリチウムの測定に関する研究。放射線取扱施設の安全管理に関する研究。

小幡康範 教授：原体照射法。生物学的線量評価法・治療領域線量測定法。

川浦稚代 助手（学内講師）：人体ファントム計測システムを用いた医療被ばくの測定・評価。放射線が生体へ及ぼす影響に関する研究。線虫の動態解析システムの開発。線虫を用いた放射線の生物影響評価に関する研究。

小寺吉衛 教授：医用画像の評価法の開発。検出器、表示系を含む医用画像の解析・評価。画質の向上と被曝線量の低減を目的としたデジタル画像処理。3次元画像表示システムの開発。

小林嘉雄 助教授：コンピュータ画像診断支援。

小山修司 講師：診断領域 X 線の計測法の研究。医学における知能情報学の応用。X 線 CT の患者・術者の被ばく線量計測。診断領域 X 線のエネルギー計測。マンモグラフィにおける線量計測。

島本佳寿広 教授：乳腺・甲状腺の画像診断における、特に超音波による悪性腫瘍の診断に関する研究。フィルムレス読影の診断能に与える因子を明らかにし、診断能に悪影響を与えないモニタの基準、読影環境、端末の操作性等を確認する研究。画像診断をすすめる際の診断論理過程を明らかにするとともに、診断医の判断の再現性と一致度を解析することにより、その診断論理の妥当性を検証する研究。

田伏勝義 教授：放射線治療における線量測定。放射線治療の最適照射法・チェレンコフ光の測定への影響。モンテカルロシミュレーションによる線量計算。

田宮 正 助教授：放射線被ばく線量測定法の検討。放射線による損害の認定に関する検討。医用放射性廃棄物の処理に関する検討。

津坂昌利 助教授：診断用 X 線スペクトル測定とその応用に関する研究。IT 活用による医療技術者教育システムの開発。高速画像ネットワークの技術開発と応用。X 線 CT の性能評価に関する研究。CT 画像を用いた診断支援システムの開発。暗号化通信技術の遠隔医療への応用。

成田憲彦 助手：骨密度測定に関する研究。放射線被ばく線量評価に関する研究。

本間光彦 助手：放射線治療領域における放射線計測法に関する研究。CR の応用利用法。人体解剖実習前の X 線撮影に関する研究。放射線カウンセリング。

前田尚利 教授：医用画像観察下における医療従事者の視覚特性の解析とこれを応用した画像評価法の構築。核医学的手法を用いた心臓の収縮の解析。正常および異常な収縮運動をする心臓のファントムの作成。

宮原 洋 教授： $4\pi\beta\text{-}\gamma$ 同時計測法による放射能測定・崩壊核データの精密測定。PET 関係物品からの放射線測定。

4. 対外的な、または社会に関わりある活動

- 1) 放射線障害防止法に基づく放射線業務従事者の新規教育、再教育に講師（エックス線作業主任者講習会講師）として専門知識を社会に還元し、さらには放射線取扱主任者試験受験および X 線作業主任者試験受験のための講義等を行った（宮原、緒方）。
- 2) 日本 ME 学会主催の第二種 ME 技術実力検定試験の試験委員（津坂）および試験監督（小山、成田、緒方、本間）として運営に関わった。
- 3) 日本保健物理学会主催の2004保物セミナー（京都）の実行委員として、セミナーの企画および運営に携わった（緒方）。
- 4) 診療放射線技師を対象に、X 線 CT による患者被ばくの考え方、線量測定に使用される器具、測定の方法、測定値の処理などについて説明し、その具体的な方法について実技指導を行った（小山）。
- 5) 小中高校の教員を対象とする愛知・岐阜・三重地区環境・エネルギー問題セミナーの実行委員として、企画・進行・実験指導を担当した（緒方）。
- 6) 中学生の放射線に対する理解を深めてもらうため、原子の成り立ちから、放射線の種類、放射線の物質との相互作用などにつきわかりやすく解説し、簡易式の放射線測定器を用いた実習を行い、自然に存在する放射線に対する理解を深めてもらった（小山）。

（主任：青山隆彦）

検査技術科学専攻

本専攻は、高度に専門化した医療に対応できる基礎力と応用力を備え、かつ医療人として不可欠な倫理観に裏付けられた豊かな人間性を備えた臨床検査技師、さらに検査技術科学を学問として追及する教育・研究者を育成することを目的としている。病態解析分野は、環境病因解析学、病態化学解析学、病因病態解析学、生体生理解析学、形態情報解析学、分子病態解析学の6領域からなり、先端的の研究、学際的な病態解析、技術開発を進めるとともに、先端医学につながる病態解析科学研究を遂行できる能力の育成、指導的立場に立つのに必要な高度な専門知識・技術を有する人材を育成することを目的としている。平成16年4月医療技術学専攻病態解析学分野は、10名の第3期大学院生（前期課程）を、そして平成16年度は9名の第1期大学院医学系研究科博士課程（後期課程）大学院生を迎えることができた。

1. 学部構成・運営

本専攻は2つの大講座によって構成されているが、講座の壁をなくし、専攻が一丸となって運営している。

- (1) 基礎検査学講座：人体から得られる、あらゆる情報を分析・整理・総合して、健康状態や病的状態を把握するために、生体情報修得のためのハードウェアおよび情報処理のソフトウェア、生体情報取得のための管理・運営と精度管理の方法、人体に関する外的病因を環境分析によって認識する方法等、科学的根拠の提供に必要な基礎知識および技術について教育・研究を行う。
- (2) 病因・病態検査学講座：生体情報の基礎的理解に基づき、病原体および病因を病原体側と宿主反応側から検索する方法、形態変化としての情報を認識する方法、生理機能の変化を情報として記録・認識する方法、体液・分泌物・排泄物等の検体物中微量物質の変化を主として化学的・物理的に情報化する等、病的状態の把握や病因の解析に必要な知識および技術について教育・研究を行う。

専攻の運営は全教官が参加する専攻会議の決定に従って行われた。専攻会議は第1と第2水曜日の12時および第4水曜日の17時から開催された。

2. 教育

- 1) 4月に第7期の入学生43名（推薦入学生15名、前期日程入学生20名、後期日程入学生8名）を迎えた。
- 2) 4月の新入生ガイダンスには専攻主任、学生生活担当教官、学生教育担当教官と全員の学生が参加し、専攻の教育と学生生活のガイダンス、教官の紹介、指導教官の紹介、学生の自己紹介などが行われた。
- 3) 4月の第5期編入生（入学生3名）ガイダンスには専攻主任、学生生活担当教官、学生教育担当教官が教育と学生生活、教官紹介、研究室紹介、研究指導教官などについて説明した。
- 4) 4月には検査技術科学専攻の2年生が中心になって教官と共に新入生歓迎会を大幸会館にて開催した。
- 5) 9月2日に第4回大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野（博士課程前期課程）の入学試験を実施し、16名の合格者を決定した。また、9月3日には第2回の大学院同（博士課程後期課程）の入学試験を実施し、4名の合格者を決定した。
- 6) 8月に第6回の3年次編入試験を行い、5名の合格者を決定した（実際の入学は4名）。
- 7) 9月に第4期生の臨地実習を充実させることを目的に医学部附属病院検査部の教官および技師との合同会議を開催した。
- 8) 平成17年3月には本専攻の第4期生の卒業生として、編入生を含めて44名を社会に輩出した。なお、16名が大学院修士課程への進学を希望し、就職希望の27名は主に国公立大学病院、公私立病院等の検査部に就職し、就職率はほぼ96%であった。
- 9) 第4期生の第51回臨床検査技師国家試験（平成17年3月4日）の合格率を上げるために、全教官による教育指導と4回の模擬試験を実施した。4期生の第51回臨床検査技師国家試験合格率は95%であった。

3. 研究

本専攻では保健学科設立後、大学院修士課程設置に向けて各系独立型および融合型の研究体制を構築し、研究設備とスタッフの充実に重点を置き、大学院修士課程病態解析学分野への大学院生の受け入れ体制を整備してきた。平成16年4月5日に10名の大学院修士課程第3期生を迎え、研究活動がますます活発になり、国際学術雑誌への投稿論文数と国際学会への発表演題数が増加してきた。そして平成16年度は第1期大学院医学系研究科博士課程（後期課程）9名を迎えることができ、さらに高度な研究活動の継続が可能となった。その成果の1つが9月24日に開催された第4期生による卒業研究発表でもある。以下に各講座における卒業研究発表内容を示す。

【免疫・微生物系（病因病態解析学）】

担当教員：長瀬文彦、伊藤秀郎、川部 勤、川村久美子

1. リポ多糖体の糖鎖構造変化にともなう薬剤感受性への影響 –マクロライド系を中心に–
2. 院内感染起因菌の解析 –MRSA を中心に–
3. 腸管出血性大腸菌 O157:H7 におけるメチオニン・塩化物イオンの増殖抑制効果の解析
4. 脾臓および骨髄由来樹状細胞の調整法の検討
5. 樹状細胞の性状の検討—細胞表面分子、サイトカイン、indoleamine 2,3-dioxygenase—
6. トリプトファン代謝産物 3-hydroxyanthranilic acid による胸腺細胞のアポトーシスの誘導

【病理系（形態情報解析学）】

担当教員：横井豊治、市原正智、橋本克訓

1. 間質性肺炎における肺動脈の形態計測的解析および Cox-2, Tie-2 の発現について
2. 膠原病における肺血管の病理組織学的及び形態計測的解析
3. 肺高血圧症における血管病変の免疫組織学的および形態計測的解析
4. より効果的な siRNA 配列選択のためのアッセイ系の確立
5. siRNA による癌遺伝子 RET の発現抑制と細胞増殖に対する影響の検討

【生理系（生体生理解析学）】

担当教員：古池保雄、永田浩三、野田明子

1. 睡眠時の前額部における皮膚血管反応の特殊性
2. 食塩感受性ラットの高血圧症進行過程における心エコー図所見
3. 組織ドブラ法 Strain・Strain rate による閉塞性睡眠時無呼吸症候群の心機能評価
4. 拡張型心筋症患者における Strain および Strain rate
5. 心筋症ハムスターにおけるビタミン C とアロプリノールの左室機能障害抑制効果の検討

【血液系（分子病態解析学）】

担当教員：村手 隆、小嶋哲人、高木 明

1. ホスホリパーゼ D2 のヒト神経芽細胞腫細胞株における細胞増殖・分化への関与
2. GST 融合蛋白質発現システムを用いた抗 mFKLF-2 抗体の作製
3. 全長ヒトスフィンゴシンキナーゼ 2 の cDNA のクローニングと過剰発現細胞株の樹立
4. 神経系細胞株でのエリスロポエチンレセプター (EPOR) 過剰発現細胞株の樹立の試み
5. モデルマウスを用いた MYH9 異常症の分子病態解析—ノックイン (R702C) ターゲッティングベクターの構築—
6. 先天性血液凝固第 V 因子欠損症一家系の遺伝子解析
7. 先天性プロテイン S 欠損症の遺伝子解析
8. リコンビナント・ヒト遊離型 Glycoprotein V (rhGPVf1) の作製解析—ELISA 標準物質への応用を目指して—
9. 第 V・Ⅷ因子合併欠乏症の遺伝子解析

【分析系（病態化学解析学・環境病因解析学）】

担当教員：高木健三、長谷川高明、高木健次、近藤高明、北市清幸、上山 純

1. 肥満細胞からのヒスタミン遊離作用における ghrelin の検討
2. 肥満細胞におけるフラボノイドの抗アレルギー作用の検討

3. ニューキノロン系抗菌薬の分配係数とラットにおけるヒスタミン遊離および血圧低下に関する基礎的検討
4. サリドマイド光学異性体の分離定量とその活性体の排泄機構に関する基礎的研究
5. ニューキノロン系抗菌薬ノフロキサシンの腸管分泌に対する Shiga-Like Toxin II の影響
6. 非ステロイド性抗炎症薬の脳移行に関する基礎的研究 (第2法)
7. 大麦由来ポリアミン酸化酵素を用いた赤血球中スベルミン分析法の基礎的検討
8. ウエスト周囲と超音波エコーによる腹部脂肪測定値を用いた肥満関連危険因子の予測
9. 各種環境下でのホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、および VOC 計測-解剖学実習室での測定を主にして-
10. ガスクロマトグラフィー/質量分析計を用いた有機リン系化合物中代謝産物の高感度測定系の確立
11. 加齢が経年的血圧変動に与える影響についての一般線型混合モデル解析-階層モデルと成長モデルの応用-

4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

A) 国際交流

小嶋哲人教授は、平成16年9月に The Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division (Nagoya) に参加し、共同演者として4演題のポスター発表など各国の研究者と交流して最新の学術情報収集を行った。また、平成16年12月には American Society of Hematology Forty-Sixth Annual Meeting (San Diego, U.S.A.) に共同演者として2演題のポスター発表を行い各国の研究者と情報交換を行った。

B) 大学間交流-国立大学検査技師教育施設協議会-

平成16年度は琉球大学医学部保健学科を会長校として、6月11日(金)に第41回国立大学臨床検査技師教育施設協議会が開催された(出席者:伊藤秀郎教授)。主な議題:1)国立大学臨床検査技師教育施設協議会会則について、2)健康食品管理士の設立について、3)国家試験問題基準検討委員会の平成16年度報告と検討について、4)保健学科検査技術科学専攻のメイン学会を決める必要性について、5)実験実習費等について、6)独法化後の実習について、7)大学院教育の充実に向けて等について審議した。

C) 地域との連携

古池雄雄教授は、野田助手とともに平成11年から睡眠外来を継続し、本学の検査技術科学の教育研究の向上への努力を継続している。さらに、高度医療技術を習得するための教育および研究の場として、また、東海地区の検査技師技術向上を目指して脳波検討会(中部脳波検討会)を毎月定期的に開催しており、また主にてんかん学を対象とする名古屋臨床脳波検討会や睡眠学を対象とする東海睡眠障害研究会などの研究会継続に努力している。

高木健三教授は、愛知・岐阜在宅酸素療法研究会の会長として、東海喘息研究会および愛知成人喘息研究会の代表世話人として、呼吸器・アレルギー領域の東海地区における医師、医療従事者の卒後教育の一端を担った。また、日本アレルギー協会理事(東海支部長)として、東海4県のアレルギー週間行事を統括するなど地域社会への啓発活動を積極的に推進している。さらに、同教授は愛知県と名古屋市の公害健康被害認定審査会委員として審査にあたっている。

村手隆教授は、愛知県特定疾患認定審査会議委員として申請書類の審査に関わった。

横井豊治教授は、専門である呼吸器疾患の病理診断学の知識と経験を生かし、日本病理学会の呼吸器コンサルタントとして、東海地区を中心とする多数の医療施設より、呼吸器疾患を中心に病理診断のコンサルテーションを受け入れている。平成16年度は約70例の症例を検討・報告し、各施設における呼吸器領域の診療・研究に貢献した。また、愛知県警察本部からの依頼により医療に関わる事例に対し鑑定を行い、増加する医事紛争の解決に病理学の専門の立場から貢献した。また、日本臨床細胞学会東海連合会幹事として、平成16年3月には愛知県健康づくり振興事業団主催の細胞診従事者講習会において、6月には日本臨床細胞学会東海連合会主催の細胞診基礎講習会において、9月には日本臨床衛生検査技師会主催の形態検査部門研修会において、呼吸器などの病理細胞診の講義を行い東海地区における細胞検査士の育成、生涯教育に貢献した。

小嶋哲人教授は、医師、臨床検査技師を対象とする東海血栓症研究会、東海血栓症セミナー、ならびに凝固線溶セミナーの世話人として、東海地区の幅広い血液凝固学領域研究の交流と促進活動を活発に行った。また、愛知県特定疾患研究協議会において血液凝固異常症調査研究を行った。

高木健次助教授は、名古屋市を中心とした愛知県下にある殺虫剤、殺鼠剤、シロアリ防除剤などの薬剤を取り扱う作業員集団の健康問題の取り扱いの一環として、平成16年12月に健康診断および散布作業の頻度、作業に関わる自覚症状等の問診を行った。また併せて、尿中の有機リン代謝物を測定し散布作業との関連性をまとめるなどの調査研究を実施した。本調査研究の対象としては、中小零細事業所の作業員であり、本研究が中小企業の産業保健のあり方及び労働衛生管理において有用な成果を提供しているものとする。また、愛知県地区を中心とした医療従事者（理学療法士・作業療法士・看護師）を対象として「糖尿病について」「炎症について」と題して、平成17年2月に2回の日程で、生化学的側面からの基礎的な内容で教育講演をし、医療職に従事されている方々の卒後教育の一旦を担った。

近藤高明助教授は、犬山市健康プラン推進委員会の委員として、健康増進法にもとづいて策定された犬山市保健計画の実施にあたり助言を行った。また愛知県職員の健康管理アドバイザーの一員として、血中脂質に関する健康教室で講演を行った。

永田浩三助教授は一宮医師会と尾北医師会の主催する講演会にて医師を初めとする医療従事者を対象として平成16年7月と平成17年2月に降圧薬の降圧効果と臓器保護効果に関する講演を行い、医療従事者の卒後教育の一端を担った。平成16年12月に東海薬剤師大会にて薬剤師を対象として最新の降圧薬治療に関する講演を行った。また、平成17年3月に第78回日本薬理学会年会ランチョンセミナーにて医師、薬剤師、検査技師を対象としてATP感受性Kチャンネル開口薬の新たな作用に関する講演を行い、啓蒙に努めた。

(主任：高木健三)

理学療法学専攻

1) 前文

本専攻の教育・研究目標は、高度医療・技術を支える豊かな人間性の形成を基本とし、理学療法に必要な基礎・臨床医学的知識を身体機能と障害の観点から再編して、体系化し、機能と障害を生体の情報として分析・評価し、それらの回復や予防への科学的関連づけを可能にすることである。これにより新たな理学療法を理論的に構築し、より高度な知識と技術を身に付けた理学療法士を養成するとともに、最近必要性が高まりつつあるスポーツ障害リハビリテーションや生涯スポーツ医科学領域への道を開き、さらに高齢社会に対応できるよう地域や高齢者に対する理学療法を強化する。さらには、理学療法研究を通じて理学療法学を実証的学問として確立し、医療の場、教育の場、地域において指導的役割を果たすことができる教育・研究者の養成を目指している。平成16年度には大学院医学研究科リハビリテーション療法学専攻に後期（博士）課程が設置され、本専攻は、東海地区では唯一の博士課程を有する理学療法士の教育・研究機関となった。本専攻は大学院では作業療法学専攻とともにリハビリテーション療法学専攻を構成し、修士課程では理学療法学分野と作業療学分野に分かれるが、博士課程では2分野には分かれずリハビリテーション療法学専攻1本である。本課程を修了すると博士（リハビリテーション療法学）の学位が与えられることになる。平成16年度には博士課程の第1期生を迎え、さらに質の高い教育研究が展開されてきた。

2) 運営

本専攻は基礎理学療法学講座と病態理学療法学講座の2大講座から構成されているが、専攻運営は、講座の壁をはずし全教員（総数11名）による専攻会議（毎週水曜日12時から開催）における協議・決定にしたがい進められている。さらに、大学院の運営に関しては関係教員によるリハビリテーション療法学教員会議（毎月第1、3水曜日）をおこなっている。

- (1) 基礎理学療法学講座：理学療法研究の基礎となる知識や技術を開発・発展させるための生体の構造と機能に関連づけた体系的な基礎教育、身体運動からみた人体機能の体系的教育、機能と障害に重点を置いた臨床医学実践の基盤となるような基礎（医学）教育、機能異常や障害を病態として把握し的確な分析・評価能力を培う教育を実践しつつ、それらを裏付けるための研究を推進している。
- (2) 病態理学療法学講座：理学療法の実践に必要な科学的知識と技術を発展させるため、経験や感覚に頼りかちな生体反応の認識を生体情報として定量的に評価すること、障害を機能的に分析し理学療法の適用との理論的関連を追求すること、またそれらを通して障害からの回復のための治療法・障害の予防方略などに科学性を持たせることを目標とし教育・研究を行っている。

これらの教育・研究を実践するため、全教員が基礎的テーマと臨床的テーマをできるだけ合わせ持つようにして、研究を推し進めている。

3) 教育活動

4月に保健学科理学療法学専攻第7期生として20名の学部学生を迎え入れた。選抜方法による内訳は、推薦入学6名、前期日程試験入学10名、後期日程試験入学4名、性別では男子学生10名、女子学生10名であった。また、3年次に編入生5名を受け入れた。さらに、大学院修士課程に10名（一般選抜5名、社会人入学5名）、博士課程に4名が入学した。こうして、理学療法学専攻としての学生数は、1年生20名、2年生22名、3年生25名（うち、編入生5名）、4年生31名（うち、編入生4名）、大学院修士課程リハビリテーション療法学専攻理学療法学分野の1年生10名、2年生8名、博士課程のリハビリテーション療法学専攻のうち理学療法学関係学生は4名となった。

新学期には、4月1日（木）に新編入生ガイダンス、2日（金）には保健学科全体と専攻ごとの学部新入生ガイダンス、さらに5日（月）には在校生（各学年）ガイダンス、大学院生ガイダンスをおこなった。在校生ガイダンスでは、共通科目については理学療法学専攻・作業療法学両専攻合同で、専門科目については理学療法学専攻単独で、各学年別に1時間ずつを使い、本年度のカリキュラムの説明、学生生活のルールの再確認を行った。また、7日（水）には、1年生の午前中の授業の一部を割愛し、作業療法学専攻と共同で、全教員との顔合わせと新入生に対して生活（特に別館

でのルールなど) ガイダンスを行った。これらにより、本専攻に所属する学部学生、大学院生のすべてに対して、カリキュラムの説明、学生生活のルールの説明・再確認がおこなわれた。主任、教育委員、学生生活委員、授業担当教員がそれぞれの説明を担当した。

4月10日(土)には、専攻内での新入生歓迎会を行った。新2年生が幹事となり、土曜日半日を使い、在校生、新入生、教員が全員参加し、全員の自己紹介、スポーツリクレーション(バレーボール、体育館)、懇親会(大幸厚生会館)を通じて人間的交流・連携の強化を達成した。まだ入学して間もない新入生の緊張を解きほぐすための良い企画であった。

4月中旬には、4月下旬から臨床実習Ⅱ・Ⅲの始まる4年生を対象として、臨床実習に備え、各教員が臨床実習に必要な項目についての学内実習をおこなった。

5月8日(土)から9(日)にかけて、中津川東海地区国立大学研修センターにおいて1泊2日の厚生補導特別企画が実施された。新入生と新2年生全員に上級生数名、全教員、その他で総勢64名が参加した。この企画は、新入生がスムーズに快適で充実した大学生活を送れるようにするための導入部としての研修旅行であり、教員・職員・学生・先輩・後輩が寝食を共に生活することにより、縦と横の強い人間関係を構築することを目的として、短期大学部時代から毎年実施されてきたものである。今年度は、1日目に太田進先生(短大卒業生。豊橋市民病院)の講演があり、その後、スポーツ活動(バレーボール)と懇親会を開いた。2日目は妻籠～馬籠へのハイキングをおこなった。企画の目的は十分に達成し得た。2年生の指導教員2名が担当した。

4月26日(月)から、4年生の臨床実習Ⅱ・Ⅲが始まった。この実習は各種疾患を観察し、臨床実習指導者のもとに基本的検査技術を実施することを目的としている。学生は多くの不安を抱きながら、実習先に向かった。4週ごとに反省会が行われ、種々の問題点などが指摘されたが、全員無事この実習を終えることが出来た。今年度から開始した臨床実習前の各教官による学内実習により、各学生とも実りの多い臨床実習を経験できた。

6月25日(金)に4年生を対象として、地域理学療法学実習のガイダンスをおこなった。本実習は訪問理学療法の実際を見学できる貴重な実習である。

6月2日(水)の名大祭第1日目の夕刻、保健学科別館中庭において、理学療法学・作業療法学両専攻の学生主催のバーベキューパーティーがおこなわれ、両専攻の教員を交えて、交流が図られた。

夏休み直前に、3年次編入生と指導教員とで、編入学後の状況把握と相互理解のための話し合いを持った。内容はおもに教科履修、研究テーマ、学生生活についてであり、現況および将来構想、大学への要望など活発に話し合った。

前期補講期間を用い、8月9日(月)～13日(金)の5日間、夏期特別実習(人体解剖実習)が開催され、理学・作業両専攻の多数の学生が参加した。医学部主催の人体解剖トレーニングセミナーで解剖された遺体が提供された。学生にとっては、人体構造と機能の理解を深めるとともに、遺体に対する感謝の念を通して人の命の尊厳を考え、将来の医療人としてのあり方を考えるよい機会となった。

8月24日(水)に編入学試験を実施した。今年度は専門学校出身者が1名受験し、合格者はいなかった。

9月2日(木)に大学院修士課程、3日(金)に博士課程の入試を実施した。今年度はリハビリテーション療法学専攻修士課程理学療法学分野に7名(一般のみ)、博士課程理学療法学関係に4名(一般1名、社会人3名)が合格した。

後期授業では4年生の卒業研究の後半部分が再開され、12月17日(金)に大講義室において、最終発表がなされた。編入生を含め29題の発表があり、下級生も参加し、活発な討論がなされた。2年生にとっては将来の自身の研究の参考になったと思われる。また、3年生の卒業研究中間発表会が平成17年2月23日(水)に大学院講義室で行われた。合計26題の発表があり、1、2年生からの質問も多く、活発な発表会であった。また、中間発表会終了後、3年生に対し、大学院ガイダンスと就職ガイダンスがおこなわれた。

大学院では、作業療法学専攻を含むリハビリテーション療法学修士課程2期生の最終報告会が平成17年2月15日(火)に大講義室で行われた。合計8題の発表があった。また、修士課程3期生の中間報告会が平成17年3月19日(土)に大学院講義室で行われた。合計10題の発表があった。

3月25日(月)には保健学科第4期生の卒業式が執り行われた。本専攻は29名の新卒業者を世に送り出した。そのうち19名が病院に勤務し、8名が大学院へ進学、その他2名であった。

3月6日(日)に理学療法士国家試験が施行され、本専攻学部卒業予定者25名が受験し、全員合格した。

名大理学療法研究会の事務局を本専攻に置き、短期大学部理学療法学科と保健学科理学療法専攻の卒業生の研究活動を支援している。当年度は、平成16年7月17日と平成17年1月29日に研究会が開催され、会員の研究発表と専攻教員による特別講演が行われた。毎回40～50人が参加している。

4) 研究活動

前述の通り本専攻は、全教員が基礎的テーマと臨床的テーマを可及的に併せ持つように努力し、研究を進めている。各教員の研究テーマは、以下の通りである。

猪田邦雄 教授：関節の生理・バイオメカニクス・病態とリハビリテーション、関節の拘縮と軟骨代謝、高齢者の関節疾患と医療経済、転倒予防

小林邦彦 教授：関節拘縮の病態と微細構造、温熱(灸)刺激による皮膚の微細構造変化、解剖学教育法

河村守雄 教授：実験的異所性骨化と関節運動および不動化の関係、骨形成因子の特性と臨床応用、脊髄損傷モデルマウスの病態、慢性腰痛症状保有者の再発予防対策

鈴木重行 教授：培養筋細胞を用いた機械的刺激の影響、筋ストレッチングと疼痛抑制法の臨床的効果、女性尿失禁に対するバイオフィードバック療法、糖尿病と関節拘縮モデルラットを用いた理学療法効果の検証

山田純生 教授：換気補助を用いた運動療法、骨格筋パワーを用いた運動処方、運動習慣化を促進する指導方策、電気刺激療法と運動耐容能

木山喬博助 教授：治療用超音波の機械的効果の検証(皮膚、筋、血流への影響)

河上敬介 教授：機械刺激に対する培養細胞の形態応答のメカニズムの解明、伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム、筋・筋膜連結の形態と臨床的意義

肥田朋子 助手：疼痛時の神経・筋機能の解析、物理的刺激に対する神経・筋の応答

石田和人 助手：脳出血モデル動物における中枢神経の病理変化と運動療法の効果に関する研究、ニューロン障害の最初期像の解析とその予後に関する研究、糖尿病モデルラットを用いた理学療法効果の検証

宮津真寿美 助手：伸張刺激による内皮細胞の細胞骨格・接着斑の動態、伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム

加藤智香子 助手：高齢者の身体活動量・筋力・バランス・QOLなど、転倒予防、ヒッププロテクター

現在は、これらの研究テーマをもとに、リハビリテーションに関係した臨床系の研究、生体の微細構造究明に関する研究、物理療法の機器の開発と治療効果に関する研究、モデル動物を用いた各種病態究明と治療・予防法の確立に関する研究の4本柱を構築して、それぞれの研究室を整備・充実させている過程である。

5) 対外的な、または社会と関わりのある活動

今年度も臨床実習指導者連絡協議会(スーパーバイザー会議)を2回開催した。第1回は平成16年7月22日(木)に行い、臨床実習Ⅱ・Ⅲの反省と今年度より開始した臨床実習前の学内実習である臨床実習Ⅰbの効果、さらに臨床実習Ⅰの概要と本学の臨床実習の理念と流れについても協議を行った。第2回は平成17年2月3日(木)に開催し、臨床実習Ⅰaの反省と次期に始まる臨床実習Ⅱ・Ⅲおよび理学療法コミュニケーションの実施方法について協議を行った。

専攻代表が出席した学外関係会議は、臨床実習東海地区理学療法士養成施設連絡協議会(9月17日(金)、会場：豊田学園医療福祉専門学校)、全国理学療法士・作業療法士学校養成施設連絡協議会(6月5日(土)、東京)、第7回国立大学理学療法士・作業療法士教育施設協議会(9月30日(木)～10月1日(金)、担当：鹿児島大学)である。

名古屋大学大学説明会が8月12日(木)におこなわれ、保健学科は東山キャンパスを会場として、各専攻の説明が行われ、参加した高校生に本専攻の特徴等について山田教授が説明した。その後、本専攻主催の大幸キャンパスでの説明会には約80名が参加し、教員と学生が施設を案内し、質問に答えた。質問も鋭くかつ多く、高校生の興味の深さが示された。

その他の対外活動としては、一昨年度より開始された隣接する大幸医療センターでの相談外来では、河村教授の腰痛相談室、猪田教授、加藤助手の転倒予防教室（転ばん大幸教室、名古屋市との共同主催）、鈴木教授の女性尿失禁相談外来が引き続き行われた。

4月から7月にかけて市民を対象として、「障害イキイキ健康を創ろう！——寝たきり・痴呆を防ぐ為に——」をメインテーマとしてNHK文化センターの名古屋大学提携市民講座が開かれ、本専攻の教員6名が交替で担当した。

各回の話題は、「序・骨・筋・脳・心臓・痛み」、であった。参加者は約30名で、毎回活発な質疑応答があり非常に好評であった。

全国PT・OT学校連絡協議会のもとに、東海地区（愛知、岐阜、三重、静岡）の理学療法・作業療法に関する各養成校の教員及び関連する教育に関わる専門職の資質向上を目的として東海地区教育部会が設立され、会長に本専攻の鈴木教授が就任した。平成17年1月29日（土）に発会式および第1回研修会が日本医療福祉専門学校珪山ホールで行われた。研修会では内山靖教授（群馬大学医学部）に「OSCEを用いた学生教育」をテーマとして講演していただいた。

（主任：小林邦彦）

作業療法学専攻

作業療法学専攻は、作業療法に関する学問体系の確立、作業療法領域の高度専門職業人の養成、そして、この領域における教育者、研究者の育成を目的として設置された専攻である。

本専攻の教員は、作業療法学分野（作業療法士）と医学分野（医師）の二領域の教員から編成されているが、それぞれの背景分野を活かした教育・研究活動を通して、ともに作業療法学の発展に資するように努力をしている。

1. 運営

本専攻の運営は、全員参加して行われる水曜日の専攻会議を中心に行われている。専攻会議は、本専攻の中心となる審議・決議組織と位置づけられ、作業療法学専攻の運営上の諸問題が話し合われる一方、全保健学科の委員会の報告や持ち帰りの審議がなされ、それに対する作業療法学専攻としての態度決定が行われている。具体的には、専攻の行事・事業計画、その進行の確認、活動の報告・反省、予算分配に関する審議・決定、学生の教育に関する諸事項の審議（例えば、学生の生活上・成績上の諸問題に関する教育方針の確認、臨床実習や卒業研究の可否決定など）が行われている。

教員人事など教授専任事項については、不定期に開催される専攻教授会議において審議・決定されている。この会議は全員一致を原則として運営されている。

また、様々な点で密接な連携関係にある理学療法学専攻とは、月1回水曜日に教員全員が参加する両専攻会議をもち、意思の疎通を図っている。作業・理学連携事項については、この会議で審議・決定されている。

平成16年度は大学院博士後期課程の開設1年目に当たる。大学院では、作業療法学専攻は理学療法学専攻とともにリハビリテーション療法学専攻を構成し、ひとつの専攻として運営されている。大学院に関わる諸事項については、月1回水曜日に行われる大学院教員会議（大学院担当教員全員が参加）によって審議され、運営されている。

2. 教育活動

16年3月25日卒業の3期生は卒業生18名、内大学院進学者が4名で、他の卒業生は全員医療機関へと就職した。

4月1日には、20名の学部入学生、1名の三年次編入生を迎え、大学院博士前期課程には9名（内一般入学6名、社会人入学3名）の第三期入学生を迎え、大学院博士後期課程には3名（内一般入学0名、社会人入学3名）。

4月23日-24日には、学部および大学院入学生へのガイダンスを一泊二日の日程で犬山ユースホステルにて行った。これには学部三年生までの多くの学生、および大学院生が先輩として参加し、入学生との交流を深めた。

8月12日、名古屋大学説明会、8月24日には外部評価委員を迎え、専攻内でも四年制化以降の専攻のあり方について検討する機会を持った。

8月24日に編入学試験、9月2日に大学院博士前期課程、9月3日に大学院博士後期課程の入学試験が実施された。

9月10日に卒業研究中間発表会を実施した。

12月3日に卒業研究発表会を実施した。

17年2月3日、17年度の総合臨床実習に向けて実習指導者会議を開催した。

2月15日、大学院博士前期課程の研究発表会を開催し修士二期生の研究成果を披露した。

3月19日、修士1年の研究中間発表会を開催し研究の進捗状況の確認と指導が行われた。

16年度4年生は、前期は総合臨床実習に、後期は前年度から継続中の卒業研究のまとめにと忙しく過ごし、17年3月25日に20名が第三期生として卒業した。この学年の大学院進学者は2名、他の卒業生はこの学年も全員が医療機関に就職している。

同時に大学院の学位授与式が行われ、修士二期生7名が修士号を授与された。

また、先年度に続き、総合実習前の事前指導として17年2月18日から24日にかけて17年度4年生に対してプレ実習セミナーを実施した。

3. 研究活動

本専攻の教員は、異なる専門分野から構成されているため、専攻としての共同研究が成立しにくい側面を持っている。そのため、専攻の研究は教員による各個研究が主となっている。

(1) 共同研究

- 1) スモン患者の運動能力評価に関する研究（杉村、清水、美和、寶珠山、伊藤、森）
- 2) スモン患者の基本動作時間の経時的変化に関する研究（清水、杉村、美和、寶珠山、伊藤、森）
- 3) 若年スモン患者のADLとQOL（伊藤、杉村、清水、美和、寶珠山、森）

(2) 各個研究

- 1) 老年痴呆の障害分析的研究、老年痴呆患者の行動評価法の開発（杉村）
- 2) 介護老人保健施設などにおける作業療法の効果に関する研究、老人痴呆患者の問題処理能力などの定量的評価に関する研究（田川）
- 3) 統合失調症の精神病理学的研究、神経症の精神分析学的研究（鈴木）
- 4) 運動と体性感覚誘導脳反応に関する研究、意識と感覚情報処理能力に関する研究、人の脳における情報処理能力に関する研究（寶珠山）
- 5) 介助犬の適応に関する作業療法的研究（原）
- 6) 補装具と福祉機器に関する研究（伊藤、原）
- 7) 作業療法の歴史に関する研究（加賀谷）
- 8) 作業療法と自律神経機能に関する研究（美和）
- 9) 精神障害に対する作業療法介入効果に関する研究（美和）
- 10) 入浴の自律神経機能に与える影響に関する研究（美和）
- 11) 認知機能と情動の関係に関する研究、自己関連情報に関する心理的処理特性（清水）
- 12) 高齢者の前頭葉機能に関する研究（伊藤）
- 13) 趣味活動など生活習慣と認知機能に関する研究（伊藤）
- 14) 統合失調症に対する作業療法介入効果に関する研究（向）
- 15) 児童虐待の精神心理学的研究（向）
- 16) 作業療法専攻学生の職業レディネスに関する研究（向）
- 17) 老年痴呆の作業療法の研究（森）
- 18) 機能訓練事業に対する作業療法の役割（森）

4. 対外的、または社会と関わりのある活動

16年度中に本専攻教員が主催した学会、研究集会は以下のとおりである。

- 6月6日第12回東海精神科作業療法研究会（鈴木、美和、向）
- 9月12日第13回東海精神科作業療法研究会（鈴木、美和、向）
- 2月27日第14回東海精神科作業療法研究会（鈴木、美和、向）
- 7月4日第15回精神障害者リハビリテーション研究会（鈴木、向）
- 11月23日第16回精神障害者リハビリテーション研究会（鈴木、向）
- 1月30日第17回精神障害者リハビリテーション研究会（鈴木、向）

（主任 鈴木國文）

2. 公開講座 (平成16年度)

こころの癒しとコミュニケーション

名古屋大学医学部保健学科では、昭和58年以来、健康や医療の問題を中心に私たちの生活に深く関わるテーマで、一般市民の皆様を対象に公開講座を開催して参りました。本講座は名古屋大学の知的財産をできるだけ地域の皆様に還元することを目的としています。今年度は看護学専攻が中心となり「こころの癒しとコミュニケーション」をテーマとして開講しました。

講座のテーマ

私たちの生活では無意識のうちにもストレスフルなコミュニケーションを重ねていることがあります。人はそれぞれコミュニケーションのパターンや傾向を持っておりますが、それは現在に至る成長過程で形成されたものであり、また、今後変化し得るものでもあります。そこで胎児期（妊娠期）から乳幼児期、学童・思春期、壮年期、老年期に至る人間関係とこころを癒すコミュニケーションについてわかりやすく説明し、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

実施要綱

主 催	名古屋大学医学部保健学科
後 援	愛知県、名古屋市、名古屋大学医師会、愛知県医師会、名古屋市医師会 名古屋市教育委員会
開催日時	平成16年10月16.23日（土曜日） 午後2時～4時30分
開催場所	名古屋大学医学部保健学科402室
募集人員	150名
受講料	5,200円
修了証書	3回以上出席の受講者に終了証書を授与

【コミュニケーションにおける感情と癒し】

第1回 10月16日

【コミュニケーションにおける感情と癒し】 教授（精神看護学） 水溪 雅子

人はその成長過程を通して、物事の感じ方や考え方、感情傾向などを形成しているといえますが、コミュニケーションでは事実や考えなどを相手に伝える時ですら、そのときの気分や感情傾向が表出として加えられます。このようなコミュニケーションを通して考えたり、悩んだり、傷ついたりしますが、また、慰められたり、ほっとした気分になったりもします。そして、人間関係の良否と感情状態とは関係しております。そこで、コミュニケーションにおける感情と癒しについて以下のような内容について理解し、皆様と一緒にコミュニケーションにおける癒しを考えてみました。

- I 感情の理解 1 感情の性質と働き 2 感情の認知と評価
- II 発達と感情 1 感情の発達 2 感情傾向の個人差 3 感情ルールと感情文化
- III コミュニケーションと感情
- IV 感情と関わる仕事 1 感情労働 2 看護師の仕事 3 対人関係における感情調整
4 病気と感情

V コミュニケーションと癒し

- 1 感情と癒し
- 2 コミュニケーションと癒し

VI コミュニケーションと共感的理解

- 1 共感的理解と感情
- 2 悩む人とのコミュニケーション例
- 3 共感的理解の方法

第2回 10月16日

【妊娠中の親子関係－赤ちゃん、お母さん、おばあちゃんの三世代関係－】助手（発達看護学） 岡山 久代

妊娠中の親子関係といえば、“赤ちゃん（胎児）とお母さん（妊婦）との関係”とイメージされると思いますが、最近では“お母さんとおばあちゃん（妊婦の実母）との関係”も注目されています。この講義では、現代における妊娠中の親子関係の特徴と、こころを癒すマタニティライフについて、以下のように紹介しました。

- I. 胎児は“りっぱな子ども”
 1. 胎児は子どものはじまり
 2. 妊娠に伴う胎児の発育1)
- II. 人と人との愛着関係
 1. 愛着とは
 2. 人生早期の子どもと母親の愛着関係
 3. 胎児と妊婦との愛着関係
- III. 胎児・妊婦・妊婦の実母の関係
 1. 妊娠中の母親になるための準備
 2. 妊婦のお手本としての実母
 3. 妊婦の胎児への愛着と実母との関係
- IV. 最近の親子関係
 1. 最近の親子関係
 2. 現代社会と母・娘関係
- V. こころを癒すマタニティライフとは
 1. 妊婦を取り巻く人々
 2. 心を癒すマタニティライフ

第3回 10月23日

【子育て期の家族とコミュニケーション】教授（発達看護学） 浅野みどり

最近では、紙オムツやさまざまな便利グッズの普及だけでなく、デパート、駅、空港にも赤ちゃんルームや授乳室が完備され、乳幼児連れの外出はずいぶん便利になってきました。しかし、一方で女性の社会進出と晩婚化、少子化、近所づきあいの変化などから、育児不安や子どもの虐待（マルトリートメント）、働く女性の子育てとキャリアの両立問題など、現代の子育てを巡っては様々な育児ストレスが社会問題として認知されています。

また、学童期や思春期のお子さんをもつご家族では、学校の問題、子どもの反抗、非行などさまざまなイベントと向き合わなければなりません。とくに、思春期のおさんは大人の干渉をとっても嫌がる時期ですから、一般的にコミュニケーションは難しいものです。

コミュニケーションは家族機能を促進する重要な因子といわれています。子育て期におこりやすい家族のイベントを中心に、コミュニケーションについて一緒に考えてみました。

- I. 発達研究（1970年代以降）のトピック
 1. 生涯発達；人間を生涯にわたって発達していく存在と捉える。
 2. 生態学的アプローチ（エコロジカルモデル）；発達は人と環境との相互作用による。
- II. 家族発達理論
 1. 家族の発達段階
 2. 家族の発達課題
- III. 子育て期の家族の特徴
 1. 養育期の家族（乳幼児と暮らす家族）
 - 1) 児の出生によって家族が受ける影響（養育期）
 - 2) 養育期にある家族の発達課題
 - 3) 養育期の典型的な問題
 2. 教育期の家族（学童期の子どもと暮らす家族）
 - 1) 子どもの就学に伴う家族の変化
 - 2) 学童の子どもと暮らす家族の発達課題
 - 3) 就学前後の子どもと暮らす家族に起こりやすい問題
 3. 思春期（10代の子ども）と暮らす家族
 - 1) 思春期（10代の子ども）と暮らす家族の特徴
 - 2) 思春期の子どもと暮らす家族の発達課題

3) 思春期の子どもと暮らす家族に起こりやすい問題

IV. 養育期にある家族のコミュニケーションの特徴

1. コミュニケーションの難しい2つの典型的な時期 1) 幼児期；自我の芽生えと「いや！いや！」
- 2) 思春期；第2次性徴とアイデンティティの獲得への試行錯誤

V. 心を癒すコミュニケーションのヒント

1. パートナーとの関係(CANADA; Nobody's perfect 「父親」より)
2. 子どもが「安全感」「安心感」「自信」をもてるコミュニケーション
3. 思春期の子どもの自立と依存のニーズに対するバランスを保つ

第4回 10月23日

【壮年期・老年期の生活とコミュニケーション】教授（臨床看護学）渡邊 憲子

高齢社会の到来によって、壮年・老年期は人の生涯の大半を占めるようになってきました。そして近年、人は老年に至るまで生涯発達する存在であるとの認識がされてきております。

壮年・老年期における人が、より豊かな人間関係によって、個々の人生を全うするためには、「こころを癒すコミュニケーション」が必要であると考えられます。ここでは、まずコミュニケーションの対象となる人の理解、すなわち、壮年・老年期における生活と人間関係の特徴を、「人生周期における発達課題と危機」の理論と関連させて理解しておきたいと思っております。その上で、コミュニケーションについて以下の内容を紹介しました。

I. 壮年期の生活と人間関係の特徴

1. 壮年期（成熟期）の生活
 2. 成熟期の発達危機：同一性再確立 対 消極性の葛藤
 3. 壮年期の人間関係の特徴
- 1) 夫婦関係と空の巣症候群

II. 老年期の生活と人間関係の特徴

1. 老年期の生活
2. 老年期の発達危機：統合性 対 絶望感の葛藤
3. 老年期の人間関係の特徴

III. こころを癒すコミュニケーションのヒント

1. 壮年期におけるコミュニケーションの基本となるもの
2. 老年期におけるコミュニケーションの基本となるもの
3. 壮年・老年期の人間関係の支援—コンボイ・モデルを用いて

(1) 受講者について

受講者は12名 修了証書授与者11名

年齢 20歳～1名 30歳～3名 40歳～1名 50歳～1名
(男性2名 女性10名)

アンケートの回答者 6名

受講者が本年度、格段に少なかったことについては問題であり、反省会を行い、講義テーマや内容、講座の実施時期、宣伝の方法、受講料が高いことなどについて検討した。

(2) 本講座に参加した動機

- a. 職業上の知識・理解を増すため 3名
- b. 興味・関心をもつため 5名
- c. 余暇を有効に利用するため 0名
- d. 生活上の知識向上のため 2名
- e. その他 0名

(3) 本講座を知った媒体

- a. 新聞 3名
- b. 病院に置いてあった募集要項 1名
- c. 区役所・社会教育センター等においてあった募集要項・ポスター 0名
- d. テレビ・ラジオの報道 0名
- e. 開催校からの案内 3名
- f. 友達からの情報 0名
- g. その他 2名〈大学ホームページ〉

(4) 受講後の感想

- ・生活、生きていく上でコミュニケーションは大切だと思いました。職場等で日々、感情の葛藤の繰り返しですが、共感してあげる気持ちをもってゆきたいと思いました。
- ・人の成長に合わせて、コミュニケーションの仕方、気をつけることに差があることがあらためてわかりました。特に癒すコミュニケーションで「事実・感情・計画」に分けてみると、見えてくるものがあることを心がけたいです。自分自身にゆとりがでてきました。集団で話し合う場で共通理解・行動ができます。非言語的コミュニケーション訓練します。
- ・兄弟がうつ病のため、第4回の内容を聞きたくて申し込みましたが、一応、全回を拝聴しました。第4回で紹介された本を読んでみるつもり。他の回も参考になった。保育、教育、介護などの仕事についている人だけでなく、一般の人々にも聞ける内容だと感じた。
- ・自分がまた子育て・結婚なども経験していないので、実感したり、振り返ったりということはできませんでした。これから、経験するであろう事柄について、課題が鮮明になった気がします。あまり専門的過ぎず、理解しやすかったこともよかったです。

(5) 開催日時、曜日、時間、場所、受講料等に関する意見

- ・出席しやすい時間です。
- ・交通の便がよいので（遠方からですので）参加しやすい。
- ・1000円／1回というように選んで受講できると嬉しい。
- ・たまたまホームページを覗いて気がついた。もっと講座のPRをすればよかったと思う。
- ・土曜日・日曜日のどちらでもいいのですが、できれば2日に分けずに通しでやって欲しいです。

(6) 今後希望するテーマ

- ・心〈精神面〉の健康
- ・失語症とまではいかないけれど、言葉がなかなか発せられない子ども・保護者・周囲への接し方。
- ・ADHD・高機能自閉症について、医学的な専門分野から、理解と支援の仕方。
- ・広く虐待（大人の接し方）について
- ・家庭での介護
- ・地域社会への参加〈みちびき〉

- ・女性・子供・社会であるとか、コミュニケーションをテーマにしたものがあれば受講したい。

公開講座反省会

1. PR について

- ・早い時期にパンフレットを配布できれば良かった。
- ・他のPRの方法（市の広報、学区・町の回覧、近隣の学校への案内、駅のポスター等）も検討すると良かった。
- ・医師会が協賛しているので、クリニック等に案内できれば良かった。
- ・地下鉄の沿線等交通の便を考慮し、パンフレットを配布すれば良かった。

2. 受講料について

- ・高いという意見が多かった。見直すことも必要ではないか
- ・1回毎の料金にする方法はどうか。
- ・無料にするのは不可能か？

3. 日時について

- ・実施日が、他のイベントと重なっていたため、参加者が少なかったのではないか。
- ・2日間に分けて、1日をフルに使って設定しても良かった。
- ・ランチタイムをもうけて参加者の交流の機会を設定する方法も効果的かもしれない。

4. 内容について

- ・テーマをもう少し絞り込んでも良かった。
- ・対象が分散してしまうテーマ・内容であったかもしれない。
- ・市民向けのテーマとして“発達”が、適していたのか？
- ・参加者のニーズにあった組み方（母性と小児を同じ日にする等）を考慮すべきであった。
- ・専門的な内容で良かったか？市民に向けてどの程度の専門的内容が適しているのか？
- ・専門的な内容でテーマを統一するなら、講座単位で担当する方法もある。
- ・少人数になってしまったので、人数に合わせた演習を講義に組み入れても良かった。
- ・介護・救急等実技ができる内容のテーマにしてはどうか。この場合は1回毎の受講にして、定員も設定する必要がある。

以上のように、講座の内容はおおむね好評であったが、もっとも問題になったことは受講者の少ないことであった。インターネット等での情報を取り入れることが簡単にできる時代の公開講座の在り方を検討し、次年度からは変更を加えることになった。

(看護学専攻平成16年度公開講座委員長 水溪 雅子)

3. 業 績 (2004年)

凡 例

◎業績の収録期間は2004(平成16)年1月～12月とした。

◎業績は下記の種別に分類した。

- * 著書
- * 原著論文
- * 総説・解説・その他
- * 科研費・班研究等
- * その他の印刷物等
- * 学会発表
- * 公開講座・講演会

◎掲載順位は ①専攻, ②業績種別, ③著者のアルファベット順 とした。

看護学専攻

〔著書〕

安藤詳子, 大柄根いづみ, 大西秀樹, 鹿渡登史子, 木下優子, 黒子幸一, 斉藤真理, 坂井都美子, 白土辰子, 高宮有介, 帳 修子, 西田茂史, 荷見千草, 畠山真弓, 藤田智子, 水町忠弘
『臨床緩和ケア』(編集: 大学病院の緩和ケアを考える会) 青海社, 2004.

遠藤淑美

第3章第6節終末期リハビリテーションと看護

『精神看護エクスペール』(坂田三允総編集) 中山書店, 2004. pp 80-95

新井信之, 荒賀直子, 池田信子, 石原多佳子, 上原里程, 江藤真紀, 奥山則子, 梶田悦子, 北岡英子, 後閑容子, 齊藤泰子, 桜井しのぶ, 佐々木美佐子, 白井英子, 中村好一, 橋本佐由理, 畑下博世, 畑中高子, 藤井千恵, 堀井節子, 榎本妙子, 松田一美, 宮内清子, 宮田延子, 守田孝恵, 山口 忍, 吉田久美子, 吉田 亨

成人保健施策と保健師活動

『地域看護学. jp Community Health Nursing in Japan』(荒賀直子, 後閑容子) インターメディカル, 2004. pp 249-251

濱松加寸子

第3章(2) 暮らしと命を守る活動④いつまでも健康で働き続ける秘訣

『新しい世紀の組合の新たな前進を目指して—これまでの自分たちの姿を見直し, これからの組合活動のあり方をさぐる』(東京土建一般労働組合世田谷支部・世田谷自治問題研究所編) 東京土建一般労働組合世田谷支部, 2004. pp 76-79

濱松加寸子

第3章(3) 地域に根ざした組合活動①住宅ディは組合員と住民を結びつく場

『新しい世紀の組合の新たな前進を目指して—これまでの自分たちの姿を見直し, これからの組合活動のあり方をさぐる』(東京土建一般労働組合世田谷支部・世田谷自治問題研究所編) 東京土建一般労働組合世田谷支部, 2004. pp 80-83

池松裕子

看護計画

『周術期の肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症の予防と対策』(瀬尾憲正編集) 克誠堂, 2004. pp 133-140

池松裕子

胸痛

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』(山内豊明編集) メディカ出版, 2004. pp 196-198

池松裕子

不整脈

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』(山内豊明編集) メディカ出版, 2004. pp 199-204

池松裕子

チアノーゼ

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』（山内豊明編集）メディカ出版，2004．pp 205-208

鏡森定信，木村 栄，**梶田悦子**

温泉を利用した健康，福祉増進と疾病予防

『新温泉医学』（谷崎勝朗，猪熊茂子，大塚吉則，鏡森定信，田中信行）日本温泉気候物理学会，2004．pp 365-374

梶田悦子

個別対策の有効性評価の進め方

『地域保健におけるエビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防ガイドライン』（伊木雅之）日本公衆衛生協会，2004．pp 110-115

梶田悦子，吉田久美子，藤井千恵，江藤真紀

成人保健活動

『地域看護学』，2004．pp 247-259

梶田悦子，吉田久美子，江藤真紀，藤井千恵

第4章 地域保健の対象アプローチ III 成人保健活動 3．成人期の主な生活習慣病と保健指導 1) 高血圧 2) 糖尿病

『地域看護学.jp』（荒賀直子，後閑容子編集）インターメディカル，2004．pp 252-254

神里みどり

『看護職のための臨床教育指導 Clinical Teaching for Health Professional（監訳）』（神里みどり（簡訳））日総研，2004．pp 1-146

太田勝正

看護情報学とは

『看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論』（上泉和子，太田勝正編著）日本看護協会出版会，2004．pp 2-8

太田勝正

看護における情報のとらえ方

『看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論』（上泉和子，太田勝正編著）日本看護協会出版会，2004．pp 12-20

太田勝正

看護情報の倫理的側面

『看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論』（上泉和子，太田勝正編著）日本看護協会出版会，2004．pp 21-34

太田勝正

看護ミニマムデータセットの体系

『看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論』（上泉和子，太田勝正編著）日本看護協会出版会，2004．pp 52-56

太田勝正

IT化の時代を迎えて

『看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論』（上泉和子，太田勝正編著）日本看護協会出版会，2004．pp 146-151

榊原久孝

地域保健, 母子保健

『公衆衛生学入門, 社会・環境と健康』(内藤通孝編著) 昭和堂, 2004. pp 141-148

榊原久孝

産業保健, 学校保健

『公衆衛生学入門, 社会・環境と健康』(内藤通孝編著) 昭和堂, 2004. pp 151-161

榊原久孝

振動障害の病態

『手腕振動障害—その疫学・病態から予防まで—』(山田信也, 二塚 信編著) 労働科学研究所, 2004. pp 105-137

山内豊明, 北 徹 (監訳) MEZEY Mathy Doval, RAUCKHORST Louise Hartnett, STOKES Shirlee Ann (著)

『高齢者のヘルスアセスメント』(M.D. メゼイ他著 **山内豊明**, 北 徹 (監訳)) 西村書店, 2004. pp 1-236

山内豊明

医師から看護職へなぜ看護職を選んだか

『看護とはどんな仕事か 7人のトップ・ランナーたち』(久常節子編集) 勁草書房, 2004. pp 107-127

山内豊明

クリティカルパスの背景

『歯科口腔領域のクリニカルパス』(落海真喜枝, 小島愛子, 鈴木俊夫編集) 医歯薬出版, 2004. pp 39-42

山内豊明

クリティカルパスとは何かそしてその開発導入に当たってのポイントは

『歯科口腔領域のクリニカルパス』(落海真喜枝, 小島愛子, 鈴木俊夫編集) 医歯薬出版, 2004. pp 43-45

山内豊明

クリティカルパスに関連したわが国の事情と今後の課題

『歯科口腔領域のクリニカルパス』(落海真喜枝, 小島愛子, 鈴木俊夫編集) 医歯薬出版, 2004. pp 46-48

山内豊明

はじめに

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』(山内豊明編集) メディカ出版, 2004. p 3

山内豊明

序論—人間の身体における本来の働きとその乱れ

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』(山内豊明編集) メディカ出版, 2004. pp 2-6

山内豊明, 三笥里香

2 血行障害

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』(山内豊明編集) メディカ出版, 2004. pp 25-33

山内豊明

序論—身体の不調はどう現れるか

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』（山内豊明編集）メディカ出版，2004． pp 98-99

山内豊明，三笠里香

1 ショック

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』（山内豊明編集）メディカ出版，2004． pp 100-107

山内豊明，三笠里香

31 便秘

『ナーシング・グラフィカ③疾病の成り立ち—臨床病理・病態学』（山内豊明編集）メディカ出版，2004． pp 253-257

レイモンド W. ベック，嶋田甚五郎，中島秀喜，木下秀則，内藤真一，金沢 宏，吉川博子，山内豊明，竹村 弘，山本啓之

紀元前1924年～1944年

『微生物学の歴史 II』（嶋田甚五郎，中島秀喜監訳）朝倉書店，2004． pp 9-64

〔原著論文〕

浅野みどり，三浦清世美，安田道子，杉浦太一，藤井千恵，山田知子，石黒彩子

喘息をもつ思春期の子どもの心的状態 描画とエゴグラムの分析を手がかりとして
看護技術 50：323-327，2004

山北奈央子，浅野みどり，三浦清世美，小林加奈，都築知香枝，石黒彩子

入院中の子どもの遊びに対する看護師の認識と関わり 病棟への保育士導入の有無を中心に
日本看護医療学会雑誌 6（2）：33-42，2004

浅野みどり

「家族の強み」に着目した難治性てんかんの子どもをもつ家族への支援の可能性
生活指導研究 21：82-100，2004

藤井千恵，古田真司，榊原久孝

家庭・学校・地域連携による児童生徒の生活習慣病予防活動の試み
日本公衆衛生雑誌 51：790-797，2004

濱松加寸子

医療技術の高度化に伴う看護技術とは（特集 医療・看護技術の進歩と現代の看護）
Nurse eye 17：41-50，2004

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTO Masahiro, OKADA Taro, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, HIRAI Makoto, MUROHARA Toyoaki

Simple and accurate catheter mapping technique to predict atrial fibrillation foci in the pulmonary veins or posterior

right atrium

Heart Rhythm 1 : 427-434, 2004

MAEDA Kengo, MURAKAMI Hideki, YOSHIDA Reiko, ICHIHARA Masatoshi, ABE Akihiro, **HIRAI Makoto**,

MUROHARA Toyoaki, TAKAHASHI Masahide

Biochemical and biological responses induced by coupling of Gab1 to phosphatidylinositol 3-kinase in RET-expressing cells

Biochem Biophys Res Commun 323 : 345-354, 2004

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTO Masahiro, OKADA Taro, OKAMOTO Mitsuhiro, TOYAMA

Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasua, **HIRAI Makoto**,

MUROHARA Toyoaki

Electrophysiologic characteristics of atrial tachycardia originating from the right pulmonary veins or posterior right atrium : double potentials obtained from the posterior wall of the right atrium can be useful to predict foci of atrial tachycardia in right pulmonary veins or posterior right atrium

J Cardiovasc Electrophysiol 15 : 745-751, 2004

YAMADA Kiyoyasu, **HIRAI Makoto**, ABE Kazunari ISHIIHARA Hitoshi, TAKESHITA Kyosuke, TAKADA

Yasunobu, MUTOH Masahiro, NODA Hiroshi, SHIMIZU Atsuya, SHIBATA Y, YANADA Takumi, KONDO

Takahisa, YOSHIDA Yukihiko, INDEN Yasuya, MUROHARA Toyoaki

Diagnostic usefulness of postexercise systolic blood pressure response for detection of coronary artery disease in patients with echocardiographic left ventricular hypertrophy

Can J Cardiol 20 : 705-711, 2004

TAKESHITA Kyosuke, FUJIMORI Toshihiko, KUROTAKI Yoko, HONJO Haruo, TSUJIKAWA Hiroshi, YASUI

Kenji, LEE Jong-Kook, KAMIYA Kaicjiro, KITAICHI Kiyoyuki, YAMAMOTO Koji, ITO Masafumi, KONDO

Takahisa, IINO Shigeo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki, KODAMA Itsuo, NABESHIMA

Yo-ichi

Sinoatrial node dysfunction and early unexpected death of mice with a defect of klotho gene expression

Circulation 109 : 1776-1782, 2004

SHIMIZU Atsuya, MATSUSHITA Taashi, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, KOJIMA Tetsuhito, SAITO Hidehiko,

HIRAI Makoto

Identification of the amino acid residues of the platelet glycoprotein Ib(GPIb) essential for the von Willebrand factor binding by clustered charged-to-alanine scanning mutagenesis

J Biol Chem 279 : 16285-16294, 2004

TAKESHITA Kyosuke, HAYASHI Mutsuharu, IINO Shigeo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, IWASE Mitsunori,

KOJIMA Tetsuhito, **HIRAI Makoto**, ITO Masafumi, LOSKUTOFF DJ, SAITO Hidehiko, MUROHARA Toyoaki,

YAMAMOTO Koji

Increased expression of plasminogen activator inhibitor-1 in cardiomyocytes contributes to cardiac fibrosis after myocardial infarction

Am J Pathol 164 : 449-456, 2004

NAGASAWA Nobue, TAMAKOSHI koji, YATSUYA Hiroshi, **HORI Yoko**, ISHIKAWA Miyuki, MURATA Chiyoe, ZHANG Huiming, WADA Keiko, OTUKA Rei, MABUCHI Tomoko, KONDO Takaaki, TOYOSHIMA Hideaki
Association of white blood cell count and clustered components of metabolic syndrome in Japanese men
CircJ 68 : 892-897, 2004

八谷 寛, 間淵智子, 大塚 礼, 和田恵子, 長澤伸江, 張 恵明, 村田千代栄, 石川美由紀, **堀 容子**, 近藤高明, 玉腰浩司, 豊嶋英明
肥満者における心血管疾患発症の過剰リスクを説明する新しい軸：血清レプチン値と白血球数の関連
健康管理事業団研究助成論文集 20 : 19-25, 2004

東野督子, 川瀬洋子, **堀 容子**, 滝 益栄, 小笠原ゆかり
緩和ケア病棟以外の病棟（一般病棟）で求められる看護師の緩和ケア能力（第1報）
日本赤十字愛知短期大学紀要 15 : 39-46, 2004

星野純子, 東野督子, **堀 容子**, 滝 益栄, 小笠原ゆかり
成人看護実習に電子聴診器を取り入れた聴診教育に関する一考察
日本赤十字愛知短期大学紀要 15 : 47-52, 2004

石原由華, 滝 益栄, 甲村朋子, 角南美帆, 荒木礼子, 古市めぐみ, 東野督子, 小笠原ゆかり, **堀 容子**
終末期看護における教育方法の検討：終末期患者の体験談聴講後のレポート分析を通して
日本赤十字愛知短期大学紀要 15 : 53-59, 2004

井口弘子, 前川厚子, 安藤詳子, 神里みどり, 渡邊憲子, 竹井留美, 作間久美, 平井 孝, 中里博昭
縦断調査による長期生存ストーマ保有者の人生の満足度
日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 8(2) : 14-18, 2004

IKEMATSU Yuko

Characteristics of and interventions for fever in Japan
Int Nurs Rev 51 : 229-239, 2004

高橋明子, 石黒彩子, 三浦清世美, **井口弘子**, 浅野みどり
慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）利用の現状とその役割 利用家族の調査から
日本看護医療学会雑誌 6(1) : 25-33, 2004

鏡森定信, 中谷芳美, **梶田悦子**, 金山ひとみ, 堀井雅恵, 松原勇
温泉利用と WHO 生活の質—温泉利用の健康影響に対する交絡要因としての検討
日本温泉気候物理医学会雑誌 67 : 71-78, 2004

勝山貴美子, 渡邊順子, 相原優子, 神里みどり, 遠藤淑美, 河津芳子
週一回実施した基礎看護学実習の新たな実践
日本看護医療学会雑誌 6(2) : 43-52, 2004

河津芳子, 野坂久美子, 大宮絵里子, 相原優子, 神里みどり
ヒューマンスティック・アプローチを用いた授業での学びの様相—連想詩画法による授業感想文の内容分析をとおして

Quality Nursing 10(3) : 251-256, 2004

河津芳子, 野坂久美子, 伊藤千晴

体験学習を取り入れた「コミュニケーション技術論」授業の展開
看護教員と実習指導者, 1 : 85-91, 2004

前川厚子, 井口弘子, 竹井留美, 光行多佳子, 桜井志保美, 神里みどり, 安藤詳子

ストーマを保有する高齢者への重点的ケア技術と研究課題
Quality Nursing 10(6) : 34-40, 2004

竹井留美, 前川厚子, 井口弘子, 神里みどり, 吉川由利子, 安藤詳子, 渡邊憲子, 作間久美, 平井 孝, 中里博昭

K オストミークラブ会員における東海大地震への対策
日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 8 : 9-13, 2004

小松喜子, 前川厚子, 神里みどり, 渋谷優子, 山崎京子, 錦織正子, 片平洸彦

潰瘍性大腸炎患者とクローン病患者の実態と保健医療福祉ニーズ(1) 共通点と相違点
日本難病看護学会誌 9 : 109-119, 2004

大隅牧子, 前川厚子, 神里みどり, 安藤詳子, 竹井留美, 楠神和男, 伊奈研次, 後藤秀実, 小松喜子, 伊藤美智子, 積美保子, 藤井京子, 高添正和, 片平洸彦

炎症性腸疾患患者の主観的 QOL に関する研究
月刊ナーシング 24(9) : 136-141, 2004

小松喜子, 前川厚子, 神里みどり, 渋谷優子, 山崎京子, 片平洸彦

炎症性腸疾患患者の医薬品副作用経験と保健医療福祉ニーズ
社会薬学 23(3) : 15-22, 2004

新實夕香理

看護学実習における自己教育力と授業過程評価の変化およびその関係
長野県看護大学紀要 6 : 61-71, 2004

大野(西川) 晶子, 安藤詳子, 神里みどり, 前川厚子

がん性疼痛管理の妨害因子に対する看護師の認識
がん看護 9(1) : 74-79, 2004

大宮絵里子, 三笥里香, 野坂久美子, 勝山貴美子, 相原優子, 山内豊明

フィジカルアセスメント演習運営と学生からの評価についての調査研究
看護展望 29 : 494-502, 2004

岡山久代, 飯田美代子, 玉里八重子

産褥早期の褥婦の身体活動・休息と主観的疲労感の関係 入院形態及び授乳形態による比較
日本看護医療学会雑誌 6(1) : 5-14, 2004

河内祐介, 中村 恵, 太田勝正

看護系大学における障害を持つ学生の受験可否の現状
看護教育 46 : 60-70, 2004

SAKAKIBARA Hisataka, FUJII Chie, NAITO Michitaka

Plasma fibrinogen and its association with cardiovascular risk factors in apparently healthy Japanese subjects
Heart Vessels 19 (3) : 144-148, 2004

HIRATA Mamoru, **SAKAKIBARA Hisataka**, TOIBANA Norikuni

Medial plantar nerve conduction velocities among patients with vibration syndrome due to rock-drill work
Ind Health 42 (1) : 24-28, 2004

HIRATA Mamoru, **SAKAKIBARA Hisataka**, ABE Mitsuru

Sensory nerve conduction velocities of the median, ulnar and radial nerve among patients with vibration syndrome
(Proceedings)

9th International Conference on Hand-Arm Vibration (June 5-8, 2004; Nancy, France) : 170-175, 2004

TOIBANA Norikuni, **SAKAKIBARA Hisataka**

Quantitative assessment of manipulative dexterity in patients with hand-arm vibration syndrome (Proceedings)

9th International Conference on Hand-Arm Vibration (June 5-8, 2004; Nancy, France) : 344-351, 2004

HAMAJIMA Nobuyuki, GOTO Yasuyuki, NISHIO Kazuko, TANAKA Daisuke, KAWAI Sayo, **SAKAKIBARA Hisataka**, KONDO Takaaki

Helicobacter pylori eradication as a preventive tool against gastric cancer

Asian Pac J Cancer Prev 5 (3) : 246-252, 2004

KONDO Takaaki, **SAKAKIBARA Hisataka**

Characteristics of participants and nonparticipants in an educational program for senior citizens

J Jpn Soc Nurs Health Care (NihonKango Iryou Gakkai Zasshi) 6 (2) : 16-22, 2004

新實房子, 山田満尚, 道上晋也, 鈴木和代

当院で出産した在日ブラジル人の周産期における実態調査

愛知母性衛生学会誌 22 : 33-38, 2004

山内豊明

ケアの標準化に欠かせない言語の標準化

コミュニティケア 6 : 21-23, 2004

山内豊明

臨床における知の体系—医学と看護学における相同性と相違性—

聖路加看護学会誌 8 (1) : 56-59, 2004

山内豊明, 渡辺千尋, 三笥里香

血圧測定に必要とされる安静時間の妥当性についての実証的研究

日本看護技術学会誌 3 (2) : 13-21, 2004

〔総説・解説・その他〕

相原優子, 佐藤栄子, 橋本秀和, 恵美宣彦, 松下 正

造血器腫瘍のために通院しながら社会生活を送っている20代・30代の人々の希望について

日本看護科学学会誌 24:83-91, 1905

浅野みどり

気管支喘息をもつ学童のQOLの現状—QOL調査票開過程から見えてきたもの—

日本看護クリティカルシンキング研究会誌 4:24-28, 2004

井口弘子

北米のクリティカルシンキング教育—George Mason Universityにおける経験—

日本看護クリティカルシンキング研究会誌 4(1):5-10, 2004

井口弘子, 桜井志保美, 前川厚子, 吉川由利子

看護過程レクチャー 閉塞性動脈硬化症患者の看護 アセスメントの基本

クリニカルスタディー 25(11):883-889, 2004

高橋明子, 石黒彩子, 三浦清世美, 井口弘子, 浅野みどり

慢性疾患児家族宿泊施設(ファミリーハウス)利用の現状とその役割—利用家族の調査から—

日本看護医療学会雑誌 6(1):25-33, 2004

前川厚子, 井口弘子, 竹井留美, 光行多佳子, 桜井志保美, 神里みどり, 安藤詳子

ストーマを保有する高齢者への重点的ケア技術と研究課題

Quality Nursing 10:34-40, 2004

森田せつ子

男女共同参画社会と助産師

健康文化 39:13-17, 2004

奈良間美保

家族とのコミュニケーション技術 退院時の対応

小児看護 27:629-633, 2004

太田勝正

看護情報学の歴史とこれから目指すもの—なぜ看護情報学は必要か—

インターナショナルナーシングレビュー 27:28-34, 2004

太田勝正

書評「APA論文作成マニュアル」

看護 56:104-1, 2004

榊原久孝

振動障害の末梢神経機能評価法について

末梢神経 15(2) : 10-15, 2004

桜井志保美, 井口弘子, 前川厚子, 吉川由利子

看護過程レクチャー 閉塞性動脈硬化症患者の看護 事例展開
クリニカルスタディー 25(11) : 58-65, 2004

山内豊明

米国に学ぶ看護職の多様性・専門性—個人情報とリスクマネジメント—
JANAMEF NEWS 26 : 5, 2004

[研究費・班研究等]

小野雄一郎, 吉田 勉, 長岡 芳, 今枝敏彦, 蛭田秀一, 島岡みどり, 堀 文子, 巽あさみ, **安藤詳子**, 服部洋児
高齢者介護作業負担軽減をめざした移乗介助補助具の有用性と適用方法に関する研究
平成13—15年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書 1冊, 2004

江藤真紀

愛知県西枇杷島町における地域高齢者の健康と転倒に関する実態調査
厚生労働科学研究長寿科学総合研究事業 pp 15-27, 2004

梶田悦子, 中谷芳美, 土井由利子, 松原 勇, 鏡森定信

温泉利用健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究—温泉利用の慢性・長期効果に
関する事例対照研究その1 プログラムに基づいた運動教室長期参加者における検討—
平成15年度厚生労働科学研究がん予防等健康科学総合研究事業報告書 pp 6-13, 2004

中谷芳美, **梶田悦子**, 土井由利子, 松原 勇, 鏡森定信

温泉利用健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究—温泉利用の慢性・長期効果に
関する事例対照研究その2 非教室形式・任意運動浴施設利用者における検討—
平成15年度厚生労働科学研究がん予防等健康科学総合研究事業報告書 pp 14-20, 2004

神里みどり, 前川厚子, 小松喜子, 渋谷優子, 山崎京子, 錦織正子, 片平洸彦

炎症性腸疾患 (IBD) 患者の保健・医療・福祉ニーズの現況
平成15年度総括・分担研究報告書 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研
究 pp 117-123, 2004

前川厚子, 神里みどり, 安藤詳子, 楠神和男, 伊奈研次, 後藤秀実, 小松喜子, 伊藤美智子, 積美保子, 藤井京子,
高添正和, 片平洸彦

ストーマと骨盤内パOUCHを保有する IBD 患者の QOL
平成15年度総括・分担研究報告書 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研
究 pp 140-142, 2004

小松喜子, **前川厚子, 神里みどり**, 渋谷優子, 山崎京子, 錦織正子, 片平洸彦

炎症性腸疾患 (IBD) 患者の訴える有害事象とその対策のあり方

平成15年度総括・分担研究報告書 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 pp 124-129, 2004

大隅牧子, **前川厚子**, **神里みどり**, **安藤詳子**, 楠神和男, 伊奈研次, 後藤秀実, 小松喜子, 伊藤美智子, 積美保子, 藤井京子, 高添正和, 片平洸彦

炎症性腸疾患患者の主観的 QOL に関する研究

平成15年度総括・分担研究報告書 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 pp 130-139, 2004

太田薫里, 小林 元, 佐々木敏, **前川厚子**, **神里みどり**, 伊藤美智子, 渋谷優子, 山崎京子, 小松喜子, 白石弘美, 内山 幹, 中村 眞, 清水俊明, 片平洸彦

小児 IBD の症例・対照研究計画

平成16年度第1回総会抄録集 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 p 10, 2004

小松喜子, **前川厚子**, **神里みどり**, 渋谷優子, 山崎京子, 片平洸彦

炎症性腸疾患 (IBD) 患者の「人生の満足度」の変化とその要因

平成16年度第1回総会抄録集 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 pp 25-26, 2004

伊藤美智子, **前川厚子**, **神里みどり**, 青山京子, 島田よし江, 楠神和男, 伊奈研次, 後藤秀実, 小松喜子, 席美保子, 渋谷優子, 白石弘美, 太田薫里, 小林 元, 片平洸彦

クローン病患者における栄養療法と病状に関する実態調査

平成16年度第1回総会抄録集 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 pp 27-28, 2004

山内豊明, 三笠里香, 志賀たずよ, 佐々木詩子

難病訪問看護に必要とされるアセスメント技能に関する研究—訪問看護場面への参加観察を通して—

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業平成15年度総括・分担研究報告書 pp 83-99, 2004

山内豊明, 千本美紀

集中治療室における看護業務の分析—国内・国外の文献データベースから—

急性期入院医療における医療および看護の集中度を基礎とした患者分類方法に関する研究 (厚生労働省科学研究費補助金 (医療技術総合研究事業) 平成15年度研究報告書) pp 59-64, 2004

山内豊明

国外における根拠に基づく看護研究文献のデータベース化に関する研究

根拠に基づく看護技術のデータベース化に関する研究 厚生労働科学研究費補助金 (医療技術評価総合研究事業) 平成15年度総括・分担研究報告書, 2004.3

山内豊明

国外における根拠に基づく看護研究文献のデータベース化に関する研究

根拠に基づく看護技術のデータベース化に関する研究 厚生労働科学研究費補助金 (医療技術評価総合研究事業) 平成13—15年度総合研究報告書, 2004.3

〔その他印刷物等〕

濱松加寸子

第2章 地域医療施策の現状と課題

地域福祉・医療と行政施策上の諸問題（現代社会構想・分析研究所）pp 8-13, 2004

濱松加寸子

おわりに 今後の展望と若干の課題

地域福祉・医療と行政施策上の諸問題（現代社会構想・分析研究所）pp 20-21, 2004

神里みどり

大学でのレポート・論文の書き方と文献検索（講演資料集）

日総研, pp 1-56, 2004

水溪雅子

看護における看護師の感情

健康文化, 2004

桜井志保美

精神保健

介護福祉士国家試験過去3年頻出重要問題2005 pp 190-200, 2004

桜井志保美

医学一般, 精神保健

介護福祉士国家試験問題と対策2005下 pp 4-44, 2004

〔学会発表〕

ANDO Shoko, NISHIKAWA Akiko, KAMIZATO Midori, MAEKAWA Atsuko

Nursing practice of cancer pain relieving in general hospital (Abstract p59, 2004)

Fifth International Nursing Research Conference, 2004. 8 (Fukushima)

ANDO Shoko, KAMIZATO Midori, NISHIKAWA Akiko, MAEKAWA Atsuko

The recognition of the medical staff member concerning palliative care in general hospitals (Abstract Book p85, 2004)

13th International Conference on Cancer Nursing, 2004. 8 (Sydney, Australia)

安藤詳子, 林亜希子, 大野（西川）晶子, 神里みどり, 前川厚子

「チーム機能に影響する要因」に関する緩和ケア病棟と一般病棟の比較（プログラム講演抄録集）

第9回日本緩和医療学会総会, 2004. 6（札幌）

巽あさみ, 小野雄一郎, 今枝敏彦, 蛭田秀一, 島岡みどり, 堀 文子, 安藤詳子, 服部 洋児

各種上方移動介助方法に関する介助者および患者の自覚的評価の比較（産業衛生学雑誌 第46巻 臨時増刊号 p436, 2004）
第77回日本産業衛生学会, 2004.4（名古屋）

ASANO Midori, SUGIURA Taichi, MIURA Kiyomi, ISHIGURO Ayako

Quality of life in school-aged children with asthma in Japan, Investigated through the Japanese school-aged children with asthma QOL questionnaire 3rd version（Proceeding of First Asia-Pacific Regional Adolescent Health Congress, p 105, 2004）

First Asia-Pacific Regional Adolescent Health Congress Towards healthy adolescence : Intersectoral Collaboration, 2004. 5（Hong Kong, China）

浅野みどり

障害児の家族との協働に向けた研究的アプローチ West 症候群をもつ子どもの家族との関わりの現状（家族看護学研究10(2), p 22, 2004）

第11回日本家族看護学会学術集会, 2004.5（神戸）

立岡弓子, 浅野みどり, 森 秀子

家族看護学の発展にむけた視点についての文献検討（第一報） 看護の各専門領域における家族のとらえ方の特徴に関する研究（家族看護学研究10(2), p 49, 2004）

第11回日本家族看護学会学術集会, 2004.5（神戸）

浅野みどり, 立岡弓子, 森 秀子

家族看護学の発展に向けた視点についての文献検討（第2報） 「家族の健康」の概念に関する検討（家族看護学研究10(2), p 48, 2004）

第11回日本家族看護学会学術集会, 2004.5（神戸）

浅野みどり, 杉浦太一, 三浦清世美, 鳥居新平, 石黒彩子

喘息をもつ学童の自記式 QOL 調査票最終版の開発（第1報） 信頼性・妥当性の検討（アレルギー53(8-9), p 991, 2004）

第54回日本アレルギー学会総会, 2004.5（横浜）

杉浦太一, 浅野みどり, 三浦清世美, 鳥居新平, 石黒彩子

喘息をもつ学童の自記式 QOL 調査票最終版の開発（第2報） 全国調査による QOL 低得点群の特徴（アレルギー53(8-9), p 991, 2004）

第54回日本アレルギー学会総会, 2004.5（横浜）

杉浦太一, 浅野みどり, 三浦清世美, 森田せつ子, 石黒彩子

喘息をもつ学童・生徒の自記式 QOL 調査票の標準化（講演集24号 p 588, 2004）

第24回看護科学学会学術集会, 2004.5（東京）

松下文子, 浅野みどり, 三浦清世美, 石黒彩子

処置を受ける小児への援助に対する外来看護師の認識と実際（プログラム・講演抄録集, p 34, 2004）

第6回日本看護医療学会学術集会, 2004.5（京都）

遠藤淑美

慢性期統合失調症を有する人の自我発達を支援する看護援助の構造 (抄録集, p 32-33, 2004)
第14回日本精神保健看護学会総会・学術集会, 2004.6 (新潟)

後藤由紀, 中谷芳美, 松原 勇, **江藤真紀**, **梶田悦子**, 鏡森定信

地域高齢者の骨折経験は社会参加および QOL に影響を及ぼすか? (抄録集, p 722, 2004)
第63回日本公衆衛生学会総会抄録集, 2004.10 (松江)

藤井千恵, **榊原久孝**

児童生徒の動脈硬化危険因子と血漿フィブリノゲン濃度との関連 (抄録集, p 42)
第50回東海公衆衛生学会学術大会, 2004.7 (名古屋)

藤井千恵, **榊原久孝**

小中学生の血漿フィブリノゲン濃度と動脈硬化危険因子との関連 (抄録集, p 537)
第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10 (松江)

藤井千恵, **榊原久孝**

家庭・学校・地域連携による小中学生の生活習慣病予防活動の取り組み (講演集, p 205, 2004)
第7回日本地域看護学会学術集会, 2004.6 (大阪)

安藤映里子, 窪園康子, 菅井恭子, 南波喜恵子, 松田圭子, 草田怜美, 松本恵美子, **藤井千恵**, **榊原久孝**

子育てひろばから見える子育て支援の現状とあり方 (抄録集, p 11-12)
第50回名古屋市公衆衛生研究発表会, 2004.5 (名古屋)

松浦綾香, **濱松加寸子**, **森田せつ子**

父性度・母性度: 親準備性の発達および子どもから見た親の父性度・母性度 (第45回集録集, p 171, 2004)
第45回日本母性衛生学会総会学術集会, 2004.9 (東京)

児玉亜由美, **濱松加寸子**

開発途上国における母子保健への支援方法—バングラディッシュ農村部女性の実践活動から— (第45回集録集, p 193, 2004)
第45回日本母性衛生学会総会学術集会, 2004.9 (東京)

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTOH Masahiro, OKADA Taro, KONDOh Makoto, WATANABE Kosuke, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, YOSHIDA Yukohiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, KONDO Takahisa, MUROHARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

How dose triggered ectopic activity induce atrial fibrillation within the pulmonary veins?
第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

HARATA Shuji, INDEN Yasuya, OSHIMA Satoru, MUTOH Masahiro, NODA Hironori, SHIBATA Yoshihisa, TAKADA Yasunobu, KONDO Takahisa, NODA Shoji, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Tyoaki

Prediction of arrhythmogenic pulmonary venis initiating atrial fibrillation by holter recording
第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

OKADA Taro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTOH Masahiro, KONDOH Makoto, WATANABE Kosuke, DOMORI Takemasa, UMEDA Hisashi, TANI Tomomitsu, MATSUSHITA Tyoaki, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki, TOYAMA Junji

How long term serial monitoring is needed to detect pulmonary vein stenosis after pulmonary vein isolation?

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

UNNO Kazumasa, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, MURAMATSU Takashi, SHIMANO Masayuki, MATSUSITA Kunihiro, NANASATO Mamoru, TAKEZAWA Hirito, HIRAYAMA Haruo, ITOH Teruo, OKADA Taro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, INDEN Yasuya, TAKEFUJI Mikito, KONDO Takahisa, MUROHARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

A novel approach for single-unit CRT with ICD backup —Usefulness of transvenous single-site LV pacing/sensing ICD using bigpolar LV lead—

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

TAKADA Yasunobu, HARADA Shuji, Ooshima Satoru, SHIBATA Yoshihisa, NODA Hironori, YAMADA Kiyoyasu, MUTOH Masahiro, MIURA Manabu, IMAI Hajime, KONDO Takahisa, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Pulmonary vein isolation induces reverse remodeling in atrium in patients with paroxysmal atrial fibrillation

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

MURAKAMI Yoshimasa, YAMADA Takumi, MUTOH Masahiro, OKADA Taro, KONDOH Makoto, WATANABE Kosuke, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, Ooshima Satoru, MUROHARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

Left atrial macroreentrant tachycardia can mimic the electrocardiographic characteristics of atrial flutter after linear ablation of cavo-tricuspid annulus

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

MUTOH Masahiro, INDEN Yasuya, HARADA Shuji, Ooshima Satoru, YAMADA Kiyoyasu, NODA Hironori, SHIBATA Yoshihisa, MIURA Manabu, IMAI Hajime, TAKADA Yasunobu, Ooshima Satoru, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Assessment of atrial remodeling by frequency analysis of body surface ECG during atrial fibrillation

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

MUTOH Masahiro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, KONDOH Makoto, WATANABE Kosuke, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, KONDO Takahisa, MUROHARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

Low incidence of recovery of atrio-venous electrical connection after superior vena cava isolation; Comparison with pulmonary vein isolation

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTOH Masahiro, OKADA Taro, KONDOH Makoto, WATANABE Kosuke, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, KONDO Takahisa, MUROHARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

Can additional RF deliveries after successful pulmonary vein isolation reduce the recurrence of atrial fibrillation?

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

MURAMATSU Takeshi, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, UNNO Kazumasa, SHIMANO Masayuki,
MATSUSITA Kunihiro, NANASATO Mamoru, TAKEZAWA Hiroto, HIRAYAMA Haruo, ITOH Teruo, OKADA
Taro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, INDEN Yasuya, TAKEFUJI Mikito, KONDO Takahisa,
MUROHARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

Beneficial effect of cardiac resynchronization therapy on nocturnal disordered breathing in patients with chronic heart failure and intraventricular conduction delay

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

加藤浩樹, 山内一信, 黄 達民, 平井眞理

医用波形記述規約 MFER の有用性について

日本エム・イー学会東海支部学術会議, 2004.10 (名古屋)

HORI Yoko, HIGASHINO Tokuko, TAKI Masue

Factors related to salty taste preferences and obesity (Japan Academy of Nursing Science pp 72, 2004)

5th International Nursing Research Conference, 2004.8 (Fukushima)

HARADA Masumi, **HORI Yoko**, TAKASU Mika, OGASAWARA Yukari, HIGASHINO Tokuko, MIZUNO Satoshi

Factors related to attitude towards death nursing students : Report No. 2 (Japan Academy of Nursing Science pp187, 2004)

5th International Nursing Research Conference, 2004.8 (Fukushima)

堀 容子, 小笠原ゆかり, 小林督子, 滝 益栄, 玉腰浩司, 近藤高明, 豊嶋英明

保健指導における味付けの好みの意義: 男性における生活習慣病諸関連検査成績との関連から (日本看護研究学会誌 pp92, 2004)

第30回日本看護研究学会学術集会, 2004.7 (大宮)

大塚 礼, 八谷 寛, 玉腰浩司, 堀 容子, 長澤伸江, 近藤高明, 豊嶋英明

職域男性における自覚的ストレスと血清レプチン濃度との関連 (日本肥満学会誌10 (Suppl.): 186, 2004)

第25回日本肥満学会, 2004.9 (大阪)

近藤高明, 堀 容子, 八谷 寛, 玉腰浩司, 豊嶋英明

各種肥満指標を metabolic syndrome 関連徴候のスクリーニングに用いた場合の有用性 (日本肥満学会誌 10 (Suppl.): 185, 2004)

第25回日本肥満学会, 2004.9 (大阪)

大塚 礼, 八谷 寛, 玉腰浩司, 和田恵子, 堀 容子, 近藤高明, 豊嶋英明

職域コホートにおける血清レプチン濃度と生活習慣との関連 (日本循環器予防学会誌 39(2): 104, 2004)

第39回日本循環器予防学会, 2004.4 (札幌)

堀 容子, 大塚 礼, 和田恵子, 八谷 寛, 玉腰浩司, 近藤高明, 豊嶋英明

濃い味の好みと肥満との関連性に関する検討 (日本循環器予防学会誌 39(2): 104, 2004)

第39回日本循環器予防学会, 2004.4 (札幌)

近藤高明, 堀 容子, 玉腰浩司, 八谷 寛, 石川美由紀, 村田千代栄, 張 恵明, 大塚 礼, 大西丈二, 豊嶋英明
長野県阿南町での下肢からの高齢者健康づくり事業の評価: 下肢機能と足底形態の変化からみた介入効果 (日本老年
医学会雑誌 41(1):128, 2004)
日本老年医学会, 2004.1 (東京)

井口弘子, 前川厚子, 安藤詳子, 神里みどり, 竹井留美, 渡邊憲子, 作間久美, 平井 孝, 中里博昭
「健心友の会」縦断調査による人生の満足度
第21回日本ストーリーマリハビリテーション学会, 2004.2 (東京)

石井 真, 小林加奈, 都築知香枝, 森阿紀子, 石黒彩子, 奈良間美保, 三浦清世美, 浅野みどり
アトピー性皮膚炎を持つ母親の療養に関連したストレスについて (プログラム・講演抄録集, p 35, 2004)
第6回日本看護医療学会学術集会, 2004.9 (京都)

山田知子, 石黒彩子, 浅野みどり, 三浦清世美, 杉浦太一
日本語版 Asthma Compliance Instrument (ACI) の信頼性・妥当性の検討 (日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会
誌, 2(2), p 167, 2004)
第21回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 2004.5 (宇都宮)

野田泰女, 石黒彩子, 浅野みどり, 三浦清世美
病児保育に対する認識-D 保育園での調査— (小児保健あいち 第2号, pp 11-12, 2004)
平成15年度愛知県小児保健協会総会兼研修会, 2004.5 (名古屋)

新村哲夫, 張 淼, 西野治身, 長瀬博文, 荒谷哲雄, 畢 力夫, 梶田悦子, 賈 光, 王 紅兵, 鏡森定信
中国内モンゴル若年女性におけるフッ素暴露の骨量及び骨代謝に及ぼす影響 (日本衛生学会誌59(2):156-156, 2004)
第74回日本衛生学会総会, 2004.3 (東京)

広田直美, 松原 勇, 梶田悦子
温泉運動浴の長期・慢性効果に関する事例対照研究 (日本衛生学会誌51(10):p 372, 2004)
第63回日本公衆衛生学会, 2004.10 (松江)

KAMIZATO Midori, SHIBUYA Masako, MAEKAWA Atsuko

Relationship between menopausal symptoms and lifestyle behaviors, other factors in breast cancer patients
13th International Conference on Cancer Nursing, 2004.8 (Sydney, Australia)

TAUCHI Kaori, **KAMIZATO Midori**, SHIBUYA Motoko

The professional awareness of nurses and society expectation for nurses
5th International Nursing Research Conference, 2004.8 (福島)

神里みどり, 渋谷優子, 安藤詳子, 前川厚子

内分泌治療中の乳癌患者の更年期症状とその対処行動
第18回日本がん看護学会学術集会, 2004.2 (東京)

勝山貴美子, 濱松加寸子

看護師・保健師の保健・医療・福祉の連携および情報活用に関する意識調査 (第24回医療情報学連合大会論文集)

第24回日本医療情報学会, 2004.11 (名古屋)

小笠原ゆかり, 小塩泰代, 大谷かがり, **河津芳子**

看護教育の変遷—雑誌『看護教育』の特集テーマを中心に (講演抄録集)

第6回日本看護医療学会学術集会, 2004.9 (京都)

小塩泰代, 大谷かがり, 小笠原ゆかり, **河津芳子**

「ライフヒストリー」という用語をめぐる (講演抄録集)

第6回日本看護医療学会学術集会, 2004.9 (京都)

大谷かがり, 小塩泰代, 小笠原ゆかり, **河津芳子**

論文からみたライフヒストリー研究の動向 (講演抄録集)

第6回日本看護医療学会学術集会, 2004.9 (京都)

MENJU Noriko, **MAEKAWA Atsuko**, TAKEI Rumi, FUJII Yuko, **KAMIZATO Midori**, **ANDO Shoko**

Convoy social support for aged ostomates in Japan (Abstract Book p 106, 2004)

13th International Conference on Cancer Nursing, 2004.8 (Sydney, Australia)

MAEKAWA Atsuko, MENJU Noriko, TAKEI Rumi, FUJII Yuko, **KAMIZATO Midori**, **ANDO Shoko**

Development of ostomate's self adjustment scale ver2(OSAS 2) (Abstract Book p 76, 2004)

13th International Conference on Cancer Nursing, 2004.8 (Sydney, Australia)

青山京子, 前川厚子, 竹井留美, **神里みどり**, **安藤詳子**, 藤井優子, 楠神和男, 伊奈研次, 安藤貴文, 後藤秀実, 大島豊子, 島田よし江, 松本佐恵子, 小久保直子, 小松喜子, 伊藤美智子, 積美保子, 藤井京子, 高添正和, 片平洸彦
クローン病患者の症状コントロールと栄養関連要因

第23回名古屋クローン病研究会, 2004.9 (名古屋)

竹井留美, 前川厚子, 井口弘子, **神里みどり**, 吉川由利子, **安藤詳子**, **渡邊憲子**, 作間久美, 平井 孝, 中里博昭
東海地区在住オストメイトの災害対策の現状

第21回日本ストーマリハビリテーション学会, 2004.2 (東京)

三浦清世美, 浅野みどり, 杉浦太一, **石黒彩子**, 山田知子

自記式調査票を用いた気管支喘息をもつ学童のQOL~重症度による小・中・高校生のQOLの傾向~ (講演集)

日本小児看護学会第14回学術集会, 2004.7 (宮崎)

三浦清世美, 杉浦太一, 浅野みどり, 森田せつ子, **石黒彩子**

喘息をもつ学童・生徒のQOLの現状—通院施設の規模による比較検討— (講演集24号)

第24回 日本看護科学学会学術集会, 2004.12 (東京)

三浦清世美, 浅野みどり, **石黒彩子**, 杉浦太一, 山田知子

喘息をもつ小・中・高校生のQOL 性別とQOL得点の傾向 (日本看護研究学会雑誌27(3), p 215, 2004)

第30回日本看護研究学会学術集会, 2004.5 (大宮)

水溪雅子, 渋谷菜穂子, 安田道子, 登坂祐明, 近藤祐明

こころに問題を持った親の会の試み
第14回日本精神保健看護学会, 2004.6 (新潟)

奈良間美保, 堀 妙子, 宮城島恭子, 田中千代, 松岡真里
小児在宅療養コーディネーター研修会に参加した看護師の認識の特徴 (講演集, p 505, 2004)
第24回日本看護科学学会学術集会, 2004.12 (東京)

奈良間美保
障害児の自立に向けた家族の養育支援に関する研究 (抄録集, p 23, 2004)
第11回日本家族看護学会学術集会, 2004.8 (神戸)

大野 (西川) 晶子, 安藤詳子
看護学生の死の不安認知に関する授業前後の変化 (日本看護研究学会雑誌 27(3): 78, 2004)
第30回日本看護研究学会学術集会, 2004.6 (名古屋)

岡山久代, 高橋真理
初妊婦と実母の両者間におけるサポートの質的分析 (抄録集 p 116)
第45回日本母性衛生学会学術集会, 2004.9 (東京)

大野舞子, **岡山久代, 濱松加寸子**, 玉里八重子
妊婦と実母の母乳育児に関する意識の比較 (第45回抄録集, p 165, 2004)
第45回日本母性衛生学会総会学術集会, 2004.9 (東京)

石川祥江, **岡山久代, 濱松加寸子**, 玉里八重子
正常新生児のカンガルーケアに関する研究: 分娩の満足度及び育児肯定感との関連性 (第45回集録集, p 205, 2004)
第45回日本母性衛生学会総会学術集会, 2004.9 (東京)

OTA Katsumasa, SATO Tomoko, YAHIRO Michiko, MAEDA Jukai
Problems of confidentiality of patient's information in a clinical practice at a college of nursing in Japan
MEDINFO2004, 2004.9 (San Francisco, USA)

門井貴子, **太田勝正**
看護師による患者への役割期待とその要因の探求
第30回日本看護研究学会学術集会, 2004.7 (大宮)

唐澤由美子, 佐々木幾美, 濱田悦子, **太田勝正**
看護学助手のFD (ファカルティ・ディベロップメント) に関する研究—教員間の交流に焦点を当てて—
第24回日本看護科学学会学術集会, 2004.12 (東京)

門井貴子, **太田勝正**
入院患者の役割に対する患者の認識ならびに看護師からの期待とのずれに関する一考察
第24回日本看護科学学会学術集会, 2004.12 (大宮)

前田樹海, **太田勝正**, 中村 恵, 八尋道子

看護系大学卒業者のキャリアスタイルについて—卒業アルバムを利用した追跡調査法の有効性について—
第24回日本看護科学学会学術集会, 2004.12 (東京)

FUTATSUKA Makoto, SHONO Masashi, **SAKAKIBARA Hisataka**, QUAN Pham Quoc
Hand arm vibration syndrome among quarry workers in Vietnam (Proceedings, p 27-28)
10th International Conference on Hand Arm Vibration, 2004.6 (Las Vegas, USA)

SAKAKIBARA Hisataka, HIRATA Mamoru, TOIBANA Norikuni
Impaired manipulative dexterity and hand functional difficulties in patients with hand-arm vibration syndrome
(Proceedings, p 117-118)
10th International Conference on Hand Arm Vibration, 2004.6 (Las Vegas, USA)

HACHISUKA Tomohiro, SUNAZUKA Ryo, **SAKAKIBARA Hisataka**
Evaluation of human response to vibration of impact drill and antivibration glove (Proceedings, p 57-63)
12th Japan Group Meeting on Human Response to Vibration 2004, 2004.7 (Aso, Kumamoto)

SAKAKIBARA Hisataka, HIRATA Mamoru, TOIBANA Norikuni
Impaired manual dexterity in patients with hand-arm vibration syndrome (Proceedings, p 109-113)
12th Japan Group Meeting on Human Response to Vibration 2004, 2004.7 (Aso, Kumamoto)

FUTATSUKA Makoto, SHONO Masashi, **SAKAKIBARA Hisataka**, QUAN Pham Quoc
Risk estimation of hand arm vibration syndrome in the quarry workers in Vietnam (Proceedings, p 120-125)
12th Japan Group Meeting on Human Response to Vibration 2004, 2004.7 (Aso, Kumamoto)

SAKAKIBARA Hisataka
Neurological factors affecting vascular assessment tests (Abstracts, p 2)
Yamaguchi Workshop 2004 on Standardization of Vascular Assessment Methods, 2004.12 (Ube)

榊原久孝, 平田 衛, 樋端規邦
振動障害患者の手指巧緻性の検査法の検討 (講演集, p 398)
第77回日本産業衛生学会, 2004.4 (名古屋)

庄野昌弘, 二塚 信, **榊原久孝**
ベトナム・ビンディン州の採石労働者における振動障害の実態 (講演集, p 397)
第77回日本産業衛生学会, 2004.4 (名古屋)

前田節雄, **榊原久孝**
温冷覚閾値測定への押しつけ力制御の場合と非制御の場合の影響 (講演集, p 494)
第77回日本産業衛生学会, 2004.4 (名古屋)

西谷直子, **榊原久孝**
男性労働者における肥満と食行動および職場ストレスとの関連について (講演集, p 510)
第77回日本産業衛生学会, 2004.4 (名古屋)

原田直子, 榊原久孝

高齢者筋力強化教室の評価に関する研究 (抄録集, p 41)
第50回東海公衆衛生学会学術大会, 2004.7 (名古屋)

高野美代子, 榊原久孝

一人暮らし高齢者のQOLと社会的支援について (抄録集, p 55)
第50回東海公衆衛生学会学術大会, 2004.7 (名古屋)

内山美代子, 宮地活子, 榊原久孝, 堀家麻衣子

糖尿病患者の血糖, 血圧コントロール状況と早期腎症との関連
第70回日本糖尿病学会中部地方会, 2004.9 (名古屋)

高野美代子, 榊原久孝

地域一人暮らし高齢者のQOLと社会的支援について (抄録集, p 636)
第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10 (松江)

原田直子, 榊原久孝

高齢者筋力強化教室の評価に関する研究 (日本衛生学会誌51(10):p722, 2004 抄録集, p 697)
第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10 (松江)

榊原久孝, 樋端規邦, 平田 衛

振動障害患者の末梢神経障害と手指巧緻性 (抄録集, p 36-37)
平成16年度日本産業衛生学会東海地方会学会, 2004.11 (静岡)

渡邊実香, 岡山久代, 赤川里美, 濱松加寸子, 森田せつ子

大学助産師教育における助産学実習技術評価の検討—チェックリストの作成を試みて—(第45回集録集, p 218, 2004)
第45回日本母性衛生学会総会学術集会, 2004.9 (東京)

安藤寿夫, 後藤真紀, 菅沼貴康, 柴田大二郎, 下村裕司, 原田統子, 岩瀬 明, 渡邊実香, 森田せつ子, 吉田 宏
愛知県不妊専門相談センター開設年度の実績および不妊相談に関する県民ニーズの考察 (プログラム集, p 13, 2004)
第44回日本産婦人科愛知地方部会学術集会, 2004.8 (名古屋)

安藤寿夫, 後藤真紀, 菅沼貴康, 柴田大二郎, 下村裕司, 原田統子, 岩瀬 明, 渡邊実香, 森田せつ子
行政の推進する不妊専門相談センターの果たすべき役割についての考察—愛知県不妊専門相談センターからの報告—
(抄録集 p 189, 2004)
第22回日本受精着床学会, 2004.8 (旭川)

鈴木悦湖, 渡邊憲子, 井口弘子

喉頭摘出者の社会参加における関連要因 (抄録集)
第6回日本看護医療学会, 2004.9 (京都)

YAMAUCHI Toyooki, WATANABE Chihiro, MITOMA Rika

A study of the validity of rest time needed for the blood pressure measurement (2004 Congress Proceedings p491, 2004)

National Congress on the State of the Science in Nursing Research, 2004.10 (Washington DC, USA)

三笠里香, 山内豊明

呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメントに焦点をおいた継続的教育プログラムとその影響要因 (医療マネジメント学会雑誌 p 135, 2004)

第6回医療マネジメント学会学術総会, 2004.6 (高松)

山内豊明, 三笠里香

看護就業状況とフィジカルアセスメント教育プログラムの教育成果との関連性 (医療マネジメント学会雑誌 p 135, 2004)

第6回医療マネジメント学会学術総会, 2004.6 (高松)

森 史江, 山内豊明

【バランスのよい食事】についての意識調査 (医療マネジメント学会雑誌 p 231, 2004)

第6回医療マネジメント学会学術総会, 2004.6 (高松)

山内豊明

米国に見る看護専門職の可能性

2004日米医学医療交流セミナー, 2004.9 (東京)

山内豊明, 三笠里香, 志賀たずよ, 佐々木詩子

パーキンソン病療養者の訪問看護に必要とされるフィジカルアセスメント (特定疾患の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上に資する研究班平成16年度研究報告会プログラム・抄録 p 32, 2004)

特定疾患の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上に資する研究班平成16年度研究報告会, 2004.12 (東京)

福井美代子, 市田恭郎, 岩越和子, 藤島裕子, 夏原千鶴, 岡山かよ子, 堀井康江, 吉田久美子

痴呆性高齢者地域ケアシステム再構築に向けてのニーズ調査結果 (第1報) (口演集)

第34回滋賀県公衆衛生学会, 2004.2 (大津)

吉田久美子, 川寄 孝, 森田芳江, 梶田悦子

児童虐待防止ネットワーク会議の果たす役割と学校との連携 (日本公衆衛生雑誌 51(10) : p 569, 2004)

第63回日本公衆衛生学会, 2004.10 (松江)

森田芳江, 吉田久美子, 梶田悦子

父親の育児・家事参加に関係する要因の検討 (日本公衆衛生雑誌 51(10) : p 571, 2004)

第63回日本公衆衛生学会, 2004.10 (松江)

荒川広美, 森田芳江, 後藤由紀, 吉田久美子, 梶田悦子

保護者の子育てに対する意識と子育て支援ニーズの実態 (日本衛生学会誌 51(10) : p 613, 2004)

第63回日本公衆衛生学会, 2004.10 (松江)

〔公開講座・講演会〕

安藤詳子

生命の循環とターミナルケア

H16年度名古屋大学ラジオ公開講座，2004.8（名古屋）

安藤詳子

看護実践の質を高めるナースの倫理

看護部講演会・医療法人豊田会刈谷総合病院，2004.11（刈谷）

浅野みどり

子育て期の家族とコミュニケーション

平成16年度名古屋大学医学部保健学科公開講座 ころの癒しとコミュニケーション，2004.5（名古屋）

遠藤淑美

事例研究の実際

日本精神科看護技術協会兵庫県支部看護研究セミナー講習会，2004.3（神戸）

遠藤淑美

一般看護理論

日本精神科看護技術協会精神科看護実習指導者研修会I，2004.7（東京）

遠藤淑美

看護研究の発表へ向けて

日本精神科看護技術協会鳥取県支部，2004.11（鳥取）

江藤真紀

転んだ経験ありますか？

転倒予防講演会，2004.10（豊田）

江藤真紀

転倒予防のひと工夫

転倒予防講演会，2004.11（西枇杷島町，愛知県）

堀 容子

臨床実習における看護過程の指導

小牧市民病院，2004.2（小牧）

堀 容子

看護診断の基礎

小牧市民病院，2004.7（小牧）

堀 容子

看護診断の基礎

小牧市民病院, 2004.9 (小牧)

藤井千恵

女性のからだと性～そのしくみ

桜花学園名古屋短期大学講演会, 2004.11 (名古屋)

濱松加寸子

自分のからだをみつめよう

全損保青婦センター婦人部会女性のつどい, 2004.7 (名古屋)

神里みどり

EBN 時代に求められる看護の専門性と看護実践

グリフィス大学フォーラム2004 in 名古屋, 2004.10 (名古屋)

水溪雅子

精神的問題を持つ患者の家族システムと家族支援 (メンタルケアのスペシャリスト養成講座)

メンタルケア協会, 2004.6 (名古屋)

水溪雅子

コミュニケーションにおける感情と癒し (こころの癒しとコミュニケーション)

名古屋大学医学部保健学科公開講座委員会, 2004.10 (名古屋)

荻野友美, 森田せつ子

保健師の母性観に関する検討 (愛知県母性衛生学会学術集会講演抄録集 P11)

第22回愛知県母性衛生学会, 2004.5 (名古屋)

奈良間美保

在宅療養児のケアに対する医療チームの取組み—1施設で行った調査報告—

第4回小児在宅療養コーディネーター研修会, 2004.8 (浜松)

奈良間美保

研修会の振り返りと今後の展望

第5回小児在宅療養コーディネーター研修会, 2004.11 (浜松)

太田勝正

患者情報とプライバシー

公立尾陽病院研修会, 2004.11 (甚目寺町, 愛知県)

榊原久孝

振動障害の病態について

第9回高知振動病研究会, 2004.3 (高知)

榊原久孝

疫学からみた運動の効果

名古屋大学総合保健体育科学センター公開講座，2004.7（名古屋）

榊原久孝

生活習慣病を通じた健康づくり

豊橋市ヘルスボランティア地域活動講座，2004.7（豊橋）

榊原久孝

健康であることとは

四日市市生活習慣病予防講座，2004.10（四日市）

渡邊実香，岡山久代，赤川里美，濱松加寸子，森田せつ子

大学助産師教育における助産学実習技術評価の検討—チェックリストの作成を試みて—（日本母性衛生学会学術集会抄録集 p 89）

日本母性衛生学会学術集会抄録集 p 89，2004.9（東京）

渡邊憲子

壮年・老年期の生活とコミュニケーション

平成16年度名古屋大学医学部保健学科公開講座，2004.10（名古屋）

放射線技術科学専攻

〔著書〕

長澤 亨, 長倉俊明, 津坂昌利, 山下芳範

第2章 ネットワーク技術

『医療情報 情報処理技術編』(日本医療情報学会医療情報技師育成部会編集) 篠原出版新社, 2004. pp 64-122

津坂昌利

第4章 画像伝送

『医用画像工学 第2版』(岡部哲夫・藤田広志編集) 医歯薬出版, 2004. pp 303-324

〔原著論文〕

AOYAMA Takahiko, IGUCHI Tetsuo, MIYATA Manabu, **OGATA Yoshimune**, **KOYAMA Shuji**, **MIYAHARA Hiroshi**

Evaluation of neutron dose to radiotherapy patients treated with 10 MeV x-ray beams based on photoneutron spectrometry

Jpn J Health Phys 39 : 130-137, 2004

AOYAMA Takahiko, **KOYAMA Shuji**, **KAWAURA Chiyo**

Organ dose measurement in x-ray CT and other diagnostic radiology by using novel photodiode dosimeters installed in an anthropomorphic phantom (Full Papers, 3h9 (pp 1-9), 2004)

IRPA11 : 1-9, 2004

宮崎潤二, 内野勝郎, 金田正徳, 本間光彦

第23回 名古屋大学解剖トレーニングセミナー参加報告

東洋医学とペインクリニック 34 : 33-43, 2004

FUKUHARA Rieko, ISHIGUCHI Tsuneo, **IKEDA Mitsuru**, OTA Toyohiro, TAKAI Katsufumi, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Take

Evaluation of abdominal aortic aneurysm for endovascular stent-grafting with volume-rendered CT images of vessel lumen and thrombus

Radiat Med 22 : 332-341, 2004

IMAI Kuniharu

Statistical analysis of electrical breakdown in a micro gap using weibull distribution and discussion on its process in high voltage

IEEEJ Trans Fundam Mater 124(9) : 785-790, 2004

IMAI Kuniharu

Relationship between surface discharge of Polbuschel type in an artificial void and pit formation

IEEE Annual Report 04CH37584(1) : 237-240, 2004

新美孝永, 今井國治, 亀谷健一, 日置竹志, 真野晃浩

判断基準の違いに基づいた観察者のグループ化と最適クラスタ化法の選択—医師的な判断基準を有する観察者集団の

検証一

日本放射線技術学会雑誌 60(4) : 513-519, 2004

新美孝永, 今井國治, 池田 充, 前田尚利

医用画像の視覚評価における損失情報量の導入

日本医用画像工学会大会抄録集 1 : 2004

新美孝永, 今井國治, 池田 充, 前田尚利

Contrast-Detail (C-D) 曲線下面積の情報工学的な意味と医用画像評価への適用

電子情報通信学会技術報告 104(430) : 430-435, 2004

今井國治

微小空隙内の摩耗的な PD 劣化進行と PD 諸量の経時変化との相関関係

第35回電気電子絶縁材料システムシンポジウム予稿集 1 : 221-224, 2004

ITOH Shigeki, IKEDA Mitsuru, ACHIBA Masataka, SATAKE Hiroko, IWANO Shingo, ISHIGAKI Takeo

Late-arterial and portal-venous phase imaging of the liver with a multislice CT scanner in patients without circulatory disturbances : automatic bolus tracking or empirical scan delay?

Eur Radiol 14 : 1665-1673, 2004

川浦稚代, 青山隆彦, 小山修司

X 線医学診断検査における生殖腺防護措置の有効性評価

医学物理 24 : 21-30, 2004

KODERA Yoshie, TAKAMURA Miho, TSUBOI Emi, OGAWA Masahisa, SUZUKI Rie, CHIHARA Aya, HORII Akiko, SHIMA Masamitsu, MACHIDA Yoshihito

Determination of imaging performance of a digital mammography

Medical Imaging 2004 : Physics of Medical Imaging 5368 : 743-750, 2004

服部真澄, 小山修司

頭部 CT 画像を用いた側頭葉内側部の自動計測法の開発

日本放射線技術学会雑誌 60 : 993-999, 2004

MAEDA Hisatoshi

Quantification of synchronous contraction of left ventricle in normal subjects using ECG gated-SPECT images

Physiol Meas 25 : 71-84, 2004

MIYAHARA Hiroshi, KATOH Keiji

Emission probability measurement of 94.7 keV gamma-ray for ¹⁶⁵Dy

Nucl Instrum Methods Phys Res A A516(1) : 104-108, 2004

MIYAHARA Hiroshi, KATOH Keiji, MARNADA Nada, IKEDA Keiichi, FUJIKI Kazuo, NISHINAKA Ichirou, TSUKADA Kazuaki, NAGAME Yuichirou, ASAI Masato, ICHIKAWA Sin-ichi, HABA Hiromitsu

Emission probability measurement principle Gamma-rays of ¹⁴⁷Eu

Nucl Intsrum Methods Phys Res A A523(1,2) : 96-101, 2004

MIYAHARA Hiroshi, KATOH Keiji, IKEDA Keiichi, FUJIKI Kazuo, NISHINAKA Ichirou, TSUKADA Kazuaki, NAGAME Yuichirou, ASAI Masato, ICHIKAWA Sin-ichi, HABA Hiromitsu

Gamma-ray emission probability measurement of ¹⁴⁹Eu

Nucl Intsrum Methods Phys Res A A533(3) : 404-408, 2004

MIYAHARA Hiroshi, **OGATA Yoshimune**, ISHIKAWA Naomi, KATOH Keiji, MARNADA Nada

Precise measurement of the emission probability of the 543 keV gamma ray of ¹⁹⁹P

Appl Radiat Isot 60 : 289-294, 2004

MIYAHARA Hiroshi, **OGATA Yoshimune**, FUJIKI Kazuo, KATOH Keiji, MARNADA Nada

Highly precise measurements of the relative gamma-ray intensities for ⁵⁶Mn and ⁷²Ga

Appl Radiat Isot 60 : 295-299, 2004

小金澤孝之, 飯田孝夫, 緒方良至, 辻 成人, 垣内正久, 佐竹 洋, 山西弘城, 佐久間洋一
環境水中トリチウム測定手法の簡素化 ―電解濃縮を用いた際の逆浸透膜による溶存イオン除去―
Radioisotopes 53 : 277-285, 2004

佐久間洋一, 飯田孝夫, 小金澤孝之, 緒方良至, 青山隆彦, 鳥養祐二, 太田雅寿, 高見美智己
化学形弁別低レベルトリチウムモニターの開発 2

Proceedings of the 5th Workshop on Environmental Radioactivity 1 : 49-54, 2004

緒方良至, 佐久間洋一, 大谷暢夫, 小高正敬

固体高分子膜電解装置によるトリチウム分離特性の解析

Proceedings of the 5th Workshop on Environmental Radioactivity 1 : 55-61, 2004

ISHIGAKI Satoko, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, SATAKE Hiroko, SAWAKI Akiko, ITOH Shigeki, IKEDA Mitsuru, ISHIGAKI Takeo, IMAI Tuneo

Multi-slice CT of Thyroid nodules : Comparison with Ultrasonography

Rad Med 22 : 346-353, 2004

[総説・解説・その他]

本間光彦

CR システムを用いた放射線治療領域における線量分布測定の新手法

INNERVISION 19(7), 2004

今井國治

第13回高電圧工学国際会議詳報

放電学会 47(1) : 24, 2004

小山修司

被曝線量と最適化

第3回国際 MDCT シンポジウム講演録 pp 7-11, 2004

島本佳寿広

画像認知学的解析に基づく乳癌のモニタ診断の安全性の確立に関する研究

INNERVISION 19(7):49, 2004

島本佳寿広

医療画像用 LCD が読影環境に与える影響

DIGITAL MEDICINE 5(2):54-56, 2004

津坂昌利, 長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(94) Windows のセキュリティ対策

臨床放射線 49(1):214-224, 2004

津坂昌利, 長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(95) RSNA 2003

臨床放射線 49(2):340-346, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門(96) ウィルス集計 (その1)

臨床放射線 49(3):464-466, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門(97) ウィルス集計 (その2)

臨床放射線 49(4):584-586, 2004

市橋卓司, **津坂昌利**, 長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(98) LATEX 2 HTML でホームページの作成 (その1)

臨床放射線 49(5):704-708, 2004

市橋卓司, **津坂昌利**, 長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(99) LATEX 2 HTML でホームページの作成 (その2)

臨床放射線 49(6):823-827, 2004

津坂昌利, 長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(100) 初心にかえて：電子メール考(1)

臨床放射線 49(7):942-946, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦

インターネット入門(101) 病院システム研修予約システムの構築

臨床放射線 49(8):1062-1064, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦
インターネット入門(102) ネットワーク展示会 Networld+Introp2004 TOKYO(1) セキュリティ製品
臨床放射線 49(9):1184-1187, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦
インターネット入門(103) ネットワーク展示会 Networld+Introp 2004 TOKYO(2) IC タグ, その他
臨床放射線 49(10):1289-1292, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦
インターネット入門(104) ネットワークを利用した機器
臨床放射線 49(12):1749-1753, 2004

長嶋宏和, 江本 豊, 高橋正樹, 市橋卓司, 辻村善樹, **津坂昌利**, 古賀佑彦
インターネット入門(105) 回線の切り替え
臨床放射線 49(13):1869-1872, 2004

[科研費・班研究等]

青山隆彦, 小山修司, 川浦稚代

X 線医学診断に伴う医療被曝による臓器線量計測システムの開発
平成14年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書, 2004

島本佳寿広, 池田 充

画像認知的解析に基づく乳癌のモニタ診断の安全性の確立に関する研究
平成14, 15年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2) 研究成果報告書, 2004

[その他印刷物等]

MIYAHARA Hiroshi, **MORITA Kousuke**

Measurement of gamma-ray emission probabilities for 105Ru
KURRI Progress Report 2003, p 30, 2004

霜村康平, **田伏勝義**, 青山裕一, 塩田泰生

密封小線源 Cs-137針 (Type: CDSCS_S16) における吸収線量分布の AAPM TG43方式と EGS 4 による計算の比較
Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP p 1, 2004

佐方周防, 中村 譲, **田伏勝義**, 高岡祥朗, 寺中朋文, 石居隆義, 佐藤弘史, 佐藤真一郎, 中野隆史, 辻井博彦
東アジアにおける子宮頸癌治療装置の物理的 QA/QC の現地調査, 2 一位置取得および線量計算の精度について
Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP p 1, 2004

田伏勝義, 中村 譲, 佐方周防, 寺中朋文, 辻井博彦

アジアにおける子宮頸癌小線源治療の物理的 QA/QC の現地調査

Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP p 1, 2004

霜村康平, 田伏勝義, 青山裕一

A Method for Calculating Absorbed Dose in Tissue by Cs-137 Needle Using EGS 4

Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP p 1, 2004

岩田 徹, 田伏勝義, 近藤智昭, 青山裕一

蛍光ガラス線量計の連続測定に対するプレヒート処理の応用

Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP p 1, 2004

下郷智弘, 田伏勝義, 野田朋男, 鈴木秀治

透過率データから算出した高エネルギー X 線スペクトルの検討

Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP, p 1, 2004

田伏勝義, 小山修司, 本間光彦, 岩田 徹, 霜村康平, 塩田泰生, 楠 輝文, 青山裕一, 三宅良和, 近藤智昭, 波戸芳人, 伴 秀一, 都丸禎三

放射光による蛍光ガラス線量計のエネルギー特性の検討

Proceedings of the 87th Scientific Meeting of JSMP p 1, 2004

田伏勝義, 小山修司, 本間光彦, 青山裕一, 波戸芳人, 伴 秀一, 平山英夫

Evaluation of Energy Characteristics of Glass Dosimeter using Synchrotron Radiation

Photon Factory Activity Report 2003 Part B,

[学会発表]

AOYAMA Takahiko, KOYAMA Shuji, KAWAURA Chiyo

Organ dose measurement in x-ray CT and other diagnostic radiology by using novel photodiode dosimeters installed in an anthropomorphic phantom (Abstracts, p135, 2004)

11th International Congress of the International Radiation Protection Association, 2004.5 (Madrid, Spain)

小菅友裕, 青山隆彦, 小山修司

球状フォトダイオードを使用した診断 X 線用線量計の開発 (日本放射線技術学会雑誌, 60(9), p.1209, 2004)

第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10 (大阪)

本間光彦, 金澤寛明

人体解剖実習前のステレオ X 線撮影 (日本放射線技術学会第60回総会学術大会予稿集)

第60回日本放射線技術学会総会学術大会, 2004.4 (横浜)

MORITA Junya, MIWA Kazuhisa, KITASAKA Takayuki, MORI Kensaku, SUENAGA Yasuhito, IWANO Shingo,

IKEDA Mitsuru, ISHIGAKI Takeo

Chance discovery in image diagnosis : analysis of perceptual cycles (Proceedings, p162-171)

16th European Conference on Artificial Intelligence, Workshop 4 : First European Workshop on Chance Discovery, 2004.8 (Valencia, Spain)

澤木明子, 佐竹弘子, **池田 充**, **島本佳寿広**, 石垣聡子, 福原理恵子, 石垣武男
乳癌の非触知石灰化病変におけるマンモグラフィと超音波画像の検討 (抄録集 p 239, 2005)
第63回日本放射線医学放射線学会学術大会, 2004. 4 (横浜)

加藤克彦, 二橋尚志, 伊藤信嗣, 阿部真治, 西野正成, **池田 充**, 田所匡典, 小林英敏, 石垣武男
脈絡膜悪性黒色腫における I-123 IMP シンチグラフィと F-18 FDG-PET の比較
第44回日本核医学会総会, 2004. 11 (京都)

二橋尚志, 加藤克彦, 伊藤信嗣, 西野正成, 石垣武男, **池田 充**, 奥村彰久, 加藤隆司, 伊藤健吾
Landau-Kleffner syndrom の [F-18]FDG PET 所見
第44回日本核医学会総会, 2004. 11 (京都)

IMAI Kuniharu, NIIMI Takanaga, **IKEDA Mitsuru**, **MAEDA Hisatoshi**, MANO, Akihiro, ENCHI Yukihiro
A new visual evaluation method quantifying visual information losses in medical imaging system (89th Scientific
Assembly and Annual Meeting Program 2004/Radiological Society of North America, p 734, 2004)
90th Scientific Assembly and Annual Meeting/Radiological Society of North America (RSNA 2004), 2004. 12 (Chicago,
USA)

今井國治, 木下幸弘, 木全浩市
Polbuschel 型沿面放電下における微小空隙内の PD 破壊 (平成16年電気学会全国大会講演論文集 p 45 2004)
平成15年電気学会全国大会, 2004. 3 (横浜)

今井國治, 新美孝永
マルコフ性を有する画像観察法とそれを用いた医用画像評価法 (講演論文集 p 194 2004)
2004年電子情報通信学会総合大会, 2004. 3 (東京)

新美孝永, **今井國治**
C-D ダイアグラムと損失情報量を用いた画像評価 (医用画像情報学会雑誌 Vol.121, No 1, p 1210 2004)
医用画像情報学会第138回研究会, 2004. 6 (岐阜)

新美孝永, **今井國治**, **池田 充**, **前田尚利**
医用画像の視覚評価における損失情報量の導入 (日本医用画像工学会大会抄録集)
第23回日本医用画像工学会大会, 2004. 7 (東京)

今井國治, 木下幸弘, 木全浩市
微小空隙内の PD 劣化進行と放電諸量との相関関係—Polbuschel の場合— (講演論文集 p 151 2004)
2004年電気学会基礎・材料・共通部門大会, 2004. 8 (仙台)

今井國治, 木下幸弘, 木全浩市
Polbuschel 型沿面放電下における微小空隙内の PD 劣化とその内部における放電諸量との関係 (平成16年度電気関係
学会東海支部連合大会講演論文集 0-070, 2004)
平成16年度電気関係学会東海支部連合大会, 2004. 9 (名古屋)

遠地志太, 今井國治, 池田 充, 前田尚利, 新美孝永

類似した物理特性を有する医用画像の視覚評価 (第88回日本医学物理学学会学術大会報文集24巻 Sup.3 pp 155-156 2004)

第88回日本医学物理学学会学術大会, 2004.10 (広島)

今井國治

Relationship between surface discharge of Polbuschel type in an artificial void and pit formation (IEEE Annual Report Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena, pp 237-240, 2004)

IEEE 2004 Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena, 2004.10 (Bouldor, USA)

今井國治

Contrast-Detail (C-D) 曲線下面積の情報工学的な意味と医用画像評価への適用 (電子情報通信学会技術報告 Vol.104, No 430, pp 430-435, 2004)

電子情報通信学会医用画像研究会, 2004.11 (神戸)

今井國治, 木下幸弘, 木全浩市

微小空隙内の摩耗的な PD 劣化進行と PD 諸量の経時変化との相関関係 (第35回電気電子絶縁材料システムシンポジウム予稿集 pp 221-224, 2004)

第35回電気電子絶縁材料システムシンポジウム, 2004.11 (東京)

ITOH Shigeki, SATAKE Hiroko, MORI Yoshine, ISHIGAKI Takeo

Anomalous pancreatobiliary junction : Diagnostic value of multislice CT

16th European Congress of Radiology, 2004.3 (Vienna Austria)

TAKADA Akira, **ITOH Shigeki**, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Takeo

Branch duct-type intraductal papillary mucinous tumor of the pancreas : Diagnostic value of multiplanar reformatted images in multislice CT

16th European Congress of Radiology, 2004.3 (Vienna Austria)

ITOH Shigeki, FUKUSHIMA Hiromichi, MORI Yoshine, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Takeo

Pancreas divisum : Diagnostic value of multiplanar reformatted images in multislice CT

15th Annual meeting and postgraduate course ESGAR 2004 (European Society of Gastrointestinal and Abdominal Radiology), 2004.6 (Geneva, Switzerland)

ISHIGAKI Satoko, **ITOH Shigeki**, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Takeo

Pancreaticoduodenal arcades and dorsal pancreatic artery : Assessment using multiplanar reformatted images in multislice CT

15th Annual meeting and postgraduate course ESGAR 2004 (European Society of Gastrointestinal and Abdominal Radiology), 2004.6 (Geneva, Switzerland)

高田 章, 伊藤茂樹, 佐竹弘子, 池田 充, 太田豊祐, 鈴木耕次郎, 石垣武男

マルチスライス CT による高分解能 MPR 画像を用いた分枝型膵管内乳頭粘液性腫瘍の検討

第63回日本医学放射線学会, 2004.4 (横浜)

伊藤茂樹, 福嶋洋道, 森 芳峰, 佐竹弘子, 石垣武男
マルチスライス CT による膵胆管合流異常の診断能の評価
第63回日本医学放射線学会発表集, 2004.4 (横浜)

岩野信吾, 伊藤茂樹, 池田 充, 石垣武男
ポーラストラッキング法を用いた肺動脈相 CT
第63回日本医学放射線学会, 2004.4 (横浜)

森 芳峰, 太田豊裕, 鈴木耕次郎, 石垣武男, 伊藤茂樹
胆管癌術後出血に対し肝動脈塞栓術を施行した 1 例
日本血管造影・IVR 学会 第16回中部地方会, 2004.2 (名古屋)

鈴木耕次郎, 澤木明子, 伊藤茂樹, 森 芳峰, 佐竹弘子, 石垣武男, 竹田 伸
胆管空腸吻合術後に生じた肝放線菌症の 1 例
第18回腹部放射線研究会, 2004.5 (松本)

森 芳峰, 伊藤茂樹, 鈴木耕次郎, 太田豊裕, 石垣武男, 竹田 伸
胆嚢動脈仮性動脈瘤の 1 例
第18回腹部放射線研究会, 2004.5 (松本)

太田豊裕, 鈴木耕次郎, 森 芳峰, 高田 章, 舘 靖, 石垣武男, 伊藤茂樹
脾動脈瘤塞栓術後に再開通を認めた 1 例
日本血管造影・IVR 学会 第17回中部地方会, 2004.6 (金沢)

森 芳峰, 太田豊裕, 鈴木耕次郎, 高田 章, 舘 靖, 石垣武男, 伊藤茂樹
Y-graft 後の吻合部瘤に対して IVR を施行した 2 例
日本血管造影・IVR 学会 第17回中部地方会, 2004.6 (金沢)

伊藤茂樹

ワークショップ: CT と被ばく: 肺がんの CT 検診と被ばく
第40回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 2004.10 (東京)

KODERA Yoshie, TAKAMURA Miho, TSUBOI Emi, OGAWA Masahisa, SUZUKI Rie, CHIHARA Aya, HORII Akiko, SHIMA Masamitsu, MACHIDA Yoshihito
Determination of imaging performance of a digital mammography (Proceedings of SPIE, 5368, pp 743-750)
Medical Imaging 2004: Physics of Medical Imaging, SPIE, 2004.2 (San Diego, CA, USA)

TAKAMURAMiho, TSUBOI Emi, OGAWA Munehisa, SUZUKI Rie, CHIHARA Aya, HORII Akiko, SHIMA Masamitsu, MACHIDA Yoshihito, **KODERA Yoshie**
Determination of imaging performance of a digital mammography
European Congress of Radiology 2004, 2004.3 (Vienna, Austria)

TSUCHIYA Yuichiro, **KODERA Yoshie**
Analyses of physiological kinetics function in dynamic chest radiography by using the time series spectroscopy

European Congress of Radiology 2004, 2004.3 (Vienna, Austria)

TSUCHIYAS Yuichiro, **KODERA Yoshie**, TSUCHIYA Machiko

Development of kinetic analysis technique for a screening examination and PACS management in dynamic radiography (Program p 356)

The Radiological Society of North America 90th Scientific Assembly and Annual Meeting, 2004.11 (Chicago, USA)

ICHIKAWA Katsuhiko, **KODERA Yoshie**, FUJITA Hiroshi, KAWANO Makoto, SUGIYAMA Masayuki, SHIBAMOTO Yuta

A new system for physical evaluation of medical displays using a high-resolution digital camera (Program p 734)

The Radiological Society of North America 90th Scientific Assembly and Annual Meeting, 2004.11 (Chicago, USA)

HORII Akiko, CHIHARA Aya, ICHIKAWA Katsuhiko, Y. **KODERA Yoshie**, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Tateo

Measurement of MTFs for liquid crystal displays by rectangular waveform analysis (Program p 734)

The Radiological Society of North America 90th Scientific Assembly and Annual Meeting, 2004.11 (Chicago, USA)

TSUCHIYA Yuichiro, **KODERA Yoshie**, TSUCHIYA Machiko, ITOU Shouya

Kinetic information analysis for a PACS management and screening examination in dynamic chest radiography (Program p 821)

The Radiological Society of North America 90th Scientific Assembly and Annual Meeting, 2004.11 (Chicago, USA)

ICHIKAWA Katsuhiko, **KODERA Yoshie**, FUJITA Hiroshi, KAWANO Makoto, SUGIYAMA Masayuki, SHIBAMOTO Yuta

A new physical evaluation system for medical displays using a high-resolution digital camera (Program p 827)

The Radiological Society of North America 90th Scientific Assembly and Annual Meeting, 2004.11 (Chicago, USA)

堀井亜希子, 高村美穂, 石垣武男, 千原 絢, 市川勝弘, **小寺吉衛**, 池田 充

液晶ディスプレイ装置の画質特性の測定 (予稿集 p 231)

第60回日本放射線技術学会総会学術大会, 2004.4 (横浜)

土屋裕一郎, 土屋真智子, 福井 淳, 伊藤生也, **小寺吉衛**

横隔膜の移動ベクトル解析による呼吸位相の検出 (予稿集 p215)

第60回日本放射線技術学会総会学術大会, 2004.4 (横浜)

堀井亜希子, 千原 絢, **小寺吉衛**

矩形波波形解析による液晶ディスプレイのMTF測定

平成16年度医用画像情報学会年次(第139回)大会, 2004.5 (岐阜)

安田成臣, **小寺吉衛**

ウェーブレット縮退によるノイズ低減におけるコンパクトサポートを有する直交ウェーブレット関数系 (報文集 (医学物理, 24, Sup 3) pp 312-315)

第88回日本医学物理学会学術大会, 2004.10 (広島)

堀井亜希子, 千原 絢, 市川勝弘, **小寺吉衛**

矩形波波形解析による液晶ディスプレイのMTF測定(報文集(医学物理, 24, Sup 3) pp 320-323)
第88回日本医学物理学会学術大会, 2004.10(広島)

高村美穂, **小寺吉衛**

仮想スリット法と二次元フーリエ変換法によるデジタルウィナーズスペクトルの比較(報文集(医学物理, 24, Sup 3)
pp 329-331)
第88回日本医学物理学会学術大会, 2004.10(広島)

宮尾 雄, **小寺吉衛**

三次元画像を用いた目的部位の体積測定(報文集(医学物理, 24, Sup 3) pp 329-331)
第88回日本医学物理学会学術大会, 2004.10(広島)

高村美穂, 檜垣亜希子, **小寺吉衛**

デジタルマンモグラフィにおけるDQEに与える影響因子の解析
平成16年度医用画像情報学会秋季(第140回)研究会, 2004.10(東京)

堀井亜希子, 千原 絢, 市川勝弘, **小寺吉衛**

矩形波波形解析による液晶ディスプレイのMTF測定(日本放射線技術学会雑誌, 60, 9, p 1199)
第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10(大阪)

高村美穂, **小寺吉衛**

仮想スリット法と二次元フーリエ変換法によるデジタルウィナーズスペクトルの比較(日本放射線技術学会雑誌,
60, 9, p 1200)
第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10(大阪)

高村美穂, 檜垣亜希子, **小寺吉衛**

デジタルマンモグラフィにおけるDQEの測定法に与える影響因子の解析(日本放射線技術学会雑誌, 60, 9, p 1200)
第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10(大阪)

安田成臣, 阿部慎司, 西村克之, 佐藤 斉, 横山健一, 村石 浩, **小寺吉衛**

非線形ウェーブレット縮退による重イオン線CTのノイズ低減(日本放射線技術学会雑誌, 60, 9, p 1202)
第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10(大阪)

安藤剛一, **小寺吉衛**, 土屋裕一郎, 宮尾 雄, 高村美穂, 堀井亜希子, 安田成臣

心カテ動画像における圧縮に関する基礎的検討(日本放射線技術学会雑誌, 60, 9, p 1252)
第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10(大阪)

土屋裕一郎, 伊藤生也, **小寺吉衛**

X線動画像における動態描画アルゴリズムの開発とニューラルネットワークを利用した自動患者照合システムの検討
(日本放射線技術学会雑誌, 60, 9, p 1253)
第32回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2004.10(大阪)

堀井亜希子, 高村美穂, 檜垣亜希子, 加藤佐和子, **小寺吉衛**

マンモグラフィのモニタ画像と増感紙フィルム系の画像における鮮鋭度の比較
第14回日本乳癌検診学会総会, 2004.11 (大阪)

土屋裕一郎, 小寺吉衛, 佐藤信之, 高崎哲也, 田森由加里, 後藤修司, 早坂みさを
胸部 X 線動態撮影における動態情報解析に基づく腫瘍検出方法のシミュレーション
第17回日本放射線腫瘍学会, 2004.11 (東京)

堀井亜希子, 千原 絢, 市川勝弘, 小寺吉衛, 池田 充, 石垣武男
矩形波波形解析による液晶ディスプレイの MTF 測定
日本放射線技術学会第39回中部部会, 2004.11 (福井)

安藤剛一, 土屋裕一郎, 小寺吉衛
心カテ動画像における圧縮に関する基礎的検討
日本放射線技術学会第39回中部部会, 2004.11 (福井)

堤 直葉, 小山修司, 永井優一
X 線撮影の撮影条件による X 線量の増加について
第87回日本医学物理学学会学術大会, 2004.4 (横浜)

服部真澄, 小山修司
頭部 CT 画像を用いた側頭葉内側部の自動計測の検討 (予稿集, p 215, 2004)
第60回日本放射線技術学会総会学術大会, 2004.4 (横浜)

服部真澄, 小山修司
頭部 CT 画像を用いた脳萎縮の基礎的検討 (予稿集, p 215, 2004)
第60回日本放射線技術学会総会学術大会, 2004.4 (横浜)

服部真澄, 棚田信春, 酒井 功, 小山修司
Snakes (動的輪郭モデル) を用いた側脳室下角の輪郭抽出法 (日本放射線技術学会雑誌, 60(9), p 1250, 2004)
日本放射線技術学会第32回秋季学術大会, 2005.10 (大阪)

TERASAWA Akihiro, MAEDA Hisatoshi, SHINODA N., TAKEUCHI T., SIGINO S., UCHIDA I, KONDOH K.,
KAWADA A.
Quantifying contractility and synchrony of regional left ventricular myocardium with gated myocardial perfusion
SPECT
The 68th Annual Scientific Meeting of the Jpn Circulation Society, 2004.5 (東京)

森田康祐, 宮原 洋, 緒方良至, 加藤佳志
105Ru の γ 線放出率測定 (要旨集 p 195 2004)
2004年日本原子力学会春の年会, 2004.3 (岡山)

森田康祐, 宮原 洋, 緒方良至, 加藤佳志
80Br の γ 線放出率測定 (予稿集 p 40 2004)
2004年日本原子力学会秋の大会, 2004.9 (京都)

小栗夕佳, 宮原 洋, 緒方良至, 小寺吉衛

Si-PIN フォトダイオードを用いた低エネルギー X 線スペクトル測定
日本放射線技術学会第39回中部部会, 2004.11 (福井)

望月真吾, 緒方良至, 籾野健太郎, 阿部潤一郎, 伊藤健吾, 西野正成, 宮原 洋

医療用小型サイクロトロン放射化と PET 薬剤中の放射性副生成物の分析 (要旨集 p 93, 2004)
2004日本放射化学会年会, 2004.10 (東京)

SAKUMA Yoichi, **OGATA Yoshimune**, KOGANEZAWA Takayuki, TSUJI Naruhito

A simplified method for tritium measurement in the environmental water samples (Abstract p 274, 2004)
11th International Congress of the International Radiation Protection Association, 2004.5 (Madrid, Spain)

OGATA Yoshimune, SAKUMA Yoichi, OHTANI Nobuo, KOTAKA Masahiro

Tritium separation by electrolysis using a solid polymer electrolyte (Abstract p 36, 2004)
7th International Conference on Tritium Science and Technology, 2004.9 (Baden-Baden, Germany)

SAKUMA Yoichi, IIDA Takao, KOGANEZAWA Takayuki, **OGATA Yoshimune**, **AOYAMA Takahiko**, TORIKAI Yuuji, OHTA Masatoshi, TAKAMI Michiko

Development of a low-level tritium air monitor (Abstract p 102, 2004)
7th International Conference on Tritium Science and Technology, 2004.9 (Baden-Baden, Germany)

望月真吾, 緒方良至, 籾野健太郎, 阿部潤一郎, 伊藤健吾, 西野正成, 宮原 洋

医療用小型サイクロトロン放射化と PET 薬剤中の放射性副生成物の分析 (研究発表要旨集 p 93 2004)
2004日本放射化学会・第48回放射化学討論会, 2004.10 (東京)

緒方良至, 佐久間洋一, 大谷暢夫, 小高正敬

固体高分子電解質膜を用いた純水の電解における水素同位体効果 (要旨集 p 47, 2004)
第2回同位体科学研究会, 2004.3 (東京)

佐久間洋一, 小金澤孝之, 飯田孝夫, 緒方良至, 太田雅壽, 高見実智己, 鳥養祐二

大気中低レベルトリチウムモニターの開発2 (要旨集 p 30, 2004)
日本保健物理学会第38回研究発表会, 2004.4 (神戸)

緒方良至, 佐久間洋一, 大谷暢夫, 小高正敬

固体高分子電解質膜を用いた電気分解における水素同位体分離効果 (要旨集 p 73, 2004)
2004日本放射化学会年会, 2004.10 (東京)

佐久間洋一, 山西弘城, 飯田孝夫, 緒方良至, 辻 成人, 垣内正久, 佐竹 洋, 鳥養祐二

電解濃縮を用いた環境水中トリチウム濃度測定の時効効率化2 (要旨集 p 143, 2004)
2004日本放射化学会年会, 2004.10 (東京)

佐久間洋一, 山西弘城, 飯田孝夫, 緒方良至, 辻 成人, 垣内正久, 佐竹 洋, 鳥養祐二

環境水中トリチウム測定 (要旨集 p 72, 2004)
日本放射線安全管理学会第3回学術大会, 2004.12 (札幌)

佐久間洋一，山西弘城，飯田孝夫，**緒方良至**
環境水中低レベルトリチウム測定（要旨集 p 32, 2004）
日本原子力学会中部支部第36回研究発表会，2004.12（名古屋）

TSUTSUMI Junko, **SHIMAMOTO Kazuhiro, IKEDA Mitsuru, SAWAKI Akiko, SATAKE Hiroko**
Inter- and intraobserver agreement in breast ultrasonography : significance of interbnal echoes at image interpretation
ECR2004 16th European Congress of Radiology, 2004.3（Vienna, Austria）

堤 順子，**島本佳寿広**，池田 充
腫瘍像形成性病変の超音波診断における読影者間の一致度と判断の再現性の解析：鑑別診断における内部エコーの重要性について（抄録集 p 86, 2005）
第13回日本乳癌画像研究会，2004.2（京都）

堤 順子，**島本佳寿広**，池田 充
乳腺超音波診断における読影者間の一致度と判断の再現性の解析
日本放射線技術学会第60回学術大会，2004.4（横浜）

野々村和洋，水野 求，水野裕文，田中 洋，小田翔資，町田君成，尾関 強，佐合淳一，高橋克彰，畑佐和昭，大竹正一郎，**島本佳寿広**
乳腺腫瘍の圧迫法による動的超音波検査（抄録集 p 320, 2005）
日本超音波医学会第77回学術集会，2004.5（宇都宮）

石垣武男，宇佐見寿志，福嶋洋道，**島本佳寿広**，池田 充
液晶モニタの精度と肺結節の診断能
第6回医用画像認知研究会，2004.5（徳島）

霜村康平，**田伏勝義**，青山裕一，塩田泰生
密封小線源 Cs-137針（Type：CDCS_S16）における吸収線量分布の AAPM TG43方式と EGS 4 による計算の比較（報文集 pp 155-156）
第87回日本医学物理学会大会，2004.4（横浜）

佐方周防，中村 譲，**田伏勝義**，高岡祥朗，寺中朋文，石居隆義，佐藤弘史，佐藤真一郎，中野隆史，辻井博彦
東アジアにおける子宮頸癌治療装置の物理的 QA/QC の現地調査，2 一位置取得および線量計算の精度について—
（報文集 pp 184-185）
第87回日本医学物理学会大会，2004.4（横浜）

田伏勝義，中村 譲，佐方周防，寺中朋文，辻井博彦
アジアにおける子宮頸癌小線源治療の物理的 QA/QC の現地調（報文集 pp 186-187）
第87回日本医学物理学会大会，2004.4（横浜）

塩田泰生，**田伏勝義**，霜村康平，木藤哲史，楠 輝文
Examination of the program to avoid round-off error（Abstract, psession 4-(12)）
3rd International Workshop on EGS, 2004.8（KEK）

木藤哲史, 田伏勝義, 霜村康平, 塩田泰生, 楠 輝文

Research for deciding the number and each width of bins of the energy spectrum of the X-rays used for radiotherapy (Abstract, psession 5-(13))

3rd International Workshop on EGS, 2004.8 (KEK)

霜村康平, 田伏勝義

Verification for the disagreement between effective point and geometrical center of thimble ionization chamber (Abstract, psession 5-(17))

3rd International Workshop on EGS, 2004.8 (KEK)

岩田 徹, 田伏勝義, 近藤智昭, 青山裕一

蛍光ガラス線量計の連続測定に対するプレヒート処理の応用 (報文集 pp 247-248)

第88回日本医学物理学会大会, 2004.10 (広島)

下郷智弘, 田伏勝義, 野田朋男, 鈴木秀治

透過率データから算出した高エネルギー X 線スペクトルの検討 (報文集 pp 249-250)

第88回日本医学物理学会大会, 2004.10 (広島)

田伏勝義, 小山修司, 本間光彦, 岩田 徹, 霜村康平, 塩田泰生, 楠 輝文, 青山裕一, 三宅良和, 近藤智昭, 波戸芳人, 伴 秀一, 都丸禎三

放射光による蛍光ガラス線量計のエネルギー特性の検討 (報文集 pp 272-273)

第88回日本医学物理学会大会, 2004.10 (広島)

TSUZAKA Masatoshi, KOMADA Tomomi, KOYAMA Syuji, HARA Takeshi, FUJITA Hiroshi, IIDA Yoko

Automated method for detecting mammographic architectural distortion based on concentration of mammary gland.

90th Scientific Assembly and Annual Meeting Radiological Society of North America (RSNA), 2004, 11 (Chicago, USA)

高橋康方, 津坂昌利

16DASX 線 CT 画像における Time Sensitivity Profile (TSP) の変化と画像への効果

第60回日本放射線技術学会総会学術大会, 2004.4 (横浜)

小田耕司, 津坂昌利

デジタル画像システムにおける散乱線除去グリッドのモアレシミュレーションによる解析一

第39回日本放射線技術学会中部会学術大会, 2004.11 (福井)

[公開講座・講演会]

小寺吉衛

画像評価の実際 (プログラム・講演抄録集 Vol.44増刊号, p 24)

第45回日本歯科放射線学会総会学術大会, 2004.9 (広島)

小山修司

マルチスライス CT における被曝線量の現状 (画像通信, 27(1), pp.22-25, 2004)

日本放射線技術学会第55回画像分科会，2004.4（横浜）

小山修司

放射線のはなし

日本原子力文化振興財団・中学生のための放射線教室（滋賀県山東町立柏原中学校），2005.6（滋賀県坂田郡山東町）

小山修司

マルチスライス CT における被ばく線量の現状

日本放射線技術学会中部部会第21回画像研究会，2004.7（金沢）

小山修司

X 線 CT 撮影時の被ばく線量評価の実際

日本放射線技術学会近畿部会第1回医療被ばく測定セミナー，2004.9（大阪）

小山修司

人体ファントム内臓器線量の測定（日本放射線技術学会計測分科会誌，12(2)，p.11，2004）

日本放射線技術学会第24回計測分科会，2004.10（大阪）

宮原 洋

エックス線の管理

エックス線作業主任者勉強会講習会，2004.2（名古屋）

宮原 洋

放射線と RI の安全取扱の基礎

平成16年度放射線業務従事者教育訓練講習会，2004.5（名古屋）

宮原 洋

エックス線の管理

エックス線作業主任者勉強会講習会，2004.6（名古屋）

宮原 洋

放射線と放射能

平成16年度エネルギー・環境研究会，2004.10（名古屋）

森千鶴夫，宮原 洋

水血圧計の作製と血圧測定実験

東郷高校，2004.11（東郷町 愛知県）

井口哲夫，宮原 洋

水血圧計の作製と血圧測定実験

東郷高校，2005.1（東郷町 愛知県）

井口哲夫，宮原 洋

水血圧計の作製と血圧測定実験

東郷高校，2005.1（東郷町 愛知県）

宮原 洋

エックス線の管理

エックス線作業主任者勉強会講習会，2005.2（名古屋）

緒方良至

放射線管理技術

平成16年度第2種放射線取扱主任者受験講習会，2004.5（名古屋）

緒方良至

霧箱の作製と放射線の測定

21世紀の環境・エネルギー問題と教育，2004.10（岐阜）

田伏勝義

専門技師認定制度について

第54回日本放射線技術学会九州部会学術大会，2004.9（鹿児島）

津坂昌利

セキュアなVPN通信とその応用について

日本放射線技術学会中部部会学術大会，2003.11（福井）

検査技術科学専攻

〔著者〕

鍋島俊隆，長谷川高明

臨床薬理学総論

『薬物治療学 改訂3版』（長谷川高明，鍋島俊隆 他21名）南山堂，2004. pp 1-28

橋本克訓，横井豊治

第12章 呼吸器系

『ルービン基本病理学』（河原栄，横井豊治監訳）西村書店，2004. pp 251-278

北市清幸，長谷川高明

ビタミンと補酵素

『スタンダード生化学』（原 論吉，太田英彦）文光堂，2004. pp 59-66

北市清幸，森下友喜，土井悠子，上山 純，松嶋充代子，巽 康彰，高木健次，柴田英治，高木健三，長谷川高明

第1部 覚せい剤精神病はなぜ起きるのか 3. 覚せい剤の体内運命

『覚せい剤精神病と麻薬依存』（佐藤光源，櫻井映子編）東北大学出版会，2004. pp 30-42

古池保雄

起立性調節障害

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 44-45

古池保雄

睡眠時低血圧

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 64-67

古池保雄

食事性低血圧と起立性低血圧の違い

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 80-88

古池保雄

食事性低血圧の概念

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 89-92

古池保雄

神経疾患—脊椎・脊髄疾患

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 182-184

古池保雄

神経疾患—ニューロパチー

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 185-187

古池保雄

血液透析

『食事性低血圧』（高橋 昭（監），長谷川康博，古池保雄（編））南山堂，2004. pp 197-198

小嶋哲人

「フォン・ヴィルブランド病」 高久史磨ほか編

『家庭医学大全科』（高久史磨 [ほか] 編）法研，2004. p 2406

小嶋哲人

「血友病」

『家庭医学大全科』（高久史磨 [ほか] 編）法研，2004. p 2407

小嶋哲人

「播種性血管内凝固症候群（DIC）」

『家庭医学大全科』（高久史磨 [ほか] 編）法研，2004. p 2409

小嶋哲人

電撃性紫斑病

『DIC 病態解明と治療の最前線』（高橋芳右編集）鳥居薬品，2004. pp 279-282

小嶋哲人

「アンチトロンビン III，ヘパリンコファクター II」

『血液の事典』（平井久丸 [ほか] 編）朝倉書店，2004. pp 313-315

小嶋哲人

DIC の治療・アンチトロンビン濃縮製剤とヘパリンおよびヘパリン類似物質

『別冊・医学の歩み DIC の新展開』（坂田洋一編集）医歯薬出版，2004. pp 93-97

足立達哉，小嶋哲人

乳癌における凝固異常と血栓症

『乳腺疾患 State of arts 医学のあゆみ別冊』（伊藤良則ほか編集）医歯薬出版，2004. pp 628-630

近藤高明，河村典久

第4章 健康状態・疾病の測定と評価

『公衆衛生学入門—社会・環境と健康』（内藤通孝編著）昭和堂，2004. pp 39-56

近藤高明，内藤通孝，榊原久孝

第8章 保健・医療・福祉・介護の制度

『公衆衛生学入門—社会・環境と健康』（内藤通孝編著）昭和堂，2004. pp 121-164

倉科正徳

各論 VI. 生殖器疾患 A. 男性生殖器疾患

『スタンダード病理学 [第2版]』（大西俊造，梶原博毅，神山隆一編集）文光堂，2004. pp 341-346

OCHI Hikari, MIYATA Seiko, **NODA Akiko**, IWASE Mitsunori KUROKI Syoko, **KOIKE Yasuo**, ITO Rieko YAMADA Hiroshi, YOKOTA Mitsuhiro

Electrocardiography fails to diagnosis left ventricular hypertrophy accurately in women
『Advances in Electrocardiology』(HIRAOKA Masayasu, OGAWA Satoshi, KODAMA Itsuo, INOUE Hiroshi,
KASANUKI Hiroshi, KATOH Takao) World Scientific, 2004. pp 640-643

野田明子

第5章 検査法 3 眠気の評価法 (ESS, MSLT と MWT)
『睡眠医歯学の臨床』(塩見利明, 菊池 哲編著) HYORON, 2004. pp 78-81

高木健次

第2章 生体構成成分 II. アミノ酸とタンパク質
『スタンダード 生化学』(原 論吉, 太田英彦編著) 文光堂, 2004. pp 31-45

高木健次

第3章 代謝 VI. アミノ酸代謝
『スタンダード 生化学』(原 論吉, 太田英彦編著) 文光堂, 2004. pp 151-170

横井豊治

第2章 炎症
『ルービン基本病理学』(河原 栄, 横井豊治監訳) 西村書店, 2004. pp 19-37

横井豊治

第3章 修復, 再生, 線維化
『ルービン基本病理学』(河原 栄, 横井豊治監訳) 西村書店, 2004. pp 39-50

横井豊治

第8章 環境と栄養の病理学
『ルービン基本病理学』(河原 栄, 横井豊治監訳) 西村書店, 2004. pp 143-161

横井豊治

炎症と修復
『臨床病理・病態学』(山内豊明) MC メディカ出版, 2004. pp 34-40

〔原著論文〕

TAKAGI Yoshikazu, **DU Jun**, MA Xiu-Yang, NAKASHIMA Izumi, **NAGASE Fumihiko**
Phorbol 12-myristate 13-acetate protects Jurkat cells from methylglyoxal-induced apoptosis by preventing c-Jun N-terminal kinase-mediated leakage of cytochrome c in an extracellular signal regulated kinase-dependent manner
Mol Pharmacol 65 : 778-787, 2004

DU Jun, CAI Sho Hui, SHI Zhe, **NAGASE Fumihiko**
Binding activity of H-Ras is necessary for in vivo inhibition of ASK1 activity
Cell Res 14 : 148-154, 2004

HASHIMOTO Mizuo, **ICHIHARA Masatoshi**, WATANABE Tsuyoshi, KAWAI Kumi, KOSHIKAWA Katsumi, YUASA Norihiro, TAKAHASHI Takashi, YATABE Yasushi, MURAKUMO Yoshiki, ZHANG Jing-min, NIMURA Yuji, TAKAHASHI Masahide

Expression of CD109 in human cancer

Oncogene 23 : 3716-3720, 2004

KODAMA Yoshinori, MURAKUMO Yoshiki, **ICHIHARA Masatoshi**, KAWAI Kumi, SHIMONO Youhei, TAKAHASHI Masahide

Induction of CRMP-2 by GDNF and analysis of the CRMP-2 promoter region

Biochem Biophys Res Commun 320 : 108-115, 2004

JJIWA Mayumi, FUKUDA Toshifumi, KAWAI Kumi, NAKAMURA Akari, KUROKAWA Kei, MURAKUMO Yoshiki, **ICHIHARA Masatoshi**, TAKAHASHI Masahide

A targeting mutation of tyrosine 1062 in Ret causes a marked decrease of enteric neurons and renal hypoplasia

Mol Cell Biol 24 : 8026-8036, 2004

MAEDA Kengo, MURAKAMI Hideki, YOSHIDA Reiko, **ICHIHARA Masatoshi**, ABE Akihiro, HIRAI Makoto, MUROHARA Toyooki, TAKAHASHI Masahide

Biochemical and biological responses induced by coupling of Gab1 to phosphatidylinositol 3-kinase in RET-expressing cells

Biochem Biophys Res Commun 323 : 345-354, 2004

JIN Yi, MURAKUMO Yoshiki, UENO Kaoru, HASHIMOTO Mizuo, WATANABE Tsuyoshi, SHIMOYAMA Yoshie, **ICHIHARA Masatoshi**, TAKAHASHI Masahide

Identification of a mouse cytoskeleton-associated protein, CKAP2, with microtubule-stabilizing properties

Cancer Sci 95 : 815-821, 2004

WACHINO Jun-ichi, DOI Yohei, YAMANE Kunikazu, SHIBATA Naohiro, YAGI Tetsuya, KUBOTA Takako, **ITO Hideo**, ARAKAWA Yoshichika

Nosocomial spread of ceftazidime-resistant Klebsiella pneumoniae strains producing a novel Class A β -lactamase, GES-3, in a neonatal intensive care unit in Japan

Antimicrob Agents Chemother 48 : 1960-1967, 2004

TAKESHITA Kyosuke, HAYASHI Mutsuharu, Iino Shigeo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **IWASE Mitsunori**, KOJINMA Tetsuhito, HIRAI Makoto, ITO Masafumi, LOSKUTOFF David J., SAITO Hidehiko, MUROHARA Toyooki, YAMAMOTO Koji

Increased expression of plasminogen activator inhibitor-1 in cardiomyocytes contributes to cardiac fibrosis after myocardial infarction

Am J Pathol 164 : 449-456, 2004

UMEDA Hisashi, **IWASE Mitsunori**, KANDA Hirohumi, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**, ISHIKI Ryoji, SAWADA Ken, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro

Promising efficacy of primary gradual and prolonged balloon angioplasty in small coronary arteries : A randomized comparison with cutting balloon angioplasty and conventional balloon angioplasty

Am Heart J 147 : 145-152, 2004

IWASE Mitsunori, KANAZAWA Hiroaki, KATO Yosuke, NISHIZAWA Takao, SOMURA Fuji, ISHIKI Ryoji,
NAGATA Kohzo, **HASHIMOTO Katsunori**, **TAKAGI Kenji**, IZAWA Hideo, YOKOTA Mitsuhiro

Growth hormone-releasing peptide can improve left ventricular dysfunction and attenuate dilation in dilated cardiomyopathic hamsters

Cardiovasc Res 61 : 30-38, 2004

NISHIZAWA Takao, **IWASE Mitsunori**, KANAZAWA Hiroaki, ICHIHARA Sahoko, ICHIHARA Gaku, **NAGATA Kohzo**, OBATA Koji, **KITAICHI Kiyoyuki**, **YOKOI Toyoharu**, WATANABE Masato, TSUNEMATSU Takashi, ISHIKAWA Yoshihiro, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

Serial alterations of β -adrenergic signaling in dilated cardiomyopathic hamsters : possible role of myocardial oxidative stress

Circ J 68 : 1051-1060, 2004

KATO Tomoko, CHAN Michael CY, GAO Shao-Zhou, SCHROEDER John S, YOKOTA Mitsuhiro, MUROHARA Toyoaki, **IWASE Mitsunori**, **NODA Akiko**, HUNT Sharon A, VALANTINE Hannah A

Glucose Intolerance, as reflected by hemoglobin A1c level, is associated with the incidence and severity of transplant coronary artery disease

J Am Coll Cardiol 43 : 1034-1041, 2004

ITO Genshi, UCHIYAMA Mika, KONDO Masashi, MORI Shoichi, USAMI Noriyasu, MAEDA Osamu, **KAWABE Tsutomu**, HASEGAWA Yoshinori, SHIMOKATA Kaoru, SEKIDO Yoshitake

Kruppel-like factor 6 is frequently down-regulated and induces apoptosis in non-small cell lung cancer cells

Cancer Res 64 : 3838-3843, 2004

HASHIMOTO Naozumi, **KAWABE Tsutomu**, IMAIZUMI Kazuyoshi, HARA Toru, OKAMOTO Masakazu, KOJIMA Katsuyuki, SHIMOKATA Kaoru, HASEGAWA Yoshinori

CD40 plays a crucial role in lipopolysaccharide-induced acute lung injury

Am J Respir Cell Mol Biol 30 : 808-815, 2004

NADA Toshi, BABA Hisashi, **KAWAMURA Kumiko**, OHKURA Teruko, TORII Keizo, OHTA Michio

A small outbreak of third generation cephem-resistant *Citrobacter freundii* infection on a surgical ward

Jpn J Infect Dis 57 : 181-182, 2004

川村久美子, 平間佑美, 安形則雄, 伊藤秀郎

HEp-2細胞空胞化試験による *Bacillus cereus* 嘔吐毒素測定法の改良の試み

日本臨床微生物学会雑誌 14 : 18-23, 2004

SUGIE Masami, ASAKURA Emiko, ZHAO Ying Lan, TORITA Shoko, NADAI Masayuki, BABA Kenji, **KITAICHI Kiyoyuki**, **TAKAGI Kenji**, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

Possible involvement of drug transporters P-glycoprotein and multidrug resistance-associated protein Mrp2 in disposition of azithromycin

Antimicrob Agents Chemother 48 : 809-814, 2004

KITAICHI Kiyoyuki, NAKAYAMA Hironao, UHEYAMA Jun, NADAI Masayuki, BABA Kenji, **TAKAGI Kenji**, **TAKAGI Kenzo**, OHTA Michio, **HASEGAWA Takaaki**

Down-regulation of cytochrome P450 proteins and its activities by Shiga-like toxin II from Escherichia coli O157 : H7
Biochem Pharmacol 67 : 1427-1435, 2004

NAKAJIMA Akira, YAMADA Kiyofumi, NAGAI Taku, UCHIYAMA Takehisa, MIYAMOTO Yoshiaki, MAMIYA Takayoshi, HE Jue, NITTA Atsumi, MIZUNO Makoto, TRAN Manh Hung, SETO Aika, YOSHIMURA Masako, **KITAICHI Kiyoyuki**, **HASEGAWA Takaaki**, SAITO Kuniaki, YAMADA Yasuhiro, SEISHIMA Mitsuru, SEKIKAWA Kenji, KIM Hyoung-Chun, NABESHIMA Toshitaka

Role of tumor necrosis factor- α in methamphetamine-induced drug dependence and neurotoxicity
J Neurosci 24 : 2212-2225, 2004

TAKESHITA Kyosuke, FUJIMORI Toshihiko, KUROTAKE Yoko, HONJO Haruo, TSUJIKAWA Hiroshi, YASUI Kenji, LEE Jong-Kook, KAMIYA Kaichiro, **KITAICHI Kiyoyuki**, YAMAMOTO Koji, ITO Masafumi, KONDO Takahisa, IINO Shigeo, INDEN Yasuya, HIRAI Makoto, MUROHARA Toyooki, KODAMA Itsuo, NABESHIMA Yo-ichi
Sinoatrial node dysfunction and early unexpected death of mice with a defect of klotho gene expression
Circulation 109 : 1776-1782, 2004

KITAICHI Kiyoyuki, ITO Yukiko, FUKUDA Masaya, AOYAMA Nagisa, NAKAYAMA Hironao, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

The altered disposition of methamphetamine in the model of methamphetamine-induced neurotoxicity
Ann N Y Acad Sci 1025 : 248-256, 2004

OKUDA Tomohiro, ITO Yukiko, NAKAGAWA Naoto, HISHINUMA Takanori, TSUKAMOTO Hiroki, IWABUCHI Kentaro, WATANABE Takehiko, **KITAICHI Kiyoyuki**, GOTO Junichi, YANAI Kazuhiko

Drug interaction between methamphetamine and antihistamines : behavioral changes and tissue concentrations of methamphetamine in rats
Eur J Pharmacol 505 : 135-144, 2004

UHEYAMA Jun, **KITAICHI Kiyoyuki**, NADAI Masayuki, **IWASE Mitsunori**, Tomyo, N., KANAZAWA, Hiroshi, SUZUKI Ryujiro, **TAKAGI Kenji**, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

Effect of pioglitazone on endotoxin-induced decreases in hepatic drug-metabolizing enzyme activity and expression of CYP3A2 and CYP 2 C11
Eur J Pharmacol 498 : 257-265, 2004

KITAICHI Kiyoyuki, ITO Yukiko, FUKUDA Masaya, AOYAMA Nagisa, NAKAYAMA Hironao **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

The altered disposition of methamphetamine in the model of methamphetamine-induced neurotoxicity
Ann N Y Acad Sci 1025 : 248-256, 2004

ASAKURA Emiko, NAKAYAMA Hironao, SUGIE Masami, ZHAO Ying Lan, NADAI Masayuki, **KITAICHI Kiyoyuki**, SHIMIZU Akemi, MIYOSHI Mika, **TAKAGI Kenji**, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

Azithromycin reverses anticancer drug resistance and modifies hepatobiliary excretion of doxorubicin in rats
Eur J Pharmacol 484 : 333-339, 2004

新美由紀, 長谷川康博, 高城 晋, 古池保雄
ビタミン B12欠乏症の起立性低血圧
自律神経 41 : 510-516, 2004

SHIMIZU Atsuya, MATSUSHITA Tadashi, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko, HIRAI Makoto
Identification of the amino acid residues of the platelet glycoprotein Ib (GPIb) essential for the von willebrand factor binding by clustered charged-to-alanine scanning mutagenesis
J Biol Chem 279 : 16285-16294, 2004

KOIKE Tetsufumi, KIMURA Naoko, MIYAZAKI Keiko, TAKENOSHITA Seiichi, CHEN Jian, KOBAYASHI Masanobu, HOSOKAWA Masuo, TANIGUCHI Akiyoshi, **KOJIMA Tetsuhito**, ISHIDA Nobuhiro, KAWAKITA Masao, YAMAMOTO Harumi, TAKEMATSU Hiromu, SUZUKI Akemi, KOZUTSUMI Yasunori, KANNAGI Reiji
Hypoxia induces adhesion molecules on cancer cells : A missing link between Warburg effect and induction of selectin-ligand carbohydrates
Proc Natl Acad Sci USA 101 : 8132-8137, 2004

YATSUYA Hiroshi, TAMAKOSHI Koji, HATTORI Hiroaki, OTSUKA Rrei, WADA Keiko, ZHANG Huiming, MABUCHI Tomoko, ISHIKAWA Miyuki, MURATA Chiyoe, YOSHIDA Tsutomu, **KONDO Takaaki**, TOYOSHIMA Hideaki
Serum phospholipid transfer protein mass as a possible protective factor for coronary heart diseases
Circ J 68 : 11-16, 2004

TAMAKOSHI Koji, WAKAI Kenji, KOJIMA Masayo, WATANABE Yoshiyuki, HAYAKAWA Norihiko, TOYOSHIMA Hideaki, YATSUYA Hiroshi, **KONDO Takaaki**, TOKUDOME Shinkan, HASHIMOTO Shuji, SUZUKI Koji, ITO Yoshinori, TAMAKOSHI Akiko
A prospective study of body size and colon cancer mortality in Japan : The JACC study
Int J Obes Relat Metab Disord 28 : 551-558, 2004

TAMAKOSHI Koji, WAKAI Kenji, KOJIMA Masayo, WATANABE Yoshiyuki, HAYAKAWA Norihiko, TOYOSHIMA Hideaki, YATSUYA Hiroshi, **KONDO Takaaki**, TOKUDOME Shinkan, HASHIMOTO Shuji, SUZUKI Koji, SUZUKI Sadao, KAWADA Miyuki, OZASA Kotaro, ITO Yoshinori, TAMAKOSHI Akiko
A prospective study of reproductive and menstrual factors and colon cancer risk in Japanese women : findings from the JACC study
Cancer Sci 95 : 602-607, 2004

YATSUYA Hiroshi, TOYOSHIMA Hideaki, TAMAKOSHI Akiko, KIKUCHI Shogo, TAMAKOSHI Koji, **KONDO Takaaki**, MIZOUE Tetsuya, TOKUI Noritaka, HOSHIYAMA Yoshiharu, SAKATA Kiyomi, HAYAKAWA Norihiko, YOSHIMURA Takesumi
Individual and joint impact of family history and Helicobacter pylori infection on the risk of stomach cancer : a nested case-control study
Br J Cancer 91 : 929-934, 2004

NAGASAWA Nobue, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, HORI Yoko, ISHIKAWA Miyuki, MURATA Chiyoe,

ZHANG Huiming, WADA Keiko, OTSUKA Rei, MABUCHI Tomoko, **KONDO Takaaki**, TOYOSHIMA Hideaki
Association of white blood cell count and clustered components of metabolic syndrome in Japanese men
Circ J 68 : 892-897, 2004

大西丈二, 益田一郎, 鈴木裕介, 石川美由紀, **近藤高明**, 井口昭久
農村地域に居住する高齢者の幸福感に寄与する活動
日本農村医学会雑誌 53 : 641-648, 2004

ASANO Haruhiko, **MURATE Takashi**, NSOE Tomoki, SAITO Hidehiko, STMATOYANNOPOULOUS George
Molecular cloning and characterization of ZFF29 : a protein containing a unique Cys2His2 zinc finger motif
Biochem J 384 : 647-653, 2004

TERADA Nobuo, BANNO Yoshiko, OHNO Nobuhiko, FUJII Yasuhisa, **MURATE Takashi**, SARNA Justyna R,
HAEKES Richard, ZEA Zagreb, BABA Takeshi, OHNO Shinichi
Compartmentation of the mouse cerebellar cortex by sphingosine kinase
J Comp Neurol 469 : 119-127, 2004

SHIMOKATA Keiko, YAMADA Yoshiji, KONDO Takahisa, ICHIHARA Sahoko, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**,
MUROHARA Toyoaki, OHNO Miyoshi, YOKOTA Mitsuhiro
Association of gene polymorphisms with coronary artery disease in individuals with or without nonfamilial
hypercholesterolemia
Atherosclerosis 172 : 167-173, 2004

ICHIHARA Yoshio, OHNO Jun, SUZUKI Masayuki, ANNO Takafumi, SUGINO Mikio, **NAGATA Kohzo**
Blunt circulatory response to exercise in coronary high-risk subjects among apparently healthy Japanese
Circ J 68 : 286-293, 2004

YAMADA Akira, ICHIHARA Sahoko, MURASE Yosuke, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**,
MUROHARA Toyoaki, YAMADA Yoshiji, YOKOTA Mitsuhiro
Lack of association of polymorphisms of the lymphotoxin a gene with myocardial infarction in Japanese
J Mol Med 82 : 477-483, 2004

KATO Tomoko S., **NODA Akiko**, IZAWA Hideo, YAMADA Akira, OBATA Koji, **NAGATA Kohzo**, **IWASE Mitsunori**,
MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro
Discrimination of nonobstructive hypertrophic cardiomyopathy from hypertensive left ventricular hypertrophy on the
basis of strain rate imaging by tissue Doppler ultrasonography
Circulation 110 : 3808-3814, 2004

NAKATA Seiichi, **NODA Akiko**, YAGI Hideto, YANAGI Eriko, SUZUKI Keisuke, MISAWA Hayato, **KOIKE Yasuo**,
NAKASHIMA Tsutomu
Effects of nasal obstruction on continuous positive airway pressure treatments in patients with obstructive sleep
apnea syndrome
Sleep Biol Rhythms 2 : 89-91, 2004

MIYAO Etuko, NAKAYAMA Meiho, **NODA Akiko**, MIYAO Masaru, YASUMA Fumihiko, HASHIOKA Toshiki, ESAKI Kazusisa

Orthodontic treatment for obstructive sleep apnea syndrome

Sleep Biol Rhythms 2 : 229-231, 2004

MIYATA Seiko, **NODA Akiko**, ITO Nami, ATARASHI Misaho, YASUMA Fumihiko, MORITA Setsuko, **KOIKE Yasuo**

REM sleep is impaired by small amount of alcohol in young women sensitive to alcohol

Intern Med 43 : 679-684, 2004

井澤英夫, 山田 晶, 浅野辰行, 磯部 智, **野田明子**, 奥村健二, 室原豊明, 横田充弘

肥大型心筋症の運動に対する微小循環応答

心臓 36 : 38-39, 2004

OKADA Hiromi, **TAKAGI Akira**, **MURATE Takashi**, ADACHI Tatsuya, YAMAMOTO Koji, MATSUSHITA Tadashi,

TAKAMATSU Junki, SUGITA Kanji, SUGIMOTO Mitsuhiko, YOSHIOKA Akira, YAMAZAKI Tomio, SAITO

Hidehiko, **KOJIMA Tetsuhito**

Identification of protein S α gene mutations including four novel mutations in eight unrelated patients with protein S deficiency

Br J Haematol 126 : 219-225, 2004

MATSUSHITA Tadashi, HAYASHI Hideo, KUNISHIMA Shinji, HAYASHI Mutsuharu, IKEJIRI Makoto,

TAKESHITA Kyosuke, YUZAWA Yukio, ADACHI Tatsuya, HIRASHIOMA Kanji, SONE Michihiko, YAMAMOTO

Koji, **TAKAGI Akira**, KATSUNI Akira, KAWAI Kumi, NEZU Tomoyo, TAKAHASHI Masahide, NAKAJIMA

Tsutomu, NAOE Tomoki, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko

Targeted disruption of mouse ortholog of the human MYH9 responsible for macrothrombocytopenia with different organ involvement : Hematological, nephrological, and otological studies of heterozygous KO mice

Biochem Biophys Res Commun 325 : 1163-1171, 2004

TAKAGI Kenji, TATSUMI Yasuaki, **KITAICHI Kiyoyuki**, **IWASE Mitsunori**, SHIBATA Eiji, NAKAO Makoto,

MATSUMOTO Takatoshi, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

A sensitive colorimetric assay for polyamines in erythrocytes using oat seedling polyamine oxidase

Clin Chim Acta 340 : 219-227, 2004

ASAKURA Emiko, NAKAYAMA Hironao, SUGIE Masami, ZHAO Ying Lan, NADAI Masayuki, KITAICHI Kitaihci,

SHIMIZU Akemi, MIYOSHI Mika, **TAKAGI Kenji**, **TAKAGI Kenzo**, **HASEGAWA Takaaki**

Azithromycin reverses anticancer drug resistance and modifies hepatobiliary excretion of doxorubicin in rats

Eur J Pharmacol 484 : 333-339, 2004

KAMIYA Satoshi, NAGINO Masato, KANAZAWA Hidetoshi, KOMATSU Shunichiro, MAYUMI Toshihiko,

TAKAGI Kenji, ASAKURA Takashi, NOMOTO Koji, TANAKA Ryuichiro, NIMURA Yuji

The value of bile replacement during external biliary drainage

Ann Surg 239 : 510-517, 2004

SHIMIZU Akemi, MIYOSHI Mika, SUGIE Masami, UYEYAMA Jun, YAMAGUCHI Takuji, SASAKI Toshinobu,

TAKAGI Kenzo, JIND Mingji, MIYAMOTO Ken-ichi, TSUJI Akira, **HASEGAWA Takaaki**

Possible involvement of P-glycoprotein in renal excretion of pazufloxacin in rats

Eur J Pharmacol 501 : 151-159, 2004

SUZUKI Ryujiro, MIYAZAKI Yutaka, **TAKAGI Kenzo**, TORII Keizo, TANIGUCHI Hiroyuki

Matrix metalloproteinases in the pathogenesis of asthma and COPD : implications for therapy

Treat Respir Med 3 : 17-27, 2004

NAKATANI Yukio, MIYAGI Yohei, TAKEMURA Tamiko, OKA Teruaki, **YOKOI Toyoharu**, TAKAGI Masayuki, YOKOYAMA Shigeo, KASHIMA Kenji, HARA Kazuo, YAMADA Tetsuya, NOZAWA Akinori, INAYAMA Yoshiaki, SAKAMOTO Kazuhiro, OGAWA Nobuo, KITAMURA Hitoshi, RESL Milan, CHO Sang-Ho, KOSS Michael N, MARK Eugene J.

Aberrant nuclear/cytoplasmic localization and gene mutation of β -catenin in classic pulmonary blastoma β -catenin immunostaining is useful for distinguishing between classic pulmonary blastoma and a blastomatoid variant of carcinosarcoma

Am J Surg Pathol 28 : 921-927, 2004

NISHIYAMA Osamu, TANIGUCHI Hiroyuki, KONDOH Yasuhiro, KIMURA Tomoki, KATOH Toshiyuki, OICHI Toshifumi, MATSUMOTO Shuichi, **YOKOI Toyoharu**, **TAKAGI Kenzo**, SHIMOKATA Kaoru, JOHKOH Takeshi, MUELLER Nestor S.

Familial idiopathic pulmonary fibrosis : serial high-resolution computed tomography findings in 9 patients

J Comput Assist Tomogr 28 : 443-448, 2004

[科研費・班研究等]

伊藤秀郎, **川村久美子**

臨床分離菌におけるメタロ β -ラクタマーゼ遺伝子の保有調査と院内感染対策

平成14—15年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書 1冊, 2004

豊嶋英明, **近藤高明**, **玉腰浩司**, **八谷 寛**

生活習慣病発症に関する職域コホート研究—血清レプチン値と体重変化との関連

平成15年度公益信託日本動脈硬化予防研究基金研究報告書 pp 107-108, 2004

高木 明, **小嶋哲人**

血栓症モデル動物での血栓症発症因子の解析-in vivo ストレス負荷マウスにおける TF の組織特異性発現と血栓形成
厚生労働科学研究費補助金 難知性疾患克服事業 血液凝固異常症に関する調査研究 平成15年度総括・分担研究報告書 pp 88-91, 2003

上山 純, **高木健次**, **斎藤 勲**

化学物質によるヒト生殖・次世代影響の解明と内分泌かく乱作用検出のための新たなバイオマーカーの開発

平成15年度厚生労働科学研究費補助金 (化学物質リスク研究事業) 総括・分担研究報告書 pp 50-62, 2004

〔その他印刷物等〕

橋本克訓

名古屋大学医学部保健学科に赴任して

細胞検査士会会報 p 17, 2004

下光輝一, 井上 茂, 小田切優子, 高波嘉一, 豊嶋英明, 八谷 寛, 玉腰浩司, **近藤高明**, 井口ちよ
肥満を伴った高脂血症患者に対する運動療法の効果に関する研究 行動医学的アプローチを用いた運動習慣の定着に
よる動脈硬化促進要因の改善に関する研究

医科学応用研究財団研究報告 pp 215-223, 2004

八谷 寛, 玉腰浩司, 大塚 礼, 間淵智子, 和田恵子, 張 恵明, 村田千代栄, 石川美由紀, **近藤高明**, 豊嶋英明
日本人男性における血清レプチン濃度と5年間追跡後の体重変化

健康医科学研究助成論文集 pp 110-117, 2004

八谷 寛, 間淵智子, 大塚 礼, 和田恵子, 長澤伸江, 張 恵明, 村田千代栄, 石川美由紀, 堀 谷子, **近藤高明**,
玉腰浩司, 豊嶋英明

肥満者における心血管疾患発症の過剰リスクを説明する新しい軸 血清レプチン値と白血球数の関連

健康管理事業団研究助成論文集 pp 19-25, 2004

〔学会発表〕

SUZUKI Miho, UHEYAMA Jun, NADAI Masayuki, KIMURA Masao, **HASEGAWA Takaaki**, YOSHIZUMI Hideo
Effects of streptozotocin-induced diabetes on pharmacokinetics and hepatic drug metabolism of antipyrine and
theophylline in rats (Abstract, p278)

第19回日本薬物動態学会年会, 2004. 11 (金沢)

HASEGAWA Takaaki, SHIMIZU Akemi, UHEYAMA Jun, MIYOSHI Mika, **KITAICHI Kiyoyuki**, **TAKAGI Kenji**, **TAKAGI**
Kenzo, KIM Meiki, MIYAMOTO Ken-ichi

Possible involvement of P-glycoprotein in renal excretion of pazufloxacin in rats (Abstract, p 336)

第19回日本薬物動態学会年会, 2004. 11 (金沢)

長谷川高明, 清水明美, **上山 純**, 三好美佳, **北市清幸**, **高木健次**, **高木健三**, 金 明姫, 宮本謙一
パズフロキサシンの腎排泄に対する P-糖タンパク質の関与

第19回日本薬物動態学会年会, 2004. 11 (金沢)

元山正子, 国島伸治, 堀尾裕美, 岡田浩美, 奥村 薫, 京谷麻由, **橋本克訓**, **杜 軍**, **高木 明**, **村手 隆**, **小嶋**
哲人

DNA ワクチン法を用いた抗ヒト血小板膜蛋白 GPV 抗体の作製 (プログラム・抄録集)

第43回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会, 2004. 3 (津)

橋本克訓, 姥名裕子, 成瀬真理子, 杉浦文美, 野々部透, 玉置和仁, **横井豊治**

尿細胞診における移行上皮細胞の形態的変性の解析 (日本臨床細胞学会雑誌43巻 Suppl. 1 p 210)

第45回日本臨床細胞学会総会, 2004.7 (東京)

金 毅, 村雲芳樹, **市原正智**, 高橋雅英

MEN2A, 2B 型変異 RET により発現が誘導される新規遺伝子 B242の解析 (抄録集 p 300, 2004)

第93回日本病理学会総会, 2004.6 (札幌)

時々輪真由美, 川井久美, 黒川 景, 村雲芳樹, **市原正智**, 浅井直也, 高橋雅英

RET チロシン1062を介するシグナルの臓器発生における役割 (抄録集 p 301, 2004)

第93回日本病理学会総会, 2004.6 (札幌)

金 毅, 村雲芳樹, **市原正智**, 高橋雅英

マウス CKAP 2 遺伝子の同定と機能解析 (抄録集 p 53, 2004)

第63回 日本癌学会学術総会, 2004.9 (福岡)

村雲芳樹, **市原正智**, 高橋雅英

ヒト REV 1 蛋白の細胞内局在の検討 (抄録集 p 155, 2004)

第63回 日本癌学会学術総会, 2004.9 (福岡)

和知野純一, 土井洋平, 山根一和, 柴田尚宏, 八木哲也, **伊藤秀郎**, 荒川宜親

Klebsiella pneumoniae より分離されたセファマイシン分解性 GES 型 class A 型 β -ラクタマーゼの解析 (予稿集 p 119, 2004)

第77回日本細菌学会総会, 2004.2 (大阪)

IWASE Mitsunori, ICHIHARA Sahoko, KATO Yosuke, MATSUSHITA Aya, KANAZAWA Hiroaki, **HASHIMOTO Katsunori**, OBATA Koji, **NAGATA Kohzo**, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro, TSUNEMATSU Takasi, ISHIKAWA Yoshihiro

Growth hormone-releasing peptide can suppress myocardial oxidative stress and ameliorate progressive left ventricular remodeling in cardiomyopathic hamsters

American College of Cardiology, Annual Scientific Session 2004, 2004.3 (New Orleans, USA)

ISOBE Satoshi, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, NISHIZAWA Takao, NONOKAWA Makoto, ANDO Akitada, **NAGATA Kohzo**, KATO Katsuhiko, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro

Myocardial 123I-MIBG scintigraphy can assess left ventricular functional reserve in patients with nonobstructive hypertrophic cardiomyopathy

The Society of Nuclear Medicine, 51st Annual Meeting, 2004.6 (Philadelphia, USA)

MATSUSHITA Aya, **IWASE Mitsunori**, KATO Yosuke, KANAZAWA Hiroaki, **HASEGAWA Takaaki**, **KOIKE Yasuo**, **HASHIMOTO Katsunori**, ICHIHARA Sahoko, **NAGATA Kohzo**, YOKOTA Mitsuhiro

Cardiovascular effects of endotoxin derived from Escherichia coli vs. Klebsiella pneumoniae

8th Conference of the International Endotoxin Society, 2004.11 (Kyoto)

HAYASHI Keiko, **IWASE Mitsunori**, KATO Yosuke, MATSUSHITA Aya, KIMATA Hirotaka, **HASEGAWA Takaaki**, **HASHIMOTO Katsunori**, ICHIHARA Sahoko, **NAGATA Kohzo**, YOKOTA Mitsuhiro

Profound functional and structural cardiovascular alterations induced by endotoxin derived from Pseudomonas

aeruginosa

8th Conference of the International Endotoxin Society, 2004.11 (Kyoto)

IWASE Mitsunori, YOKOTA Mitsuhiro, KATO Yosuke, MATSUSHITA Aya, **NODA Akiko**, **KITAICHI Kiyoyuki**, KANAZAWA Hiroaki, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**, MUROHARA Toyoaki

Cardiovascular deconditioning by exposure to simulated space microgravity can be prevented by centrifuge-induced artificial gravity with ergometer exercise

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004.3 (東京)

IWASE Mitsunori, ICHIHARA Sahoko, KATOH Yosuke, **NAGATA Kohzo**, KANAZAWA Hiroaki, **HASHIMOTO Katsunori**, IZAWA Hideo, MATSUSHITA Aya, OBATA Koji, TSUNEMATSU Takashi, ISHIKAWA Yoshihiro, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

Growth hormone-releasing peptide can attenuate myocardial oxidative stress, leading to improved left ventricular function in cardiomyopathic hamsters

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004.3 (東京)

林 恵子, **岩瀬三紀**, 松下亜矢, 加藤洋介, 木俣宏隆, **野田明子**, **古池保雄**, 小畑孝二, **永田浩三**, 横田充弘
ハムスターにおける統合的心機能解析

第51回日本実験動物学会総会, 2004.3 (長崎)

松下亜矢, **岩瀬三紀**, 加藤洋介, 金澤寛明, **長谷川高明**, **古池保雄**, 橋本克訓, 市原佐保子, **永田浩三**, 横田充弘
大腸菌由来および肺炎桿菌由来エンドトキシンの心行動態に及ぼす影響と酸化ストレスの関与

第51回日本実験動物学会総会, 2004.3 (長崎)

木俣宏隆, **岩瀬三紀**, 松下亜矢, 加藤洋介, 林 恵子, 橋本克訓, **野田明子**, **古池保雄**, **永田浩三**, 横田充弘
小動物用麻酔薬が心行動態に及ぼす影響

東海実験動物研究会2004年度研究発表会 (研究交流), 2004.7 (名古屋)

岩瀬三紀, 横田充弘, 加藤洋介, 松下亜矢, **野田明子**, 北市清幸, 金澤寛明, 井澤英夫, **永田浩三**, 室原豊明
擬似無重力状態の曝露により惹起される循環器機能低下は遠心誘発性重力負荷とエルゴメーター運動負荷の併用により抑制される

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

岡本真和, **川部 勤**, 原 徹, 伊藤 康, 今泉和良, 久米裕明, 長谷川好規, 下方 薫
結核性及び癌性胸膜炎におけるサイトカイン

第54回日本アレルギー学会総会, 2004.11 (横浜)

岡本真和, **川部 勤**, 原 徹, 伊藤 康, 今泉和良, 久米裕明, 長谷川好規, **高木健三**, 下方 薫
SMXA リコンビナント近交系マウスを用いた気管支喘息の原因遺伝子の同定と解析

第16回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2004.5 (群馬)

岡本真和, **川部 勤**, 原 徹, 伊藤 康, 今泉和良, 久米裕明, 長谷川好規, **高木健三**, 下方 薫
結核性胸膜炎におけるサイトカインの動態

第74回実験結核研究会, 2004.4 (名古屋)

岡本真和, **川部 勤**, 原 徹, 伊藤 康, 今泉和良, 久米裕明, 長谷川好規, 下方 薫
結核性及び癌性胸膜炎におけるサイトカイン・ケモカインの検討
第44回日本呼吸器学会学術講演会, 2004.3 (東京)

伊藤 康, 孫 政実, 佐藤慎二, 石川貴之, 近藤征史, **川部 勤**, 今泉和良, 長谷川好規, 下方 薫
ヒト気道上皮細胞における Ca^{2+} 依存性 K^+ チャンネルを介した細胞外 ATP 受容体刺激のメカニズム
第45回日本呼吸器学会学術講演会, 2004.3 (東京)

中西 亨, 今泉和良, **川部 勤**, 岡本真和, 伊藤源士, 住田 篤, 小島克之, 伊藤 康, 久米裕明, 関戸好孝, 長谷川好規
肺癌組織および肺癌細胞株における Th1 細胞遊走性ケモカイン発現の解析
第45回日本呼吸器学会学術講演会, 2004.3 (東京)

岡本真和, **川部 勤**, 長谷川好規, 大野民生, 西村正彦, **高木健三**
SMXA リコンビナント近交系マウスを用いたアレルギー遺伝子の同定と解析
第16回気道病態シンポジウム, 2004.1 (東京)

YOKOTA Miki, YAMADA Keiko, MATSUGAKI Tomoko, HASEGAWA Tadao, TORII Keizo, **KAWAMURA Kumiko**,
SHIMOKATA Kaoru, OHTA Michio
The variation of TSST-1 production in MRSA strains : A possible etiological relation with neonatal toxic shock
syndrome-like exanthematous disease (Abstract, p 139, 2004)
International Conference on Emerging Infectious Diseases, 2004.3 (Atlanta, USA)

KAWAMURA Kumiko, HASEGAWA Tadao, TORII Keizo, **ITO Hideo**, OHTA Michio
Prevalence of a ParE Ile460-Val substitution in clinical streptococcus pneumoniae isolates that were less susceptible to
fluoroquinolones (Abstract, p 23, 2004)
American Society for microbiology 104th General Meeting, 2004.5 (New Orleans, USA)

川村久美子, 山篠貴文, **伊藤秀郎**, 鳥居啓三, 長谷川忠男, 太田美智男
腸管出血性大腸菌 O157:H7 における塩化物イオン・メチオニンの増殖抑制効果の解析 (予稿集, p 80, 2004)
第77回日本細菌学会総会, 2004.4 (大阪)

鳥居啓三, 武野 彰, 安形則雄, 名倉崇文, **川村久美子**, 清水 徹, 林 哲也, 長谷川忠男, 太田美智男
セレウス菌 *Bacillus cereus* のゲノム解析 (予稿集, p 94, 2004)
第77回日本細菌学会総会, 2004.4 (大阪)

平間佑美, **川村久美子**, 安形則雄, 武野 彰, 岡本 陽, 鳥居啓三, **伊藤秀郎**, 長谷川忠男, 太田美智男
Bacillus cereus により産生される嘔吐毒素 (cereulide) の抗菌活性について (予稿集, p 144, 2004)
第77回日本細菌学会総会, 2004.4 (大阪)

横田美紀, 松垣智子, 山田景子, **川村久美子**, 鳥居啓三, **伊藤秀郎**, 長谷川忠男, 太田美智男
黄色ブドウ球菌の臨床分離株間における TSST-1 産生量の違い (予稿集, p 214, 2004)
第77回日本細菌学会総会, 2004.4 (大阪)

三善郁代, 岡本 陽, 山田景子, 大蔵照子, 武野 彰, **川村久美子**, 鳥居啓三, 長谷川忠男, 太田美智男
Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus (MRSA) の菌体外分泌蛋白のプロテアーゼによる経時的变化 (予稿集,
p 15, 2004)

第41回日本細菌学会中部支部総会, 2004.10 (岐阜)

川村久美子, 平間佑美, 安形則雄, **伊藤秀郎**, 武野 彰, 鳥居啓三, 長谷川忠男, 太田美智男
ラット肝ミトコンドリアを用いた Bacillus cereus 嘔吐毒素, セレウリドの定量的測定法の基礎的検討 (予稿集, p 25,
2004)

第41回日本細菌学会中部支部総会, 2004.10 (岐阜)

平間佑美, **川村久美子**, 安形則雄, 武野 彰, 岡本 陽, 鳥居啓三, **伊藤秀郎**, 長谷川忠男, 太田美智男
Bacillus cereus 嘔吐毒素 (cereulide) の抗菌活性について (予稿集, p 27, 2004)

第41回日本細菌学会中部支部総会, 2004.10 (岐阜)

SHIMIZU Akemi, MIYOSHI Mika, UHEYAMA Jun, SUZUKI Miho, **KITAICHI Kiyoyuki, TAKAGI Kenji, TAKAGI Kenzo, HASEGAWA Takaaki**

Gender-related differences in expression and function of hepatic P-glycoprotein and multidrug resistance-associated protein (Mrp2) in rats (Abstract, p336)

第19回日本薬物動態学会年会, 2004.11 (金沢)

NAKAJIMA Akira, YAMADA Kiyofumi, NAGAI Taku, UCHIYAMA Takehisa, MIYAMOTO Yoshiaki, MAMIYA Takayoshi, HE Jue, NITTA Atsumi, MIZUNO Makoto, TRAN Manh Hung, SETO Aika, YOSHIMURA Masako, **KITAICHI Kiyoyuki, HASEGAWA Takaaki**, SAITO Kuniaki, YAMADA Yasuhiro, SEISHIMA Mitsuru, SEKIKAWA Kenji, KIM Hyung-Chun, NABESHIMA Toshitaka

Tumor necrosis factor — a protects methamphetamine — induced drug dependence and neurotoxicity

34th Annual Meeting Society for Neuroscience, 2004.10 (San Diego, USA)

SUZUKI Takayoshi, UHEYAMA Jun, YAMADA Chie, **KITAICHI Kiyoyuki, KONDO Takaaki, TAKAGI Kenzo, HASEGAWA Takaaki, TAKAGI Kenji**

A sensitive colorimetric assay for polyamines in erythrocytes using oat seedling polyamine oxidase (Program p 124, 2004)

2004 International Conference on Polyamines — Functions and Clinical Applications —, 2004.11 (Kisarazu)

奥田友宏, **北市清幸**, 中川直人, 菱沼隆則, 渡邊建彦, 後藤順一, 谷内一彦

メタンフェタミンと抗ヒスタミン薬の薬物相互作用

第8回日本ヒスタミン研究会, 2004.12 (仙台)

中山寛尚, 安藤麻衣, **北市清幸**, 金澤寛明, **高木健次, 高木健三, 長谷川高明**

ノルフロキサシンの腸管分泌に及ぼす SLT-II の影響

第19回日本薬物動態学会年会, 2004.11 (金沢)

北市清幸, 福田昌也, 伊藤佑希子, 中山寛尚, 青山 渚, **高木健三, 長谷川高明**

覚醒剤依存症モデルにおける有機カチオン輸送担体の発現変化

第34回日本神経精神薬理学会・第26回日本生物学的精神医学会合同年会, 2004.7 (東京)

松島充代子, 北市清幸, 田中成一, 長谷川高明, 高木健三

Adrenomedullin によるラット腹腔肥満細胞からのヒスタミン遊離における G 蛋白の関与
第124回日本薬学会年会, 2004.3 (大阪)

北市清幸, 安部文江, 福田昌也, 横内 靖, 長谷川高明

非ステロイド系抗炎症薬測定系に及ぼす電源環境改善装置の効果
第124回日本薬学会年会, 2004.3 (大阪)

北市清幸, 伊藤佑希子, 福田昌也, 中山寛尚, 青山 渚, 高木健三, 長谷川高明

覚醒剤による神経毒性モデルにおけるメタンフェタミン中枢移行性の経時的変化
第13回神経行動薬理若手研究者の集い, 2004.3 (神戸)

松島充代子, 北市清幸, 田中成一, 長谷川高明, 高木健三

生理活性ペプチドにおけるラット肥満細胞からのヒスタミン遊離機構に関する研究
第16回気道病態シンポジウム, 2004.1 (東京)

HAGIWARA Kazumi, SOBUE Sayaka, BANNO Yoshiko, KOIZUMI-T Keiko, **KOJIMA Tetsuhito**, **TAKAGI Akira**,
ASANO Haruhiko, SUGISAKI Chiho, NOZAWA Yoshinori, **MURATE Takashi**

Determination of the promoter region responsible for the PMA induced sphingosine kinase 1 gene expression during
megakaryocytic differentiation of a human leukemia cell line, MEG-01 (抄録集 p 231)

Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division, 2004.9 (名古屋)

KOJIMA Tetsuhito, KUNISHIMA Shinji, MATSUSHITA Tadashi, YOKOI Kentaro, YOSHIHARA Takao,
YAMAZAKI Tomio, HAMAGUCHI Motohiro, SAITO Hidehiko

Somatic mosaicism in a family with MYH9 disorders (Abstract p227)

Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division, 2004.6 (Nagoya)

HAGIWARA Kazumi, SOBUE Sayaka, BANNO Yoshiko, TAMIYA-KOIZUMI Keiko, **KOJIMA Tetsuhito**, ASANO
Haruhiko, SUGISAKI Chiho, NOZAWA Yoshinori, **MURATE Takashi**

Megakaryocytic differentiation of a human leukemia cell line, MEGO-1

Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division, 2004.6 (Nagoya)

KUWANA Masataka, KURATA Yoshiyuki, FUJIMURA Kingo, FUJIMURA Koji, WADA Hideo, NAGASAWA
Toshiro, NOMURA Shosaku, **KOJIMA Tetsuhito**, YAGI Hideo, IKEDA Yasuo

Initial laboratory findings useful for predicting the diagnosis of chronic ITP+ results of a multicenter prospective
study

American Society of Hematology Forty-Sixth Annual Meeting, 2004.12 (San Diego, USA)

YAMAMOTO Koji, **KOJIMA Tetsuhito**, ADACHI Tatsuya, HAYASHI Mutsuharu, MATSUSHITA Tadashi,
TAKAMATSU Junki, LOSKUTOFF David J., SAITO Hidehiko

The stress-induced PAI-1 expression is enhanced in obese mice+ a possible mechanism of stress-associated
thrombosis in obese subjects

American Society of Hematology Forty-Sixth Annual Meeting, 2004.12 (San Diego, USA)

足立達哉, 松下 正, 林 陸春, 村田 誠, 横澤敏也, 勝見 章, 山本晃士, **小嶋哲人**, 齋藤英彦, 直江知樹
同種末梢血幹細胞移植後にSDAMTS13に対するインヒビターが出現した1症例 (抄録集 臨床血液 vol.45, No.8)
第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会, 2004.9 (京都)

林 陸春, 松下 正, 伊藤雅文, 岩崎卓識, 山田貴之, 足立達哉, 国島伸治, 山崎鶴夫, 近藤隆久, 勝見 章, 山本晃士, **小嶋哲人**, MACKMAN NIGEL, 齋藤英彦, 室原豊明, 直江知樹
ATIII欠損・組織因子(TF)低発現マウスの病態解析 (抄録集 臨床血液 vol.45, No.8)
第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会, 2004.9 (京都)

松下 正, 清水敦哉, 近藤隆久, 因田恭也, 足立達哉, 国島伸治, 山崎鶴夫, 勝見 章, 山本晃士, 神谷香一郎, **小嶋哲人**, 平井眞理, 齋藤英彦, 室原豊明, 直江知樹
複合体結晶構造モデルを用いた von Willebrand 因子-血小板 GPIb の相互作用様式の解析 (抄録集 臨床血液 vol.45, No.8)
第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会, 2004.9 (京都)

HOSHIYAMA Yoshiharu, KAWAGUCHI Takeshi, MIURA Yoshihiko, MIZOUE Tetsuya, TOKUI Noritaka, YATSUYA Hiroshi, SAKATA Kiyomi, **KONDO Takaaki**, KIKUCHI Shogo, TOYOSHIMA Hideaki, HAYAKAWA Norihiko, TAMAKOSHI Akiko, OHNO Yoshiyuki
A nested case-control study of stomach cancer in relation to green tea consumption in Japan (講演集 p 106, 2004)
第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

IKEDA Ai, ISO Hiroyasu, TOYOSHIMA Hideaki, DATE Chigusa, YAMAMOTO Akio, KIKUCHI Shogo, **KONDO Takaaki**, WATANABE Yoshiyuki, WADA Yasuhiko, KOIZUMI Akio, YOSHIMURA Takesumi, FUJINO Yoshihisa, MIZOUE Tetsuya, TAMAKOSHI Akiko
Marital status and mortality among Japanese men and women (講演集 p 152, 2004)
第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

ZHANG Huiming, TOYOSHIMA Hideaki, YATSUYA Hiroshi, TAMAKOSHI Koji, **KONDO Takaaki**, ISHIKAWA Miyuki, MURATA Chiyoe, OTSUKA Rei, MABUCHI Tomoko, WADA Keiko
Power to detect prior myocardial infarction by ECG findings at health examination
31st International Congress on Electrocardiology and 45th International Symposium on Vectorcardiology, 2004.6 (Kyoto)

MURATA Chiyoe, **KONDO Takaaki**, HORI Yoko, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, TOYOSHIMA Hideaki
Life span and mortality among the functionally independent elderly (Final Program p 54, 2004)
132nd Annual Meeting of the American Public Health Association, 2004.11 (Washington DC, USA)

ISHIKAWA Miyuki, **KONDO Takaaki**, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, TOYOSHIMA Hideaki
Characteristics of community dwelling homebound elderly in Japan (Final Program p 179, 2004)
132nd Annual Meeting of the American Public Health Association, 2004.11 (Washington DC, USA)

菊池正悟, 柳生聖子, 小幡由紀, 林 櫻松, 八谷 寛, 星山佳治, **近藤高明**, 坂田清美, 溝上哲也, 徳井教孝, 玉腰暁子, 豊嶋英明, 早川式彦, 吉村健清
前向き研究による血清 Helicobacter pylori, 低 pepsinogen と胃がんリスク (講演集 p 53, 2004)

第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

野田博之, 磯 博康, 豊嶋英明, 伊達ちぐさ, 山本昭夫, 菊池正悟, **近藤高明**, 渡辺能行, 和田安彦, 小泉昭夫, 玉腰暁子

歩行時間と循環器疾患死亡 (The JACC study) (講演集 p 139, 2004)

第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

大塚 礼, 八谷 寛, 玉腰浩司, 石川美由紀, 村田千代栄, 張 恵明, 和田恵子, 間淵智子, **近藤高明**, 豊嶋英明
自覚的ストレスと血清レプチン濃度—男性における関連— (講演集 p 157, 2004)

第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

八谷 寛, 豊嶋英明, 張 恵明, 和田恵子, 大塚 礼, 間淵智子, 村田千代栄, 石川美由紀, **近藤高明**, 豊嶋英明
職歴コホートにおける既往歴の妥当性 (講演集 p 198, 2004)

第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

和田恵子, 八谷 寛, 間淵智子, 大塚 礼, 張 恵明, 村田千代栄, 石川美由紀, 玉腰浩司, **近藤高明**, 豊嶋英明
血清レプチン値と高血圧の関連 (講演集 p 210, 2004)

第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

張 恵明, 玉腰浩司, 八谷 寛, 大塚 礼, 間淵智子, 石川美由紀, 村田千代栄, 長澤伸江, **近藤高明**, 豊嶋英明
長期の体重変動と metabolic syndrome との関連 (講演集 p 217, 2004)

第14回日本疫学会学術大会, 2004.1 (山形)

近藤高明, 八谷 寛, 玉腰浩司, 岡村 愛

人口寄与危険度割合を用いた職域集団での高血圧危険要因の評価 オッズ比との比較 (講演集 p 512, 2004)

第77回日本産業衛生学会, 2004.4 (名古屋)

大塚 礼, 八谷 寛, 玉腰浩司, 和田恵子, 堀 容子, **近藤高明**, 豊嶋英明
職域コホートにおける血清レプチン濃度と生活習慣との関連 (抄録集 p 104, 2004)

第39回日本循環器管理研究協議会・日本循環器病予防学会, 2004.6 (旭川)

堀 容子, 大塚 礼, 和田恵子, 八谷 寛, 玉腰浩司, **近藤高明**, 豊嶋英明
濃い味の好みと肥満との関連性に関する検討 (抄録集 p 104, 2004)

第39回日本循環器管理研究協議会・日本循環器病予防学会, 2004.6 (旭川)

近藤高明, 平野幸伸, 堀 容子, 鈴木重行

小児期の立位重心動揺と足底部形態特性 (講演集 p 43, 2004)

第50回東海公衆衛生学会学術大会, 2004.7 (名古屋)

堀 容子, 小笠原ゆかり, 小林督子, 滝 益栄, 玉腰浩司, **近藤高明**, 豊嶋英明
保健指導における味付けの好みの意義 男性における生活習慣病諸関連検査成績との関連から (プログラム及び内容要旨 p 92, 2004)

第30回日本看護研究学会学術集会, 2004.7 (埼玉)

近藤高明, 高木健三, 柴田英治

健常職域集団でのアレルギー性疾患と血清脂質値や炎症マーカーとの関連性 (講演要旨集 p 82, 2004)
第35回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会, 2004.9 (福井)

八谷 寛, 玉腰浩司, 大塚 礼, 近藤高明, 豊嶋英明

アディポネクチンは肥満度, インスリン抵抗性とは独立に metabolic syndrome に関連する (プログラム・抄録集 p 147, 2004)
第25回日本肥満学会, 2004.9 (大阪)

近藤高明, 堀 容子, 八谷 寛, 玉腰浩司, 豊嶋英明

各種肥満指標を metabolic syndrome 関連徴候のスクリーニングに用いた場合の有用性 (プログラム・抄録集 p 185, 2004)
第25回日本肥満学会, 2004.9 (大阪)

大塚 礼, 八谷 寛, 玉腰浩司, 堀 容子, 長澤伸江, 近藤高明, 豊嶋英明

職域男性における自覚的ストレスと血清レプチン濃度との関連 (プログラム・抄録集 p 186, 2004)
第25回日本肥満学会, 2004.9 (大阪)

池田 愛, 磯 博康, 豊嶋英明, 近藤高明, 溝上哲也, 小泉昭夫, 稲葉 裕, 玉腰暁子

両親の死亡年齢と本人の死亡リスクとの関連: JACC study (抄録集 p 205, 2004)
第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10 (松江)

梅澤光政, 磯 博康, 豊嶋英明, 伊達ちぐさ, 山本昭夫, 菊池正悟, 小泉昭夫, 近藤高明, 渡邊能行, 和田安彦, 稲葉 裕, 玉腰暁子

乳製品, カルシウムの摂取と循環器疾患死亡との関連 —JACC study— (抄録集 p 505, 2004)
第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10 (松江)

野田博之, 磯 博康, 豊嶋英明, 伊達ちぐさ, 山本昭夫, 菊池正悟, 小泉昭夫, 近藤高明, 渡邊能行, 和田安彦, 稲葉 裕, 玉腰暁子

運動と循環器死亡 —JACC study— (抄録集 p 505, 2004)
第63回日本公衆衛生学会総会, 2004.10 (松江)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, XU Jinglan, ICHIHARA Sahoko, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

Nicorandil inhibits oxidative stress-induced apoptosis in cardiac myocytes through activation of mitochondrial ATP-sensitive potassium channels and a nitrate-like effect
Keystone Symposia, Molecular Biology of Cardiac Disease, 2004.3 (Keystone, Col. USA)

OHSHIMA Satoru, ISOBE Satoshi, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**, NANASATO Mamoru, ANDO Akitada, **IWASE Mitsunori**, KATO Katsuhiko, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

Relationship between MIBG findings and myocardial properties in patients with dilated cardiomyopathy
Society of Nuclear Medicine, 51st Annual Meeting, 2004.6 (Philadelphia, USA)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, XU Jinglan, ICHIHARA Sahoko, **IWASE Mitsunori**, YOKOTA Mitsuhiro

(Finalist for poster competition in basic science) Mineralocorticoid receptor antagonism inhibits the development of cardiac hypertrophy and prevents the transition from hypertrophy to failure in low-renin and low-aldosterone hypertension

American Heart Association, 77th Annual Scientific Sessions, 2004. 11 (Chicago, USA)

HIRASHIKI Akihiro, YAMADA Yoshiji, IZAWA Hideo, ICHIHARA Sahoko, KATOU Tomoko, YAMADA Akira, MURASE Yosuke, WATARAI Masato, **NAGATA Kohzo**, OHNO Miyoshi, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro
Genetic risk for coronary artery disease in low-risk or high-risk subjects defined by conventional risk factors
第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, ICHIHARA Sahoko, **NODA Akiko**, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

Selective aldosterone blockade with eplerenone inhibits collagen synthesis, but not collagen degradation, and suppresses myocardial fibrosis in dahl-salt hypertension

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

ISOBE Satoshi, IZAWA Hideo, OOSHIMA Satoru, NANASATO Mamoru, ANDOH Akitada, HIRAI Toshihisa, **NAGATA Kohzo**, MATSUI Hideo, KATO Katsuhiko, **IWASE Mitsunori**, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro
Correlation between MIBG findings and myocardial properties in patients with dilated cardiomyopathy

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, ICHIHARA Sahoko, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

A nitrate-like effect of nicorandil contributes to inhibition of apoptosis induced by oxidative stress in cardiac myocytes

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

TANAKA Toshiro, YOSHIKANE Mari, IKEDA Nobuo, IINO Shigeo, **NAGATA Kohzo**, INDEN Yasuya, IZAWA Hideo, ISOBE Satoshi, KONDO Takahisa, TAKADA Yasunobu, SHIBATA Yoshihisa, YAMADA Kiyoyasu, SUZUKI Noriyuki, TAKESHITA Kyousuke, KATOU Tomoko, KOBAYASHI Koichi, HAYASHI Mutsuharu, YAMADA Akira, MUROHARA Toyoaki

Circadian variation of the effect of blood pressure on the pulse wave velocity

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

XU Jinglan, **NAGATA Kohzo**, OBATA Koji, ICHIHARA Sahoko, **NODA Akiko**, IZAWA Hideo, **IWASE Mitsunori**, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro

Nicorandil promotes coronary capillary formation via VEGF and suppresses the transition to heart failure in Dahl salt-sensitive hypertensive rats

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

永田浩三

Dahl 食塩感受性ラットにおける抗アルドステロン薬の効果

第9回名古屋大学分子細胞循環器研究会, 2004. 6 (名古屋)

永田浩三, 野田明子, 古池保雄, 小畑孝二, 許京蘭, 山田晶, 加藤倫子, 井澤英夫, 室原豊明, 市原佐保子, 岩

瀬三紀, 横田充弘

食塩感受性高血圧ラットモデルにおける抗アルドステロン薬の効果
第20回東海心機能研究会, 2004.6 (名古屋)

永田浩三, 小畑孝二, 許 京蘭, 市原佐保子, 野田明子, 井澤英夫, 岩瀬三紀, 室原豊明, 横田充弘
抗アルドステロン薬エプレレノンが高血圧ラットにおいて心筋 collagen 合成を抑制し, 左室拡張機能を改善する
第123回日本循環器学会東海地方会, 2004.6 (名古屋)

永田浩三, 野田明子, 早川あけみ, 市原佐保子, 室原豊明, 小畑孝二, 許 京蘭, 横田充弘
ニコランジルはミトコンドリア KATP チャンネルの活性化と硝酸剤様の作用を介して酸化ストレス誘導性心筋細胞アポトーシスを抑制する
第13回日本アポトーシス研究会学術集会, 2004.7 (名古屋)

小畑孝二, 許 京蘭, 成 憲武, 横田充弘, 永田浩三, 石塚宣彦, 斉藤敬司, 市原佐保子, 井澤英夫, 室原豊明
Nicorandil は Dahl 食塩感受性高血圧ラット不全心において機能的冠微小血管を増生する
第17回 NICORANDIL 研究会, 2004.10 (東京)

永田浩三, 野田明子, 松下亜矢, 木俣宏隆, 林 恵子, 山田 晶, 加藤倫子, 井澤英夫, 室原豊明, 岩瀬三紀, 市原佐保子, 小畑孝二, 許 京蘭, 横田充弘
エプレレノンは Dahl 食塩感受性高血圧ラット肥大心において connective tissue growth factor 発現の誘導と collagen 合成を抑制し, 左室拡張機能を改善する
第11回関西不全心研究会, 2004.10 (大阪)

永田浩三

Mineralocorticoid receptor antagonism inhibits the development of cardiac hypertrophy and prevents the transition from hypertrophy to failure in low-renin and low-aldosterone hypertension.
日本循環器学会第124回東海・第109回北陸合同地方会, 2004.11 (金沢)

KATO Tomoko, NODA Akiko, YAMADA Akira, IZAWA Hideo, MURASE Yosuke, IWASE Mitsunori, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro
Strain and strain rate derived from tissue Doppler imaging could discriminate hypertrophic cardiomyopathy from hypertensive left ventricular hypertrophy (Circulation Journal Supplement p202)
第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004.3 (東京)

YAMADA Akira, NODA Akiko, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, MURASE Yosuke, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro
Myocardial perfusion abnormalities revealed by myocardial contrast echocardiography in patients with hypertrophic cardiomyopathy : relation to left ventricular diastolic function (Supplement p203)
Circulation Journal, 2004.3 (東京)

KATO Tomoko, IZAWA Hideo, YAMADA Akira, MURASE Yosuke, NODA Akiko, TAKADA Yasunori, SHIBATA Yoshihisa, IWASE Mitsunori, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro
The findings of MIBG scintigraphy are not consistent with left ventricular functional responsiveness to adrenergic stimulation (Circulation Journal Supplement p627)

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

MIYATA Seiko, **NODA Akiko**, IWAMI Aki, OCHI Hikari, Kuroki Shoko, MANO Nobue, NISHIKIMI Naomichi, KATO Tomoko, YAMADA Akira, YOKOTA Mitsuhiro

Disproportionate changes in cardiac output and blood flow volume in the lower limb during recovery from exercise in healthy young adults (Abstracts p 156)

Seventh congress of the Asian federation of societies for ultrasound in medicine and biology, 2004. 5 (Utsunomiya)

MIYATA Seiko, **NODA Akiko**, ITO Nami, IWAMI Aki, ATARASHI Misaho, MORISHITA Yuki, SUKEGAWA Mayo, KUROKI Shyko, OCHI Hikari, **KOIKE Yasuo**

Impaired REM sleep by alcohol ingestion and alcohol sensitivity in young women

SLEEP, 2004. 6 (Philadelphia, USA)

MIYATA Seiko, **NODA Akiko**, NAKATA Seiichi, HONDA Kumiko, YANAGI Eriko, NAKASHIMA Tsutomu, YASUDA Yoshinari, SUGIURA Tatsuki, NAKAI Shigeru, **KOIKE Yasuo**

Home screening device for follow-up of continuous positive airway pressure therapy in patients with obstructive sleep apnea syndrome

SLEEP, 2004. 6 (Philadelphia, USA)

NODA Akiko, SUGIURA Tatsuki, MIYATA Seiko, NAKATA Seiichi, KUROKI Syoko, SUKEGAWA Mayo, NAKAI Shigeru, YASUMA Fumihiko, **KOIKE Yasuo**

Long-term nasal continuous positive airway pressure treatment decreases pulse wave velocity in patients with obstructive sleep apnea syndrome (Circulation III-607)

Circulation, 2004. 11 (New Orleans, USA)

KATO Tomoko, YAMADA Akira, **NODA Akiko**, IZAWA Hideo, MUASE Yosuke, YAMADA Kiyoyasu, ASANO Hiroyuki, **IWASE Mitsunori**, YOKOTA Mitsuhiro

Tissue Doppler imaging can discriminate nonobstructive hypertrophic cardiomyopathy from hypertensive left ventricular hypertrophy with high predictive accuracy

Circulation, 2004. 11 (New Orleans, USA)

ICHIHARA Sahoko, **NODA Akiko**, YAMADA Akira, KATO Tomoko, **NAGATA Kohzo**, **IWASE Mitsunori**, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro

Statin therapy can improve cardiac function and survival after heart failure in rats

American Collage of Cardiology, Annual Scientific Sessions, 2004. 3 (New Orleans, USA)

ICHIHARA Sahoko, **NODA Akiko**, YAMADA Akira, KATOU Tomoko, **NAGATA Kohzo**, YOKOTA Mitsuhiro
Statin therapy improves cardiac function and survival after heart failure in rats

第68回日本循環器学会総会・学術集会, 2004. 3 (東京)

野田明子, 宮田聖子, 安間文彦, 高木健三, 長谷川好規, 下方 薫

閉塞性睡眠時無呼吸症候群における持続気道陽圧療法の脈波伝播速度への影響 (抄録集 p 208)

日本呼吸器学会雑誌, 2004. 3 (東京)

宮田聖子, **野田明子**, 安間文彦, **高木健三**, 長谷川好規, 下方 薫
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における持続気道陽圧療法コンプライアンスに関する要因 (抄録集 p 209)
日本呼吸器学会雑誌, 2004.3 (東京)

山田 晶, **野田明子**, 黒木祥子, 加藤倫子, 井澤英夫, 村瀬 洋, 室原豊明, 横田充弘
拡張型心筋症にける strain および strain rate (抄録集 p 59)
心エコー図学会, 2004.4 (東京)

野田明子, 山田 晶, 越智ひかり, 加藤倫子, 黒木祥子, 宮田聖子, 井澤英夫, **岩瀬三紀**, 室原豊明, 横田充弘
高血圧症における心筋灌流評価 (抄録集 p 97)
心エコー図学会, 2004.4 (東京)

野田明子, 杉浦建生, 曾我太郎, 安田宜成, 中田 実, 岩山範久, 中井 滋, 宮田聖子, 助川真代, 黒木祥子, 中田
誠一, 安間文彦, 尾崎紀夫, 横田充弘, **古池保雄**
透析患者における睡眠障害 (抄録集 p 117)
日本睡眠学会第29回定期学術集会, 2004.7 (東京)

宮田聖子, **野田明子**, 中田誠一, 中井 滋, 尾崎紀夫, **古池保雄**, 藤田志保, 平田政敏, 榊原博樹, 羽生美香, 龍沢
多恵, 本多久美子, 岡田 保, 尾関かおり, 片田雅子, 岡田真紀, 伊藤朝雄, 塩見利明, 大島剛史, 杉浦正一, 早河
敏治, 澤木美音, 小西智代子, 齊藤八千代
パルスオキシメータによる動脈血酸素飽和度低下度判定基準の相違による睡眠呼吸障害重症度指標への影響 (抄録集
p 183)
日本睡眠学会第29回定期学術集会, 2004.7 (東京)

SOBUE Sayaka, HAGIWARA Kazumi, **TAKAGI Akira**, **KOJIMA Tetsuhito**, SUZUKI Motoshi, KOIZUMI-T Keiko,
BANNO Yoshiko, NOZAWA Yoshinori, **MURATE Takashi**
NGF-induced sphingosine kinase 1 gene expression in rat pheochromocytoma, PC12 cells (抄録集 p 149)
12th International Conference on second messengers and phosphoproteins, 2004.8 (Montreal, Canada)

YAMADA Takayuki, **TAKAGI Akira**, OKAGA Hiromi, MOTOYAMA Masako, HORIO Hiromi, YAMAMOTO Koji,
ITO Masafumi, MATSUSHITA Tadashi, **MURATE Takashi**, SAITO Hidehiko, **KOJIMA Tetsuhito**
ELISA for mouse PAI-1 using a specific antibody produced by the naked DNA method (Abstract p 221)
Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division, 2004.6 (Nagoya)

OKADA Hiromi, **TAKAGI Akira**, **MURATE Takashi**, ADACHI Tatsuya, YAMAMOTO Koji, MATSUSHITA Tadashi,
Tadashi Matsushita, TAKAMATSU Junki, YAMAZAKI Tomio, SAITO Hidehiko, **KOJIMA Tetsuhito**
Four novel mutations in eight unrelated Japanese subjects with protein S deficiency (Abstract p 222)
Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacific Division, 2004.6 (Nagoya)

祖父江沙矢加, 萩原和美, **高木 明**, **小嶋哲人**, 小泉恵子, 坂野喜子, 野澤義則, **村手 隆**
NGF-induced sphingosine kinase 1 gene expression in PC12 cells (抄録集 p 886)
第77回生化学会大会, 2004.10 (横浜)

山影 望, 池尻 誠, 京谷麻由, 奥村 薫, 堀尾裕美, 元山正子, 岡田浩美, 山田貴之, **高木 明**, **村手 隆**, **小嶋**

哲人

先天性血液凝固第 V 因子欠損症の遺伝子解析 (抄録集)

第 5 回愛知県医学検査学会, 2004.6 (江南)

山影 望, 池尻 誠, 奥村 薫, 京谷麻由, 堀尾裕美, 元山正子, 岡田浩美, **高木 明, 村手 隆**, 足立達哉, 松下 正, 山本晃士, 高松純樹, 国島伸治, 山崎鶴夫, 濱口元洋, 齋藤英彦, **小嶋哲人**

先天性血液凝固第 V 因子欠損症の一家系解析 (抄録集 臨床血液 vol.45, No.8)

第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会, 2004.9 (京都)

山田貴之, 池尻 誠, 山影 望, 京谷麻由, 奥村 薫, 堀尾裕美, 元山正子, 岡田浩美, **高木 明, 村手 隆, 小嶋哲人**

マウス AT に対する抗体作製と ELISA 構築 (プログラム・抄録集 日本血栓止血学会誌 Vol.15, No.5)

第27回日本血栓止血学会学術集会, 2004.11 (東京)

京谷麻由, 池尻 誠, 山影 望, 奥村 薫, 堀尾裕美, 元山正子, 岡田浩美, 山田貴之, **高木 明, 村手 隆, 杉村 基, 小林隆夫, 金山尚裕, 足立達哉, 山本晃士, 松下 正, 高松純樹, 齋藤英彦, 小嶋哲人**

妊娠中に深部静脈血栓症を発症した安置トロンビン欠損症 3 例の遺伝子解析 (プログラム・抄録集 日本血栓止血学会誌 Vol.15, No.5)

第27回日本血栓止血学会学術集会, 2004.11 (東京)

MIYOSHI Mika, SHIMIZU Akemi, NITTA Atsumi, UHEYAMA Jun, **TAKAGI Kenji, TAKAGI Kenzo, SAITO Kuniaki, HASEGAWA Takaaki**

Role of tumor necrosis factor- α in down-regulation of hepatic cytochrome P450 and P-glycoprotein by endotoxin (Abstract, p337)

第19回日本薬物動態学会年会, 2004.11 (金沢)

岡村 愛, 上島通浩, 大谷勝己, **高木健次**, 柴田英治, 市原 学, 王 海蘭, **近藤高明**, 那須民江

雄性ラットにおける有機リン系殺虫剤ジクロロボスの生殖器に及ぼす影響 (講演集 p 474, 2004)

第77回日本産業衛生学会, 2004.4 (名古屋)

中尾 誠, 小島康生, **高木健次**

経腸栄養剤施行患者の腹部症状に対するガラクトオリゴ糖の有用性 (講演集 p 150, 2004)

第19回日本静脈経腸栄養学会, 2004.2 (大阪)

UEYAMA Jun, KITAICHI Kiyoyuki, NADAI Masayuki, IWASE Mitsunori, MIYOSHI Mika, KANAZAWA Hiroaki, SUZUKI Ryoujiro, TAKAGI Kenji, TAKAGI Kenzo, HASEGAWA Takaaki

Effect of pioglitazone on endotoxin-induced decreases in hepatic drug-metabolizing enzyme activity and expression of CYP3A2 and CYP2C11 (Abstract, p343)

8th Conference of the International Endotoxin Society, 2004.11 (Kyoto)

清水明美, 三好美佳, **上山 純**, 鈴木美帆, **北市清幸, 高木健次, 高木健三, 長谷川高明**

雌雄ラットにおける肝薬物トランスポーター P 糖蛋白質および多剤耐性関連蛋白 Mrp2 の発現量と機能

第19回日本薬物動態学会年会, 2004.11 (金沢)

鈴木隆佳, 上山 純, 高木健次, 高木健三, 長谷川高明

大麦由来ポリアミン酸化酵素を用いた赤血球中スペルミン分析法の基礎検討 (要旨集 p 239, 2004)
第44回日本臨床化学会年会・第51回日本臨床検査医学会総会 連合大会, 2004.7 (東京)

YOKOI Toyoharu, HASHIMOTO Katsunori, ITO Masafumi

Pulmonary vascular changes in collagen vascular diseases (Update in pulmonary vascular diseases)
25th International Congress of the International Academy of Pathology, 2004.10 (Brisbane, Australia)

横井豊治

Solitary Fibrous Tumor (Localized Fibrous Tumor) の病理
第1回縦隔疾患研究会, 2004.2 (大阪)

横井豊治

病理検査士制度についての考察 (ワークショップ「病理医と病理技術者」)
第93回日本病理学会, 2004.6 (札幌)

[公開講座・講演会]

北市清幸

抗うつ, 抗不安効果の新評価システム
NPO バイオものづくり中部食品機能分科会シーズ発表会, 2004.10 (名古屋)

近藤高明

血中脂質
愛知県職員健康教室, 2004.3 (名古屋)

近藤高明

血中脂質
愛知県職員健康教室, 2004.8 (名古屋)

永田浩三

食塩感受性高血圧ラットモデルにおける抗アルドステロン薬の効果
第2回東海心血管系アルドステロン研究会, 2004.2 (名古屋)

永田浩三

高血圧症
三菱電機株式会社名古屋製作所第1回健康講座, 2004.6 (名古屋)

永田浩三

降圧薬の降圧効果と臓器保護効果: ARB の新しい位置付け
一宮医師会学術講演会, 2004.7 (一宮)

永田浩三

高血圧症

三菱電機株式会社名古屋製作所第2回健康講座，2004.8（名古屋）

永田浩三

（ランチョンセミナー）降圧薬の降圧効果と臓器保護効果：ARBへの期待
東海薬剤師大会，2004.12（名古屋）

永田浩三

（パネルディスカッション）狭心症治療における硝酸薬の位置付け
東北シグマート20周年記念講演会，2004.12（仙台）

野田明子

睡眠関連疾患とその検査法

第6回東海心臓リハビリテーション研究会，2004.7（名古屋）

横井豊治

呼吸器疾患の病理

平成15年度愛知県細胞診従事者講習会，2004.3（名古屋）

横井豊治

呼吸器細胞診（その他の病変）

日本臨床細胞学会東海連合会細胞診基礎講習会，2004.6（稲沢）

横井豊治

細胞診における組織学・病理学の意義

日本臨床衛生検査技師会平成16年度形態検査部門研修会，2004.9（名古屋）

理学療法学専攻

〔著書〕

猪田邦雄

車椅子，歩行補助具

『今日の整形外科治療指針第5版.10 リハビリテーション』（二ノ宮節夫，富士川恭輔，越智隆弘，国分正一，岩谷力）医学書院，2004. pp 347-350

三嶋真爾，光山浩人，近藤精司，清水卓也，杉浦博基，**猪田邦雄**，石黒直樹

反復性肩関節前方脱臼に対する Bankart-Bristow 法

『別冊整形外科 No46 〈関節不安定性と靱帯再建—適応・手技・成績〉』南江堂，2004. pp 16-20

野村 巖，末永義圓，井上 馨，**河上敬介**，安井幸彦，**小林邦彦**

『解剖学』第2版（標準理学療法学・作業療法学〈専門基礎分野〉シリーズ）（編集：野村 巖）医学書院，2004

〔原著論文〕

ISHIDA Kazuto, SHIMIZU Hideo, HIDA Hideki, URAKAWA Susumu, **IDA Kunio**, NISHINO Hitoo

Argyrophilic dark neurons represent various states of neuronal damage in brain insults : some come to die and other survive

Neuroscience 125 : 633-644, 2004

松田清守，辻村東子，中濱 博，**石田和人**

要介護認定における基本調査項目の問題点について —老人保健施設における各職種間の ADL 評価の見解から—
愛知県理学療法士会誌 16(2) : 65-66, 2004

小林邦彦

医療技術者教育における人体解剖実習の意義

日本の科学者 39 : 260-265, 2004

鈴木重行，**肥田朋子**，浅井友詞，瀬戸口芳正

スポーツ傷害に対する個別的筋伸張法

リウマチ科 32 : 62-76, 2004

白石成明，水谷智恵美，毛受雅文，出口 晃，高瀬幸次郎，浜口 均，川村陽一，**鈴木重行**，杉村公也

ADL 変化に対する回復期リハビリテーション病棟の有用性

日本老年医学会雑誌 41 : 646-652, 2004

SUZUKI Kengo, OMIYA Kazuto, **YAMADA Sumio**, KOBAYASHI Toru, SUZUKI Nobuyuki, OSADA Naohiko,

MIYAKE Fumihiko

Relationship between strength and endurance of leg skeletal muscle and cardiopulmonary exercise testing parameters in patients with chronic heart failure

J Cardiol 43 : 59-68, 2004

IZAWA Kazuhiro, HIRANO Yasuyuki, **YAMADA Sumio**, OKA Koichiro, OMIYA Kazuto, IJIMA Setsu
Improvement in physiological outcomes and health-related quality of life following cardiac rehabilitation in patients with acute myocardial infarction
Circ J 68 : 315-320, 2004

IZAWA Kazuhiro, **YAMADA Sumio**, OKA Koichiro, WATANABE Satoshi, OMIYA Kazuto, IJIMA Setsu, HIRANO Yasuyuki, KOBAYASHI Toru, KASAHARA Yusuke, SAMEJIMA Hisanori, OSADA Naohiko
Long-term exercise maintenance, physical activity, and health-related quality of life after cardiac rehabilitation
Am J Phys Med Rehabil 83 : 884-892, 2004

小林 亨, **山田純生**, 井澤和夫, 渡辺 敏, 大宮一人, 岡浩一郎, 三宅良彦
病前運動習慣は在宅運動療法の強度遵守に影響するか？
心臓リハビリテーション 9 : 175-180, 2004

井澤和夫, 平野康之, **山田純生**, 岡浩一郎, 渡辺 敏, 小林 亨, 大宮一人, 飯島 節
心筋梗塞患者における健康関連 QOL の長期経過に及ぼす重症度の検討
心臓リハビリテーション 9 : 181-185, 2004

〔総説・解説・その他〕

長屋政博・植松光俊・**加藤智香子**・石井文康
地域保健所における「転倒予防教室」について—参加者特性と介入効果—
総合リハビリテーション 32 : 190, 2004

鈴木重行, 平野幸伸, 水梨勝次, 鈴木敏和
腰背部痛の機能解剖学的特性
理学療法 21 : 365-373, 2004

鈴木重行, 瀬戸口芳正
スポーツ障害に対する Individual Muscle Stretching
日本整形外科学会雑誌 78 : 275-288, 2004

鈴木重行
疼痛
理学療法ジャーナル 38 : 753, 2004

鈴木重行
スポーツ障害に対する ID ストレッチングのアプローチ
季刊マニピュレーション 73 : 1-9, 2004

山田純生
今後の“回復期”心臓リハビリテーションプログラムは、遠隔医療を利用した在宅リハビリテーションを主体として進めるべきである

Modern Physician 24 : 528-532, 2004

山田純生

心臓リハビリテーション—心不全の病態と運動療法を中心に—
呼吸と循環 52 : 1175-1179, 2004

[科研費・班研究等]

猪田邦雄, 肥田朋子

高齢者の筋・骨格系の痛みに対する徒手的治療法の除痛効果の評価
平成14～16年度 厚生労働省科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業 高齢者の筋・骨格系の痛みに対する鍼灸および徒手的治療法の除痛効果に関する基礎的および臨床的研究 (H14—長寿—029) 平成15年度総括・分担研究報告書 pp 37-47, 2004

肥田朋子

モデル動物における筋・骨格系の痛みに対する各種徒手的治療法の除痛機構の解析
平成14年度～15年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)(2)) 研究成果報告書 pp 49-55, 2004

[その他印刷物]

加藤智香子

地域保健所における「転倒予防教室」について—参加者特性と介入効果—
名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 修士論文 pp 1-27, 2004

[学会発表]

松田和道, 深間内誠, 佐野哲也, 加藤 公, 藤澤幸三, **猪田邦雄**
寛骨臼回転骨切り術後患者のスポーツ活動に関する調査
第9回日本体力医学会東海地方会, 2004.3 (名古屋)

縣 信秀, 亀井健太, 柴田賢一, **宮津真寿美**, **河上敬介**, 早川公英, **小林邦彦**
伸張刺激の時間や種類とラット除神経筋萎縮抑制の関係 (理学療法学 31 (Suppl.) 2, 演題抄録集 p 409, 2004)
第39回日本理学療法学会大会, 2004.5 (仙台)

宮津真寿美, 笹井宣昌, 縣 信秀, **河上敬介**

メカニカルストレスによる筋肥大・筋萎縮抑制を起こす分子シグナル (理学療法の医学的基礎 8 (1) 抄録集 p 8, 2004)
第9回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 2004.5 (仙台)

笹井宣昌, **宮津真寿美**, **河上敬介**, 早川公英, **小林邦彦**

培養骨格筋細胞に周期的伸張刺激をくわえると Akt がリン酸化される

第39回日本理学療法学会大会, 2004.5 (仙台)

縣 信秀, 亀井健太, 柴田賢一, **宮津真寿美**, 河上敬介, 早川公英, 小林邦彦

異なる伸張刺激時間がラット除神経筋萎縮抑制に及ぼす影響

第39回日本理学療法学会大会, 2004.5 (仙台)

笹井宣昌, **宮津真寿美**, **河上敬介**, 早川公英, **小林邦彦**

培養骨格筋細胞に周期的伸張刺激をくわえると Akt がリン酸化される—伸張刺激により放出される因子の関与

第9回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 2004.5 (仙台)

KATO Shoko, MASUDA Tadashi, HIDA Hideki, **ISHIDA Kazuto**, **IDA Kunio**, NISHINO Hitoo

Improvement of forepaw motor function by treadmill training after intracerebral hemorrhage in rats. (脳出血モデルラットにおけるトレッドミル訓練による前肢運動機能の改善) (Jpn J Physiol 54, Suppl., S182, 2004)

第81回日本生理学会大会, 2004.6 (札幌)

ISHIDA Kazuto, SHIMIZU Hideo, HIDA Hideki, **IDA Kunio**, NISHINO Hitoo

The fate of hippocampal argyrophilic dark neurons after two kinds of brain insults; ibotenic acid injection and stressful swimming (Argyrophil III 陽性ニューロンの予後は障害程度によって異なる—ラット海馬へのイボテン酸投与と水泳ストレス負荷との比較—) (Jpn J Physiol 54, Suppl., S251, 2004)

第81回日本生理学会大会, 2004.6 (札幌)

石田和人, 須原あかね, 溝口育美, 新美佳子, 森川由紀子, **小林邦彦**, **猪田邦雄**

ラット線条体脳出血モデルの自然経過について—大脳皮質運動野でのニューロン樹状突起の変化に着目して— (理学療法学 第31巻 大会特別号 No.2—演題抄録集—, p 408, 2004)

第39回日本理学療法学会大会, 2004.5 (仙台)

加藤尚子, 増田 匡, 飛田秀樹, **石田和人**, **猪田邦雄**, 西野仁雄

The effect of treadmill running on motor cortex thickness after intracerebral hemorrhage in rats (脳出血モデルラットにおけるトレッドミル訓練の大脳皮質運動野の厚さに対する影響) (Neurosci Res 50, Suppl., S95, 2004)

第27回日本神経科学大会 (Neuro 2004), 2004.9 (大阪)

加藤尚子, 増田 匡, 飛田秀樹, **石田和人**, **猪田邦雄**, 西野仁雄

脳出血後のトレッドミル運動による運動機能の改善 (予稿集 p 60, 2004)

第51回中部日本生理学会, 2004.10 (静岡)

河上敬介, 辰巳仁史, 早川公英, 清島大資, **宮津真寿美**, 曾我部正博

内皮細胞の接着斑に対する機械刺激はインテグリンのエンドサイトーシスを活性化する (The JAPANESE JOURNAL OF PHYSIOLOGY 54 (Suppl.)s72, 2004)

第81回日本生理学会大会, 2004.5 (札幌)

清島大資, **河上敬介**, 辰巳仁史, 早川公英, 曾我部正博

機械刺激による内皮細胞の接着斑の変化にはたんぱく質の脱リン酸化が関与する (理学療法の医学的基礎8(1)抄録集 p 31, 2004)

第9回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 2004.5 (仙台)

辰巳仁史, 清島大資, **河上敬介**, 井上真寿美, 早川公英, 曾我部正博
細胞の機会受容の分子機構と形態変化
平成16年度 生理学研究所研究会 バイオ分子センサー研究会, 2004.9 (岡崎)

磯貝 香, **河上敬介**, 小林邦彦
触察による筋の投影像の精度 (「形態・機能」2(2):61(2004))
第2回コ・メディカル形態機能学研究会学術集会, 2004.3 (大津)

AKASHI Manabu, TAKAHASHI Yumiko, TANAKA Tetsuji, MIZUNO Hideaki, **KAWAMURA Morio**, KANDATSU Nobihisa, HORIBA Kiyoshi, KOMATSU Toru
Fiberoptic intubation with the aid of the laryngeal tube in the patients with difficult airway under general anesthesia
13th World Congress of Anaesthesiologists, 2004.4 (Paris, France)

山本佳司, 塩野谷巧嘉, 石田和美, 富田秀仁, 深谷佳希, 鈴木謙治, 鈴木祥子, 吉橋裕治, **河村守雄**
痙直型脳性麻痺児に対する上田法(上肢法)の効果判定 —上肢機能と手指運動— (理学療法学 31(2):206, 2004)
第39回日本理学療法学術大会, 2004.5 (仙台)

KOBAYASHI Kunihiko

Cadaver dissection for co-medical education in Japan (Anatomical Science International 79(Supplement):S187 (2004))
16th International Congress of the IFAA, Symposium Significance of anatomy in the co-medical education, 2004.8 (Kyoto)

MENJO Yuki, KOBAYASHI Miya, HAYASHI Atsuhiko, NAKAYAMA Hiroaki, **KOBAYASHI Kunihiko**
Ultrastructural evaluation of moxibustion treatment: morphological changes of dermal connective tissue of mice and moxa fibrils setting on the skin
16th International Congress of the IFAA, 2004.8 (Kyoto)

小林邦彦

現制度下でできる工夫(相互支援など)と制度的な改善のための要望 (「形態・機能」3(1):30(2004))
第16回国際解剖学会議(IFAA)シンポジウム「コメディカル教育における解剖学実習の充実に向けて」, 2004.8 (京都)

KOEDA Tomoko, INOUE Takayuki, TSUKAMOTO Shinya, TORIKAWA Takahiro, YAMAZAKI Makoto, **IDA Kunio**, MIZUMURA Kazue

Effects of vibration on the delayed onset muscle soreness in young subjects (若年被験者における遅発性筋痛に対するバイブレーション刺激の効果) (Japanese Journal of Physiology 54 Suppl:S171, 2004)
Jpn J Physiol, 2004.6 (札幌)

近藤高明, 平野幸伸, 堀 容子, **鈴木重行**
小児期の立位重心動揺と足底部形態特性 (予稿集 p, 2004)
第50回東海公衆衛生学会, 2004.7 (名古屋)

中村真弓, **鈴木重行**

閉塞性動脈硬化症 (ASO) に対する靴処方に関する検討 (予稿集 p 4, 2004)

第1回日本整形靴技術協会学術大会, 2004.10 (東京)

山田優子, 石黒正樹, 新美佳子, 糸ゆかり, 小出 祐, 田丸 司, 小羽正昭, **鈴木重行**

当院回復期リハビリテーション病棟における理学療法士の課題—定量的評価の試み— 第1報— (予稿集 p 41, 2004)
第20回東海北陸理学療法学会学術大会, 2004.10 (富山)

IZAWA Kazuhiro, HIRANO Yasuyuki, WATANABE Satoshi, OMIYA Kazuto, **YAMADA Sumio**, OKA Koichiro
Effect of self-monitoring during cardiac rehabilitation on exercise maintenance, self-efficacy, and physical activity
after acute myocardial infarction (Circulation J 68 Suppl I)

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

IZAWA Kazuhiro, HIRANO Yasuyuki, WATANABE Satoshi, OMIYA Kazuto, KOBAYASHI Toru, **YAMADA Sumio**,
OKA Koichiro, KASAHARA Yusuke

Physical activity, self-efficacy, and health-related quality of life outcomes 1 and 3 year after acute myocardial
infarction (Circulation J 68 Suppl I)

第68回日本循環器学会学術集会, 2004.3 (東京)

平澤有里, 渡辺 敏, **山田純生**, 井澤和夫, 小林 亨, 岡浩一郎, 大宮一人, 武者春樹, 笹 益雄

急性心筋梗塞患者における二次予防に関する意識調査 (理学療法学会特別号 Suppl II)

第39回日本理学療法学会学術大会, 2004.4 (仙台)

河野裕治, **山田純生**

換気補助による主観的労作軽減効果に関する研究 (理学療法学会特別号 Suppl II)

第39回日本理学療法学会学術大会, 2004.4 (宮城)

山田純生, 河野裕治, 岩津弘太郎

換気補助による呼吸困難感の軽減は運動時の相対的仕事量と関連する (抄録集)

第10回日本心臓リハビリテーション学会総会, 2004.8 (神奈川)

折口秀樹, 斉藤宗靖, 谷口興一, 安達 仁, 畦地 萌, 長山雅俊, 角口亜希子, 牧田 茂, 佐藤真治, 石原俊一, 池
田こずえ, 金澤雅之, 大宮一人, **山田純生**

第8回世界心臓リハビリテーション学会報告およびベルリンでの心臓リハビリテーションの現況 (抄録集)

第10回日本心臓リハビリテーション学会総会, 2004.8 (神奈川)

井澤和夫, 渡辺 敏, 大宮一人, 平野康之, **山田純生**, 岡浩一郎, 鮫島久紀, 長田尚彦

身体活動セルフエフィカシーに対する心臓リハビリテーションの影響についての検討 (抄録集)

第10回日本心臓リハビリテーション学会総会, 2004.8 (神奈川)

田村政近, 大宮一人, 宇野正人, 鈴木健吾, 伊藤香絵, 東 伸行, 井上康二, 明石喜浩, 関 敦, 鮫島久紀, 長田尚
彦, 三宅良彦, 井澤和夫, 渡辺 敏, **山田純生**, 岡浩一郎

慢性心不全患者のための疾患特異的 QOL 尺度の臨床応用の検討 (抄録集)

第10回日本心臓リハビリテーション学会総会, 2004.8 (神奈川)

〔公開講座・講演会〕

猪田邦雄

知的健康のすすめ

NHK 名古屋文化センター 名古屋大学提携市民講座 「生涯イキイキ健康を創ろう！ 一寝たきり・痴呆を防ぐために―」, 2004.4 (名古屋)

猪田邦雄, 加藤智香子

転倒予防について

緑保健所「体シャキシャキ (転倒予防) 教室」, 2004.5 (名古屋)

猪田邦雄, 加藤智香子

転倒予防について

緑保健所「体シャキシャキ (転倒予防) 教室」, 2004.6 (名古屋)

猪田邦雄

転倒予防について

北保健所「平成16年度転倒予防教室」, 2004.7 (名古屋)

猪田邦雄

転倒予防について

北保健所「平成16年度転倒予防教室」, 2004.10 (名古屋)

猪田邦雄

医学・医療への道

高知学芸中学高等学校 高校・大学連携「大学出張講義」, 2004.7 (高知)

猪田邦雄, 加藤智香子

転倒予防について

平成16年度なごや健康カレッジ 「転ばん大幸 (大きな幸せ) 教室」, 2004.9 (名古屋)

石田和人

生涯イキイキ健康を創ろう！一寝たきり・痴呆を防ぐ為に―：環境が創る脳・脳を創ろう

NHK 文化センター名古屋大学提携市民講座, 2004.6 (名古屋)

石田和人

理学療法の科学性・研究

愛知県理学療法士会新人教育プログラム, 2004.7 (名古屋)

加藤智香子

地域保健所における「転倒予防教室」について―参加者特性と介入効果―

名古屋大学理学療法研究会, 2004.7 (名古屋)

河上敬介

社団法人大分県理学療法士協会第22回研修会, 2004.2 (名古屋)

河村守雄

健康な骨を保つには

NHK 市民講座, 2004.4 (名古屋)

河村守雄

骨粗鬆症の予防(1)

尾張旭市骨粗鬆症検診講演(1), 2004.12 (尾張旭)

河村守雄

骨粗鬆症の予防(2)

尾張旭市骨粗鬆症検診講演(2), 2004.12 (尾張旭)

肥田朋子

慢性痛モデルラットにおける筋の組織学および生化学的解析の試み

第13回全道研修会, 2004.4 (札幌)

鈴木重行

筋肉痛の軽減とストレッチング

名古屋市立向陽高等学校出張講義, 2004.11 (名古屋)

鈴木重行

肩凝り・腰痛を和らげる方法

第8回静岡県理学療法士学会公開講座, 2004.3 (富士)

鈴木重行

ID ストレッチ 理論と実技入門編

西部地域リハビリテーション広域支援センター研修会, 2004.1 (徳島県美馬郡)

鈴木重行

運動時の痛みは何を語る？

名古屋大学提携市民講座, 2004.6 (名古屋)

鈴木重行

こころも身体も“しなやか”に

名古屋大学提携市民講座, 2004.6 (名古屋)

鈴木重行

DNIC アプローチ・ID ストレッチング

第20回静岡接骨学会特別講演, 2004.9 (静岡)

鈴木重行

理学療法学術活動のリーダー育成に向けて
第39回日本理学療法学術大会ポストコンgresセミナー，2004.5（仙台）

鈴木重行

疼痛抑制とIDストレッチ
日本理学療法士協会第665回現職者講習会，2004.8（名古屋）

鈴木重行

DNICアプローチとIDストレッチング
平成16年度北海道理学療法士会主催第96回技術講習会，2004.9（札幌）

鈴木重行

DNICアプローチおよびIDストレッチングの理論と実技
福島県理学療法士会研修会，2004.7（郡山）

鈴木重行

IDストレッチ
群馬県理学療法士会第1回技術講習会，2004.10（群馬郡）

井澤和夫，平野康之，渡辺 敏，小林 亨，山田純生，岡浩一朗，大宮一人
心臓リハビリテーション終了後の運動継続，セルフエフィカシーおよび身体活動量に関する研究（理学療法学 大会
特別号 Suppl II）
第39回日本理学療法学術大会，2004.4（宮城）

山田純生

臨床と研究
第60回名大理学療法研究会，2004.1（名古屋）

山田純生

脳卒中の二次予防トレーニング
運動療法推進機構研究会，2004.1（大阪）

山田純生

理学療法におけるリスク管理
愛知県厚生連理学療法研修会，2004.2（名古屋）

山田純生

最新式半臥位エルゴメータの紹介とレジスタンス・トレーニング
第5回埼玉心臓リハビリテーションセミナー，2004.4（毛呂山町，埼玉）

山田純生

心不全患者における運動時呼吸困難感の発生機序と改善方策
大分心臓リハビリテーション研究会，2004.5（大分）

山田純生

二次予防を主体とする運動療法はどこで（どう）行う
大阪心臓リハビリテーション研究会，2004.5（大阪）

山田純生

健康を創ろうー心臓を鍛えようー
NHK 文化センター名古屋大学提携講座，2004.5（名古屋）

山田純生

運動療法における生体反応モニタリング
日本理学療法士協会内部障害系専門領域研究会第9回循環器基礎講習会，2004.5（名古屋）

山田純生

運動療法と疾患特異的健康関連 QOL
運動と心臓病研究会，2004.6（長野）

山田純生

慢性心不全治療における運動療法の位置づけ
日本理学療法士協会内部障害系専門領域研究会第10回循環器基礎講習会，2004.9（相模原）

山田純生

心臓リハビリテーションとチーム医療
山形心臓リハビリテーション研究会，2004.10（山形）

山田純生

心臓リハビリテーション事始
第1回明石・西神心臓リハビリテーション研究会，2004.12（神戸）

作業療法学専攻

〔著書〕

原 和子

『介助犬訓練における医療従事者との連携にむけて（アシスタントドッグ叢書 No.5）』アシスタントドッグ育成普及委員会，2004.

清水英樹，杉村公也，美和千尋，寶珠山稔，伊藤恵美，森 明子

スモンの運動障害とその対策

『スモンの過去・現在・未来 — 「平成14年度スモンの集い」から—』（松岡幸彦）ヨツハシ，2004. p 1

〔原著論文〕

TAMURA Yohei, **HOSHIYAMA Minoru**, INUI Kouji, NAKATA Hideaki, UGAWA Yoshikazu, INOUE Kazuhiro, KAKIGI Ryusuke

Facilitation of A δ -fiber-mediated acute pain by repetitive transcranial magnetic stimulation

Neurology 62(12) : 2176-2181, 2004

TAMURA Yohei, **HOSHIYAMA Minoru**, INUI Kouji, NAKATA Hideaki, WASAKA Toshinori, KAKIGI Ryusuke

Cognitive processes in two-point discrimination : an ERP study

Clin Neurophysiol 115(8) : 1875-1884, 2004

NGUYEN Binh Thi, TRAN Tuan Diep, **HOSHIYAMA Minoru**, Inui Kouji, KAKIGI Ryusuke

Face representation in the human primary somatosensory cortex

Neurosci Res 50(2) : 227-232, 2004

KAKIGI Ryusuke, Inui Kouji, TRAN Tuan Diep, QUI Tung Hai, Wang Xiaong, WATANABE Shokio, **HOSHIYAMA Minoru**

Human brain processing and central mechanisms of pain as observed by electro- and magneto-encephalography

J Chin Med Assoc 67(8) : 377-386, 2004

TAMURA Yohei, **HOSHIYAMA Minoru**, INUI Kouji, NAKATA Hideaki, UGAWA Yoshikazu, INOUE Kazuhiro, KAKIGI Ryusuke

Facilitation of A[delta]-fiber-mediated acute pain by repetitive transcranial magnetic stimulation

Neurology 62(12) : 2176-2181, 2004

TAMURA Yohei, **HOSHIYAMA Minoru**, INUI Kouji, NAKATA Hideaki, WASAKA Toshinori, KAKIGI Ryusuke

Cognitive processes in two-point discrimination : an ERP study

Clin Neurophysiol 115(8) : 1875-1884, 2004

NGUYEN Binh Thi, TRAN Tuan Diep, **HOSHIYAMA Minoru**, Inui Kouji, KAKIGI Ryusuke

Face representation in the human primary somatosensory cortex

Neurosci Res 50(2) : 227-232, 2004

KAKIGI Ryusuke, Inui Kouji, TRAN Tuan Diep, QUI Tung Hai, Wang Xiaong, WATANABE Shokio, **HOSHIYAMA Minoru**

Human brain processing and central mechanisms of pain as observed by electro- and magneto-encephalography
J Chin Med Assoc 67(8) : 377-386, 2004

寶珠山稔, 柿木隆介

正中神経刺激による体性感覚誘発電位の Recovery function—短時間 Interstimulus interval での検討—
臨床脳波 46 : 424-429, 2004

軍司敦子, 柿木隆介, **寶珠山稔**

調音をともなう発声時のヒト脳磁場反応
臨床脳波 46(8) : 487-491, 2004

HATTA Takeshi, MASUI Tetsuo, ITO Yasuhiro, **ITO Emi**, HASEGAWA Yukiharu, MATSUYAMA Yukihiro

Relation between the prefrontal cortex and cerebro-cerebellar functions : evidence from the results of stabilometrical indexes

Appl Neuropsychol 11 : 153-160, 2004

八田武志, **伊藤恵美**, 増井徹男, 伊藤保弘, 永原直子, 渡辺はま, 川口 潤, 松山幸弘, 長谷川幸治

中高年者の高次脳機能と筋運動機能に関する神経心理学的研究—八雲プロジェクト第1報：文字流暢性検査, Stroop 検査と重心動揺の結果から—
情報文化研究 1 : 97-107, 2004

伊藤恵美, 八田武志, 伊藤保弘, 木暮照正, 渡辺はま

健常成人の言語流暢性検査の結果について—生成語数と年齢・教育歴・性別の影響—
神経心理学 20 : 254-263, 2004

美和千尋, 岩瀬 敏, 小出陽子, 河原ゆう子

日常生活における血圧, 心拍数, 環境温の変化
愛知作業療法 12 : 3-5, 2004

河原ゆう子, 齋藤輝幸, 久野 覚, 岩瀬 敏, **美和千尋**

冬期入浴中の主観申告と生理学的指標との関係
人間と生活環境 11(1) : 9-16, 2004

美和千尋, 河原ゆう子, 岩瀬 敏, 渡邊順子

全身浴, 半身浴, シャワー浴がエネルギー消費量に及ぼす影響
自律神経 41(5) : 495-501, 2004

森 明子, 齋藤さわ子, 杉村公也

痴呆性高齢者グループホームにおける作業療法評価の試み-AMPS を用いて—
作業療法 23 : 64-72, 2004

向 文緒

知的障害児に対する虐待予防における作業療法的介入の可能性の検討
金城学院大学大学院人間生活学研究科論集 4 : 87-88, 2004

向 文緒

療育を受けていない経度発達障害児の親の育児ストレスと育児支援に対するニーズ—保育園児や療育施設の児の親との比較—
作業療法 23 (suppl) : 379, 2004

白石成明, 水谷智恵美, 毛受雅文, 出口 晃, 高瀬幸次郎, 浜口 均, 川村陽一, 鈴木重行, **杉村公也**
ADL 変化に対する回復期リハビリテーション病棟の有用性
日本老年医学会雑誌 41 : 646-652, 2004

諏訪真美, 小河原尚泰, 西岡和郎, **鈴木國文**
「ひきこもり」と自称して受診した女性症例
精神科治療学 19 : 395-402, 2004

浅野美穂子, 木村 卓, 大饗広之, 西岡和郎, **鈴木國文**
人格障害との comorbidity が疑われた「うつ病」の一例
精神科治療学 19 : 1103-1042, 2004

魚谷博基, 大饗広之, 西岡和郎, 浅野美穂子, 木村 卓, **鈴木國文**
統合失調症か解離性障害か—診断に迷った一例—
精神科治療学 19 : 1495-11500, 2004

杉村和美, 鶴田和美, 加藤容子, 船津静代, 津田 均, 赤堀薫子, 小川豊昭, **鈴木國文**
名古屋大学における学生が学生を支えるしくみ
名古屋大学学生相談総合センター紀要 4 : 3-14, 2004

〔総説・解説・その他〕

杉村公也

老年痴呆のリハビリテーション
健康文化 39 : 9-12, 2004

鈴木國文

アスペルガー症候群—思春期以降の対応, 特集にあたって
精神科治療学 19 : 1053-10541, 2004

[科研費・班研究等]

清水英樹, 杉村公也, 美和千尋, 宝珠山稔, 伊藤恵美, 森 明子

スモンの運動障害とその対策

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)スモンに関する調査研究班 スモンの過去・現在・未来―「平成14年度スモンの集い」から―(松岡幸彦) pp 52-63, 2004

祖父江元, 服部直樹, 小池春樹, 池田修一, 寺沢捷年, 林 正男, 栗山 勝, 渡辺幸夫, 溝口功一, 鷺見幸彦, 杉村公也, 松本一年, 氏平高敏, 宮田和明, 小長谷正明, 松岡幸彦

平成15年度中部地区スモン患者の実態

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)スモンに関する調査研究班平成15年度総括・分担研究報告書(班長:松尾区幸彦) pp 37-39, 2004

杉村公也, 森 明子, 清水英樹, 伊藤恵美, 美和千尋, 宝珠山稔

スモンにおける訪問リハビリテーションシステムの確立に関する研究(II)―モデルケースでの検討―

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)スモンに関する調査研究班平成15年度総括・分担研究報告書(班長:松尾区幸彦) pp 102-105, 2004

杉村公也

在宅療養におけるスモン患者の問題点とその対策

『スモンの過去・現在・未来(II)』(松岡幸彦)厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)スモンに関する調査研究班, 2004. pp 74-79

[学会発表]

HARA Kazuko, HOHSHIYAMA Minoru, WATANABE Takashi

Preliminary examination for development to removable assistance spare chair for car (Proceedings p56, 2004)

The 11th world congress of the international society for prosthetics and orthotics, 2004.8 (Hong Kong, China)

HARA Kazuko, NOGUCHI Hiromi

Influence of service dogs on re-construction of recipient's capacities (Abstract p 119 2004)

10th international conference on human-animal interactions, 2004.10 (Glasgow, UK)

高柳泰世, 高柳哲也, 坂部 司, 原 和子, 石田 隆, 河合信行

網膜色素変性症患者の補装具の開発(抄録集, p 2, 2004)

第14回日本リハビリテーション医学会中部/東海地方会, 2004.1 (名古屋)

宮前珠子, 田丸あき子, 中路純子, 建木 健, 原 和子, 山崎せつ子, 澤田辰徳

PBL 教育入門から現在の取り組みまで(抄録集, p 12, 2004)

第9回日本作業療法教育学会集會, 2004.10 (秋田)

原 和子, 高柳友子, 吉田 文, 林 純子, 窪田高志, 野口裕美

身体障害者補助犬法施行後の介助犬使用者と作業療法(作業療法 第23巻特別号 p 666, 2004)

第38回日本作業療法学会, 2004.5 (長野)

宮前珠子, 田丸あき子, 中路純子, 建木 健, 原 和子, 山崎せつ子, 澤田辰徳

PBL 教育入門から現在の取り組みまで (抄録集 p 12, 2004)

第9回日本作業療法教育学会, 2004.10 (秋田)

寶珠山稔

正中神経反復刺激による体性感覚誘発脳磁界の変化

第45日本神経学会総会, 2003.5 (東京)

ITO Emi, HATTA Takeshi, HASEGAWA Yukiharu

Effect of cognitive activities for older adults (抄録集 p 184)

20th International conference of Alzheimer's Diseases International, 2004.10 (Kyoto)

白石成明, 美和千尋, 出口 晃, 鈴木恵理, 毛受雅文, 浜口 均, 杉村公也, 川村憲一, 川村陽一

若年者と高齢者における足浴時の鼓膜温, 皮膚血流量の変化 (第69回日本温泉気候物理医学会総会プログラム・講演要旨, p 25, 2004)

第69回日本温泉気候物理医学会総会, 2004.5 (鹿児島)

美和千尋, 白石成明, 杉村公也, 川村陽一, 出口 晃, 毛受雅文, 鈴木恵理, 浜口 均

足浴が片麻痺患者における麻痺側と健側の鼓膜温, 皮膚血流量, 発汗に及ぼす影響 (プログラム・講演要旨, p 26, 2004)

第69回日本温泉気候物理医学会総会, 2004.5 (鹿児島)

林 昌吾, 立松麻記子, 美和千尋

統合失調症患者の急性期における生理機能の回復と OT 導入時期との関連性の検討 (東海北陸作業療法学会誌, p 77, 2004)

第4回東海北陸作業療法学会, 2004.11 (福井)

白石成明, 美和千尋, 出口 晃, 鈴木恵理, 毛受雅文, 浜口 均, 杉村公也, 川村憲一, 川村陽一

若年者と高齢者における足浴時の鼓膜温, 皮膚血流量の変化 (プログラム・講演要旨, p 25, 2004)

第69回日本温泉気候物理医学会総会, 2004.5 (鹿児島)

美和千尋, 白石成明, 杉村公也, 川村陽一, 出口 晃, 毛受雅文, 鈴木恵理, 浜口 均

足浴が片麻痺患者における麻痺側と健側の鼓膜温, 皮膚血流量, 発汗に及ぼす影響 (プログラム・講演要旨, p 26, 2004)

第69回日本温泉気候物理医学会総会, 2004.5 (鹿児島)

美和千尋, 宗像紗千子

作業課題の繰り返しが自律神経系に及ぼす影響 (東海北陸作業療法学会誌, p 47, 2004)

第4回東海北陸作業療法学会, 2004.11 (福井)

林 昌吾, 立松麻記子, 美和千尋

統合失調症患者の急性期における生理機能の回復と OT 導入時期との関連性の検討 (東海北陸作業療法学会誌, p 77, 2004)

第4回東海北陸作業療法学会, 2004.11 (福井)

MORI Akiko, KIJIMA Syuji, KOJIMA Megumi, AOYAMA Mie, UETE Atsushi, MIWA Kikuko, UMEMOTO Mithuko, ENDO Hidetoshi

Revetive approach in long term care using reminisnence methrhod (Abstracts p 230, 2004)
20th International Conference of Alzheimer's Disease International Kyoto 2004, 2004.10 (京都)

向 文緒

療育を受けていない軽度障害児の親の育児ストレスと育児支援に対するニーズ—保育園児や療育施設の児の親との比較— (作業療法 p 379, 2004)
第38回日本作業療法学会, 2004.5 (長野)

ITO Hiroshi, SHIRAIISHI Tomoko, **SHIMIZU Hideki**, YAMAMOTO Yuji, SAITO Hirofumi

Effect of binding processing of neighboring postures on the memory span for pictures of a human posture
(Proceedings p 1006, 2004)
28th International Congress of Psychology, 2004.8 (Beijing, China)

井藤寛志, 白石知子, **清水英樹**, 山本裕二, 齋藤洋典

行為の理解に関する研究 (II) 姿勢画像の再認記憶における近赤外分光法 (NIRS) を用いた検討 (発表論文集, p 420, 2004)
日本心理学会第68回大会, 2004.9 (東京)

鶴田あすか, 谷口法明, **清水英樹**

訓練場面と病棟場面に生じる ADL 自立度の差—高次脳機能障害を有する患者の更衣動作を中心に— (抄録集 p 456, 2004)
リハビリテーション・ケア合同研究会 北九州2004, 2004.10 (北九州)

井藤寛志, 白石知子, **清水英樹**, 山本裕二, 齋藤洋典

行為の理解に関する研究 (II) 姿勢画像の再認記憶における近赤外分光法 (NIRS) を用いた検討 (発表論文集 p 420, 2004)
日本心理学会第68回大会, 2004.9 (東京)

齋藤莊史, 金子恵巳, 梶浦昭二, **清水英樹**

当院における転倒の状況分析—介助者のいる状況で発生する転倒への対応— (抄録集 p 331, 2004)
リハビリテーション・ケア合同研究会 北九州2004, 2004.10 (北九州)

鶴田あすか, 谷口法明, **清水英樹**

訓練場面と病棟場面に生じる ADL 自立度の差—高次脳機能障害を有する患者の更衣動作を中心に— (抄録集 p 456, 2004)
リハビリテーション・ケア合同研究会 北九州2004, 2004.10 (北九州)

鈴木國文

成人の精神医学とアスペルガー症候群—統合失調症前駆期の病理との対比を中心に
第45回日本児童青年期精神医学会総会, 2004.11 (名古屋)

〔公開講座・講演会〕

原 和子

介助犬と作業療法（資料集 pp 19-24, 2004）

平成15年度介助犬訓練者研修会（国立身体障害者センター），2004.2（埼玉）

原 和子

補助犬の育成に関わる補助犬法に基づく医療との連携—介助犬と作業療法—（資料集 pp 113-118）

平成16年度介助犬・聴導犬訓練者研修会（国立身体障害者センター），2005.3（埼玉）

向 文緒

症例研究 2

平成16年度愛知県作業療法士会新人教育プログラム，2004.11（名古屋）

編集後記

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報第8巻を発刊しました。平成16年度（2004年1月から12月）の各専攻の教官の教育・研究業績が掲載されています。

	第1巻 (1997年)	第2巻 (1998年)	第3巻 (1999年)	第4巻 (2000年)	第5巻 (2001年)	第6巻 (2002年)	第7巻 (2003年)	第8巻 (2004年)
著書	17	39	55	56	38	33	74	70
原著論文	58	123	141	163	137	175	138	156
総説・解説・その他	64	61	92	106	58	76	81	39
科研費・班研究等	6	12	10	26	23	19	28	27
その他印刷物等	10	14	26	18	13	9	20	20
学会発表	115	173	252	268	246	287	341	376
公開講座・講演会	45	73	96	102	70	72	86	99
計	315	495	672	739	585	671	768	787

来年度より電子媒体による公開が始まり、年報第8巻は冊子の形で年報が発行される最後の年報となる可能性があります。インターネット上では、第1巻から公開の予定で、本学科における業績の参照がより便利になると期待されます。

2004年度は、新しく大学院博士課程（後期）が開設され、従来の国立大学が、国立大学法人に組織替えをおこなって大学として独り立ちした年です。本学科においては、初めて博士課程の学生を迎え教育・研究環境が大きく舵を切った年です。本学科の構成員の教育・研究業績がインターネットに公開されるとともに、本学科に対する社会的評価の目が厳しくなることと思われます。これから本学科に入学してくる高校生、他大学、病院、企業、官公署などの関係者の方々に我々の仕事の一部が公表されることとなります。本年報が、自己評価の一指標となり、教育・研究のさらなる充実の手助けとなることを願っています。

最後に、今回の教育・研究年報の編集に携わっていただいた保健学情報掛の職員の皆様に感謝の念を表したいと思います。

平成18年2月9日
年報編集委員長 前田尚利

年報編集委員

看護学専攻	神里みどり
放射線技術科学専攻	前田尚利
検査技術科学専攻	長瀬文彦
理学療法学専攻	加藤智香子
作業療法学専攻	加賀谷一

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報 第8巻

2006年3月15日 発行

発行 名古屋大学医学部保健学科

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

TEL(052)719-1504

印刷 (株)荒川印刷

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目16番38号

TEL(052)262-1006 (代表)
